

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕 （経営者）	・今後については、冬の観光シーズンを迎えて、インバウンドの増加が見込まれる。東南アジアを中心に、前年の1.5倍のインバウンドが訪れるという見込みもあることから、インバウンドの購買力が景気を下支えすることになる。
	○	商店街（代表者）	・年末までに、ガソリンの暫定税率廃止や今後の景気回復の見通しが示されることになれば、景気は上向くことになる。
	○	百貨店（販売促進担当）	・年末にかけて、旅客機の発着数が過去最高になるとの見通しがあることから、今後、インバウンドの増加が見込まれる。以前ほどの購入単価は期待できないものの、来客数の増加によるかさ上げを期待できるため、年末年始の売上増加が見込まれる。
	○	スーパー（店長）	・新政権の発足により、先行きにどのような変化が生じるかは分からない。ただし、景気を左右するような大きな要因も見当たらないため、今後しばらくは様子見の状態が続くことになる。
	○	スーパー（店長）	・新政権が発足したことで、ガソリンの暫定税率の廃止も含め、これからいろいろなことが変わることになる。今後の見通しがどうなるかは分からないものの、多少は景気が回復することになる。
	○	スーパー（企画担当）	・新政権が発足し、経済対策への期待が高まることで、消費者マインドにプラスの影響が出てくることになる。ブラックフライデー、クリスマス、年末商戦において、消費が活発になると期待している。
	○	コンビニ（エリア担当）	・10月の販売量の動きが悪すぎたことから、今後、ここまで景気が悪くなることはないと思込まれる。現状、ある大手メーカーの商品の納品が滞っているものの、それが改善すれば、販売量も上向くことになる。
	○	衣料品専門店（店長）	・外周りの営業職の来店が数年ぶりに増えている。これまで買い控えていた分の買換え需要もあるのかもしれないが、財布のひもが緩んできた様子が見えるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・新型車が発売されることで、買い控えが緩和され、注文につながると期待している。
	○	乗用車販売店（従業員）	・ガソリンの税率が改正されることで、客の購入意欲が多少回復することを期待している。現在はハイブリッド車が主流であるが、車種によっては、ガソリン車のニーズも高いため、購入につながると見込まれる。
	○	観光型ホテル（スタッフ）	・冬場に向けて、インバウンドを中心に、観光需要が増えることが期待される。
	○	旅行代理店（従業員）	・冬季の観光繁忙期を迎えるため、観光需要の増加が見込まれる。特に国際線は、12月からオーストラリアとの直行便が再開することあつて、就航便数が前年よりも増えると見込まれる。そのため、冬季アクティビティを中心に、観光地の活性化が期待される。
	○	旅行代理店（従業員）	・新首相の経済対策により、今後、経済成長や賃上げが進むことで、国民の可処分所得が増え、国内旅行及び海外旅行の需要を大きく押し上げることを期待している。観光産業全体が活性化し、地域経済にも好循環をもたらすことを期待している。
	○	タクシー運転手	・例年、寒くなり、雪の降る時期を迎えると、タクシーの利用が増えるため、売上は増えることになる。これまでの状況から、前年を大きく上回る売上となることを期待している。
	○	タクシー運転手	・新政権の経済対策への期待感が高まっていることから、今後、実体経済も回復すると見込んでいる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	観光名所（従業員）	・ 当地の観光入込は、インバウンドを主軸に好調に推移しており、今後も好調が続くと見込まれる。さらに、アジア圏の観光客に人気のある冬季観光が始まること、国際線チャーター便が前年よりも増便されることから、これらのプラス要因が景気を一段と上向かせることが期待できる。
	○	観光名所（職員）	・ 新政権が発足したことで、状況が好転することを期待している。
	○	住宅販売会社（経営者）	・ 新政権が発足して、住宅分野における経済対策が打ち出されることを期待している。
	□	商店街（代表者）	・ ここ数年、客の外出控え、買い控えが浸透していることで、売上が減少傾向にある。特に若年層は、カラオケなどの遊興施設に出掛けることもなく、買物をオンラインで済ませることがほとんどであることから、今後、来客数や売上が伸びるような要素が見当たらない。
	□	商店街（代表者）	・ 免税品の国別推移を見ると、台湾が好調なほか、これまで余り利用のなかった東南アジアの国や欧米系の利用も順調に増えている。このため、これから雪のシーズンを迎え、売上が好調に推移することを期待している。
	□	一般小売店（経営者）	・ 新政権による政策の効果を期待している。ただし、政策がスピーディーに実行されないと、景気は変わらない。
	□	百貨店（売場主任）	・ 政権交代の影響や物価上昇など、先行きについて、不透明な要素が多いため、今後も景気は変わらない。
	□	スーパー（店長）	・ 新政権が発足したが、即効性のある経済対策が打ち出されるかは分からないため、今後も景気は変わらない。
	□	コンビニ（エリア担当）	・ 食品への支出を減らすことには限界があるため、これ以上、来客数を減らさないように対策することで、ある程度の水準で落ち込みは止まることになる。
	□	家電量販店（経営者）	・ 景気が良くなるような要素がないため、今後も景気は変わらない。
	□	乗用車販売店（経営者）	・ 工場の入庫対象の車が多いこと、新型車発売などのプラス材料はあるものの、物価高の影響が払拭できないことから、今後の客の購買意欲低下が懸念される。そのため、今後も景気は変わらない。
	□	乗用車販売店（従業員）	・ 今は新型車が少なく、以前のような金利面での施策もないため、これから年末にかけて、売上を伸ばすことは難しい。年が明けて、新春効果などが出てくることを期待している。
	□	乗用車販売店（従業員）	・ 車の価格が高騰していることで、乗換えを選ばずに、長く乗る傾向が強まっているため、今後も景気は変わらない。
	□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・ 今後については、ガソリンや軽油の暫定税率廃止の時期、灯油価格に与える影響などによって、景気に変化することになる。
	□	高級レストラン（スタッフ）	・ 12月は繁忙期であるものの、例年と比べて、特に大きなイベントなども予定されていないため、過去最高の売上で推移している状況は、今後も変わらない。
	□	スナック（経営者）	・ 今後も景気は変わらない。世間の動きが少しでも上向いてこない限り、客の外出機会が増えることはなく、新規客の来店が増えることも考えにくい。ただし、新首相が国のために一生懸命働いていることから、少しは景気が良くなることを期待している。
	□	旅行代理店（従業員）	・ 国内の政治情勢が転換期に入っていることで、今後の景気が上向くことを期待している。ただし、具体的な経済対策はこれから行われることになるため、景気が上向くのはもう少し先のことになる。
	□	タクシー運転手	・ 冬になり、雪が降ることで、タクシーの利用は増えることになる。ただし、イベント関連及び観光客の予約状況や問合せ件数が前年並みにとどまっていることから、景気は横ばいでの推移となる。
	□	通信会社（企画担当）	・ 競合他社への流出防止に経営資源を集中させることで、前年並みの販売量となることが期待できる。
	□	美容室（経営者）	・ ここ3か月、売上が安定しており、この先の不確定要素もないことから、景気は変わらないまま推移する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	住宅販売会社（経営者）	・建築価格の高騰で、今後の分譲価格が一段と上昇するとみられるため、客が付いてくることのできるか心配している。一方、分譲マンションの購入客についてみると、全体的に所得が上昇している。また、首都圏からの購入者が増加していること、別荘として利用する客もみられ始めていることから、今後に向けて、期待を持てる部分もある。これらのことから、分譲マンション市場については、一進一退の状況が続くことになる。
	□	住宅販売会社（従業員）	・依然として、資材価格など的高騰が続いていることから、消費者マインドが回復するまで時間が掛かるとみられる。
	▲	商店街（代表者）	・米国大統領が来日し、どのような発言をするのか、政府がどのような行動を起こすのかに注目している。ただし、景気が良い方向に進むのか、悪い方向に進むのかは判断できない。
	▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・売上は僅かに増加している。観光客は、相変わらず東南アジアからの客が主流である。欧米人も増加しているが、余り金を使わない。一方、国内観光客は減少したままである。物価高が続いていることで国内景気が良くないことがうかがえる。地元客からは、米国の関税に関する話も聞こえてくることから、国内経済が持ちこたえることができるのか心配である。
	▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	・10月の状況から、今後の景気はやや悪くなる。景気が急回復することも考えにくい。
	▲	スーパー（店長）	・先行きへの不透明感が拭えないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	スーパー（企画担当）	・株価が史上初の5万円台を達成したものの、米の価格の高止まりに象徴される食料品価格の上昇、実質賃金の継続的なマイナスなどから、家計へのプラス材料は乏しい。そのため、今後の消費者心理の好転は余り期待できない。
	▲	スーパー（役員）	・最低賃金の引上げ分や人件費の上昇分を吸収するには、商品の価格を上げるしかない。商品が値上がりすることで、客の節約志向が一層強まることになる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・北海道は冬場の光熱費の負担が大きいと、値上げが家計に大きく響くことになり、客の財布のひもがますます固くなる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・海岸沿いの街であるため、今後については、不漁の影響が強く現れることになる。年末に需要が高まる酒類などに大きな影響が出てくる懸念される。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・新首相のこれまでの発言を踏まえると、一層の円安となる可能性があるため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	衣料品専門店（エリア担当）	・今のところ、具体的な物価高対策が打ち出されているわけではないため、特に衣料品については、必要な物を必要なときに必要な分だけ買うという行動は変わらないとみられる。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	家電量販店（店員）	・大型暖房機の売行きは良いものの、需要がそこまで長く続かないことから、年末の販売量が思うように伸びないことが懸念される。
	▲	自動車備品販売店（店長）	・物価高、暖房費の高騰などが続いている一方で、所得には変化がみられないことから、景気が良くなるとは考えにくい。
	▲	住関連専門店（役員）	・米などの食料品の価格が高止まりしていることから、今後も節約志向が続くとみられる。そのため、この先の景気はますます悪くなる。
	▲	その他専門店〔造花〕（店長）	・物価高の影響もあって、商品アイテムの絶対数が減っている。また、商品の質も、低価格材料の使用により落ちてきていることがある。現状の商品では、客が購買するまでのアプローチに強みを持たないため、今後も厳しい状況が続くことになる。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	・国内情勢や世界情勢がころころ変わるため、外食産業の動向を読みにくい状況にある。インバウンドが多い限り、ある程度の波及効果は出てくるとみられるが、景気が大きく上向くことは考えにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	観光型ホテル（経営者）	・物価高騰が止まらず、レジャー支出が抑えられていることから、特に国内客の予約数が伸びていない。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	旅行代理店（従業員）	・農作物の不作の影響が今後も続くことが懸念される。また、円安傾向も改善されないことから、海外旅行需要にも期待できない。
	▲	タクシー運転手	・乗務員不足が顕著であり、車両の稼働台数を維持できていないため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	美容室（経営者）	・客の節約意識が高まっており、今後の売上が増加するような雰囲気を感じられない。特に年金生活者は節約志向が強いことから、厳しい状況が見込まれる。
	▲	美容室（経営者）	・今後の景気はやや悪くなる。ただし、新政権が発足したことで、中小企業に対して効果的な景気対策が打ち出されることを期待している。
	×	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・季節要因ではあるが、フェリーの欠航回数が増えると思込まれるため、今後の景気は悪くなる。利用客の中心となる観光客が減少するとみられることもマイナスである。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	建設業（役員）	・今後について、降雪状況次第の面はあるが、このまま安定した天候が続くことになれば、更なる工期短縮が可能となり、工事利益面でプラスに働くことになる。また、完工間近の追加工事による利益積み増しも期待できる。新政権が、物価高対策と積極財政、労働時間の上限規制の見直しに動いていることは、業界としては歓迎であり、一連の政策がマインド向上につながることを期待している。
	○	輸送業（支店長）	・例年のことだが、雪が降る前と年末に駆け込み需要が生じるため、それらの動向に期待している。
	○	広告代理店（従業員）	・新政権での金融緩和、財政出動が期待できそうなことから、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・人手不足問題などはあるものの、国内全体の建設投資は引き続き堅調に推移すると期待できる。
	□	農林水産業（経営者）	・青果物の高温障害は、現時点で既に深刻な状況であり、来春まで改善は見込めないことから、今後の景気は横ばいでの推移となる。
	□	食料品製造業（従業員）	・今以上に販売量が増えるような見込みが、現時点ではないことから、今後も景気は変わらない。
	□	食料品製造業（従業員）	・今年4月の価格改定後、販売量が前年を上回ったり、下回ったり、安定していない状況にある。10月は前年並みであったものの、この先の景気については不透明である。
	□	食料品製造業（従業員）	・季節要因による変動は考えられるものの、全体的にはインバウンドの動向に左右されることになる。一方、インバウンドの動向は、空港の受入れ体制などもかかわってくることになる。受入れ体制が短期間で大きく変わることはないと思込まれるため、今後も景気は変わらない。
	□	金属製品製造業（従業員）	・人口減少が当初の予想よりも早まっている。少子高齢化も進んでいることから、今後の新築住宅は減少傾向で推移することになる。
	□	建設業（従業員）	・人材不足はすぐに解消できる問題ではないため、今後しばらくは現状の傾向が続くことになる。
	□	金融業（従業員）	・国の物価高対策に期待しているものの、為替が円安方向に振れていることから、輸入物価や企業物価の上昇による物価高が今後も続くことが懸念される。
	□	司法書士	・相続登記業務は引き続き堅調に推移している。企業の不動産取引の引き合いも続いている。このため、今後の景気としては、今と同様の状況が続くことになる。
	▲	建設業（経営者）	・時期的に、新規の受注はかなり減少することになる。手持ち工事については、冬季を迎え、生産性が大きく落ち、採算性が悪くなるが見込まれる。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・新首相が積極財政を重視する方針であることから、今後の減税や物価高対策に期待したい。ただし、今のところは、どうなるかは分からず、効果が出るとしてもしばらく先とみられることから、今後の景気はやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・継続案件がなくなる可能性は低いものの、新規案件が出てこないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・今後の仕事状況について、少しずつ悪くなるとの見込みを聞くことが増えている。一方、規模の大きな工事などの情報を聞くこともあるが、仕事の忙しさが2極化しているため、全体的には不安の残る状況となっている。以前のように、残業して仕事をこなすことが難しくなっていることから、最終的には多方面に仕事を振り分けることが必須になるとみられる。
	×	—	—
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・当地を舞台にした国民的ドラマの再放送が話題となっており、ゆかりの地を訪れる観光客の増加を期待している。地域の観光消費にも一定のプラス効果が見込まれる。
	□	人材派遣会社（社員）	・求人数は引き続き増加傾向で推移する。企業は、業績が持ち直しているうちに人員を増員し、売上増加につなげたいようにみえる。一方、人材側は、12月のボーナスを見込んで、しばらく転職活動を控えるものとみられる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・国の物価高対策に期待したい。ただし、よほどのことがない限り、状況は変わらない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・首相が変わり、新たな経済対策が打ち出されることで、景気回復につながることを期待したい。ただし、具体的な政策が始まるまでに、どの程度の効果が出て、その効果がいつまで続くのかは不透明である。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数が増加に転じたものの、減少要因が継続していることから、求人数の増加は一時的なものである可能性が高い。景気が回復に転じたとまではいえないため、今後も横ばいのまま推移する。
	□	職業安定所（職員）	・当地の9月の新規求人数は前年を0.8%上回り、3か月ぶりの増加となった。一方、月間有効求人数は3か月連続で前年を下回った。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることが懸念される。
	□	職業安定所（職員）	・企業において、人手不足で思うように受注できない状態が、今後も続くともみられるため、景気は横ばいでの推移となる。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・マッチングがうまくいかず、採用につながらないケースが多くみられることから、今後も景気は変わらないまま推移する。
	▲	*	*
	×	—	—

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)	◎	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・年末年始は売上が伸びる時期である。さらに、今年は国政選挙も地方選挙も終わり非常に落ち着いた状態になるため、多くの人が夜の街に繰り出すとみている。
	◎	観光名所（職員）	・12月から鉄道会社のキャンペーンが始まるため、来客数の増加に期待している。
	◎	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・日米首脳会談も無事終わり、年末にかけての懸念材料がない。
	○	商店街（代表者）	・クリスマス商戦、年末年始商戦を迎える。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・酒の需要が多くなるため、販売量の増加が期待できる。
	○	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・値上がりの影響はあるものの、客は必要な物は購入している。やや良い状況はしばらく続くとみている。
	○	百貨店（経営者）	・気温が低く、季節商材は計画どおりの稼動が見込めそうである。
	○	スーパー（店長）	・来客数が増加していることに加え、値上げにより客単価が上がっているため、景気はやや良くなるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	コンビニ（エリア担当）	・クリスマスや年末年始で人の動きは活発になる。しかし、10月から人件費が上がっているため、今以上に売上を上げなければ厳しい状況になる。
	○	家電量販店（従業員）	・パソコンは好調が続くとみている。また、気温の低下により、暖房器具の動きも良くなるとみている。
	○	家電量販店（従業員）	・10月10日頃から気温が大きく下がり始め、季節商材の売上が前年に追い付いてきている。このまま気温の低下が進めば灯油暖房だけでなく、寒冷地エアコンの販売台数増加や単価上昇が見込める。パソコンの買換え需要も年末にかけてなだらかに収束していくため、更なる販売実績の増加につながるとみている。景気はやや良くなるとみている。
	○	乗用車販売店（従業員）	・降雪量によっては影響が出るとみているが、年末にかけてのメーカー施策や初売りで目玉になる車種など仕入れ車の在庫状況は悪くない。
	○	乗用車販売店（従業員）	・新型車の発売と初売りが始まる。
	○	住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・新政権に期待している。
	○	その他専門店〔靴〕（経営者）	・降雪量は平年並みか多くなるとの長期予報が出ているため、冬物商材の需要は例年並みであるとみている。
	○	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・寒くなり配達灯油の販売も増えている。このまま寒さが厳しくなれば販売量の増加が期待できる。
	○	一般レストラン（経営者）	・宴会シーズンに入り鍋料理を出すようになるため、今月よりやや良くなるとみている。
	○	観光型旅館（スタッフ）	・新政権に期待している。年末年始で少し財布のひもも緩み、そのまま好転することを期待したい。
	○	都市型ホテル（支配人）	・雪のシーズンのインバウンドの先行予約が好調である。
	○	旅行代理店（従業員）	・当社契約宿泊施設の先行販売額は、前年同期をやや上回っている。
	○	旅行代理店（従業員）	・2月はインバウンドの増加が期待できる。景気の押し上げにつながることを願っている。
	○	通信会社（経営者）	・年末年始に向けてコンテンツが充実するため、加入者数の増加が期待できる。また、11月からサービスエリアが拡大するため、12月に実施する加入促進キャンペーンの効果も期待できる。
	○	通信会社（営業担当）	・政府の物価対策の効果が出てくることを期待する。
	○	通信会社（営業担当）	・政権が変わったため、やや良くなるとみている。
	○	通信会社（営業担当）	・年末にかけて景気は良くなるとみている。
	○	観光名所（職員）	・来客数は安定しており、2～3か月先までの予約状況を見ても、前年同期より多くなっている。景気が良い状況は続くとみている。
	○	ゴルフ場（支配人）	・前向きな政策が実施されることに期待感を持っている。
	○	競艇場（職員）	・来場促進イベントを計画しており、年末に向けて売上は良くなるとみている。
	○	美容室（経営者）	・政府の物価高対策の概要がようやく出始めている。国民の消費活性化に期待したい。
	○	設計事務所（経営者）	・来年発注される業務の前準備が計画どおりに進んでいる。
	□	商店街（代表者）	・株価は上がっているようだが、購買行動は変わらない。
	□	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・新政権は積極的に財政支出を増やしていくとみられ、物価上昇は続きそうである。
	□	一般小売店〔寝具〕（経営者）	・景気が良くなる要因が見当たらない。低迷状態が続くとみている。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・お歳暮商戦や忘年会シーズンの需要に期待したい。しかし、寒くなり暖房や除雪などの費用負担を強いられる。また、更なる物価上昇や大手飲料メーカーへのサイバー攻撃による商品の品薄等の影響が懸念される。
	□	一般小売店〔スポーツ用品〕（店員）	・本格的な冬になることで来客数や販売数に影響するとみている。冬の新作モデルの発表に期待をしたい。
	□	百貨店（企画担当）	・物価高の影響もあり、厳しい状況が続いている。景気回復の見込みもないことから、変わらないとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	百貨店（経営者）	・物価高対策が発信されない限り消費マインドは改善しない。年末年始は様々なイベントを実施し、消費喚起を図っていく。
	☐	百貨店（従業員）	・賃上げなどによる消費マインドの回復を期待したいが、物価高が改善されるとは考えられず、生活防衛意識は続くともっている。
	☐	スーパー（経営者）	・新政権の物価高対策やガソリン税の暫定税率廃止などによる消費拡大に期待したいが、効果が出るまでに時間が掛かる。株価上昇による資産価値の高まりやインバウンド効果で消費が拡大することも期待されるが一部にとどまる。実質賃金の前年割れが続き、可処分所得が増えていない状況では、消費環境の厳しさは続くともみられる。政府と地方自治体の速やかな予算執行に期待したい。
	☐	スーパー（店長）	・燃料価格が値下がりする話も出ているが、実現するにしてもまだ時間が掛かる。
	☐	スーパー（店長）	・冬に向かって電気・燃料コストが上昇していくなか、節約志向は更に強まることが予想される。
	☐	スーパー（企画担当）	・収入が増えない限り、客の購買意欲は回復しない。
	☐	スーパー（商品担当）	・実質賃金が増えなければ、現状の買い控えや節約傾向は続くともっている。
	☐	スーパー（業務担当）	・新政権が発足し、政策への期待はあるものの、景気に反映されるまでに時間が掛かるとみている。
	☐	スーパー（店舗運営）	・コスト増加による商品の値上がりは今後も続き、買い控えも継続する。
	☐	コンビニ（経営者）	・物価高のなか、地方では賃金が上らず生活が厳しいのが現状であり、2～3か月後も変わらない。
	☐	コンビニ（経営者）	・最低賃金引上げでどのような影響が出るか分からない。
	☐	コンビニ（経営者）	・良くなる要素は見当たらない。販売量の微減は当面続くともっている。
	☐	コンビニ（経営者）	・来客数の増加が見込めず、景気は変わらないとみている。
	☐	コンビニ（エリア担当）	・他社の出店など懸念材料はあるが、客単価の上昇による売上の増加は続くともっている。
	☐	コンビニ（店長）	・値上げ品目が増えるなか、販売量が増える見込みはない。
	☐	コンビニ（店長）	・首相の交代により景気が良くなるか、注視していきたい。
	☐	衣料品専門店（経営者）	・行楽シーズンだが、熊の出没騒動で県内観光客が減り、土産品等の売上も減少している。
	☐	衣料品専門店（店長）	・残暑が長引いたことで秋物が出遅れるなど天候要因による消費者マインドの低下がみられる。天候が例年並みであれば、売上は安定するとみている。
	☐	衣料品専門店（店長）	・旅行や出張用途といったモチベーションと連動したニーズは多くなっている。しかし、一般客においては天候や気温に左右される要素が強いため不安定である。
	☐	衣料品専門店（店長）	・物価高の影響は徐々に大きくなっており、景気は少しずつ後退している。お直しをして着続ける客が増加しており、買い控えが進んでいる。
	☐	衣料品専門店（総務担当）	・物価上昇のなか、今後も買い控えは続くともっている。
	☐	乗用車販売店（従業員）	・新型車の販売量が伸びていない。今後もこの状況は変わらないとみている。
	☐	乗用車販売店（従業員）	・タイヤ交換の時期が近づきサービス入庫は増加するが、売上は伸び悩む。新車の配車が現状どおりであれば、収益は余り期待できない。
	☐	乗用車販売店（従業員）	・新規客を含めて来客数はそれなりにあるが、車両の販売台数が低調である。この先も最低限の販売量は確保できるとみているが、増加は見込めない。
	☐	乗用車販売店（店長）	・車両販売は回復の兆しがあるものの、冬タイヤなど値上げをした季節商材の販売やサービス入庫は依然苦しい状況である。社員の賃上げの影響も大きく、収益改善の見通しが立たない。
	☐	住関連専門店（経営者）	・受注生産をしており、2～3か月後の販売量は今月と変わらないことが確定している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・業界的に新年度に向けた準備を行う時期になるが、新入社員が少なく、制服の貸与も枚数は減少したり一部が個人負担になったりと悪い情報ばかりが目立つ。飲食店なども制服ではなく、Tシャツやポロシャツで代替している。また、客がネット販売店に流れており、実店舗での販売は厳しい状況にある。
	□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・価格の変動が大きくなる兆しがあり、結果、販売量が減少するとみている。
	□	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・引き続き財布のひもは固いとみるが、クリスマスや年末年始はピンポイントで若干良くなる可能性はある。売上に占める免税販売の割合は0.1%程度にすぎないが、前年比160%超と伸長している。伸び代は大きい。
	□	一般レストラン（経営者）	・レストラン業は秋から冬がシーズンといわれており、クリスマスに向けて予約が入り始めてもよいはずだが出足が悪い。かなり厳しい状況が続くとみている。
	□	一般レストラン（経営者）	・新政権になり、ガソリン税の暫定税率廃止など物価高対策を進めるようだが、肌感覚として景気はそれほど良くなないとみている。
	□	一般レストラン（スタッフ）	・平日はディナーの来客数が依然少なく、ランチも客足が落ち込むことがある。良くなる要素は見当たらない。
	□	観光型ホテル（スタッフ）	・今以上に景気が悪くなることはない。
	□	観光型ホテル（スタッフ）	・好転する要素がない。
	□	観光型旅館（経営者）	・物価高の状況に慣れるにはまだ時間が掛かる。良くなる要素は見当たらないため変わらないとみている。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	・雪のシーズンがまだ見通せないことから、動きは少し鈍くなると予想している。
	□	タクシー運転手	・年末は利用者数が増加するため、やや良い状況は変わらない。
	□	タクシー運転手	・忘年会、新年会のシーズンを迎え、利用者が多くなる。
	□	通信会社（営業担当）	・景気が好転する材料に乏しく、現状維持とみている。
	□	通信会社（営業担当）	・この先3か月で大きな動きがある客先はないため、変わらないとみている。
	□	遊園地（経営者）	・物価上昇により家計が厳しい状況は続いており、好転は期待できない。
	□	美容室（経営者）	・客との会話からも消費の停滞感がうかがえる。
	□	その他サービス〔寮管理〕（管理人）	・ガソリン税の暫定税率の年内廃止はないため、景気は変わらない。
	□	住宅販売会社（経営者）	・賃貸事務所の需要が多い。大型リフォーム物件は少し出ている。
	□	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・住宅設備機器は、暖房器具交換の問合せが増えるとみている。リフォームは、年末掃除に向けたハウスクリーニングの問合せが増えるともみている。
	▲	商店街（代表者）	・来客数は低迷しており、年末に向けた予約数も前年よりかなり少ない。
	▲	商店街（代表者）	・灯油などの生活必需品や新米の価格上昇は、北国の家計に打撃を与える。景気は停滞するとみている。
	▲	商店街（代表者）	・インフレが止まらない。
	▲	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	・新年向け商材の出足が前年と比べて鈍い。ばん回の動きに期待したいが、伸びる要素は見当たらない。
	▲	スーパー（店長）	・11月には米の値上げも控えており、食費全体を切り詰める意識はますます高まるとみている。
	▲	コンビニ（経営者）	・客単価が前年並みに落ち、買上点数も今年初めて前年を割る状況になっている。来客数は今までの伸びが一服して前年並みになっており、今後は少し厳しくなるとみている。
	▲	コンビニ（経営者）	・来客数の減少が続くなか、今月は気温が急激に下がったことで更に減っている。この先も厳しい状況が続くとみている。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・気温の低下や雪の影響が出てくるため、景気が良くなる見通しは立たない。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・冬物も一段落する時期になる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	衣料品専門店（経営者）	・物価高騰による節約志向は続くともっている。
	▲	自動車備品販売店（経営者）	・新米の価格高騰で食費以外を辛抱するようになり、消費はかなり鈍るとみている。
	▲	その他専門店〔酒〕（経営者）	・経済対策に関して、国がお茶を濁したような政策しか出さないようであれば、景気は徐々に悪い方向に向かってしまうという不安がある。
	▲	高級レストラン（支配人）	・例年と比べて予約数が鈍化しており、それが毎月下振れしている。年末年始のイベントの見合せや縮小を検討している。
	▲	旅行代理店（従業員）	・団体旅行の先行契約の動きが鈍い。
	▲	テーマパーク（職員）	・ホテル内の店舗改装及び閉店店舗の影響があるとみている。
	▲	観光名所（職員）	・今月は施設周辺での熊出没により、安全面を考慮してのキャンセルが相次いでいる。日本人観光客が減少しているのも、連日の熊関連の報道などで外出を控える人が増えていることが理由とみている。
	×	スーパー（経営者）	・11月に最低賃金が改定されるが、物価上昇が賃上げを上回っているため、消費は伸びないとみている。
	×	コンビニ（経営者）	・寒くなり来客数が減るなか、最低賃金引上げと除雪代により経費負担が増加するため、経営状況は極めて厳しくなる。
	×	一般レストラン（経営者）	・消費者の経済状況に余裕が生まれなければ消費は活性化しない。新政権への期待もあるが、当面、景気は悪くなるとみている。
企業 動向 関連 (東北)	◎	—	—
	○	農林水産業（従業者）	・米の収量は例年を上回り豊作のため、売上金額の増加が期待できる。
	○	金属製品製造業（経営者）	・株価上昇など良いニュースが出てきているため期待したい。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・5G通信基地局向けの動きが活発で、関連部品の注文が増えている。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	・まだまだ多くはないが、長期案件の相談も少しずつ増えている。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	・一部客先からの受注増加が見込める。また、2～3か月先は動きが良くなる見込みがある。
	○	通信業（営業担当）	・パソコンのOSサポート終了による駆け込み需要で、一時的に受注が増える見込みである。
	○	経営コンサルタント	・積極財政を標ぼうする新政権の誕生が消費促進の後押しとなることに期待している。
	○	コピーサービス業（従業員）	・新政権の景気対策に期待している。
	□	食料品製造業（製造担当）	・人員確保の状況、人件費や原料資材費の高騰等に鑑みながら、収益を保つために値上げを検討せざるを得ない状況である。
	□	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・物価上昇が続き、買い控えの状況は変わらないが、新政権への期待感もある。
	□	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・1か月程度では経済状況は変わらない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・ここ数か月、設備投資の話や引き合いも少ない状況である。景気は良くて変わらず、落ち込む可能性もある。新政権に期待している。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	・OSのサポート終了に伴うパソコンの更新需要は、2025年度中は続く。
	□	建設業（従業員）	・来年以降の受注動向が見通せない。資材価格が高騰するなか、年明け以降の案件を確保することが課題である。
	□	建設業（従業員）	・民間案件は2～3か月先も一定量の受注契約が見込める。
	□	建設業（従業員）	・人手不足が続いているため、変わらない。
	□	建設業（従業員）	・数年先までの計画が見込まれており、これ以上の対応は不可能である。景気が良い状況は変わらない。
	□	通信業（営業担当）	・顧客からは値引き前提で話を持ち掛けられることが多く、厳しい状況にある。適正価格について辛抱強く理解を求めているしかない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	広告業協会（役員）	・新政権の物価高対策に期待するものの、広告市場への波及は時間が掛かりそうである。当面は様子見状態が続く見込みである。
	□	広告代理店（経営者）	・新政権が動き出し、経済に良い影響が出てくることが期待できる。
	□	司法書士	・受託件数と近隣登記所の不動産登記受付件数は、前年同月比でほぼ同水準である。
	□	その他企業〔企画業〕（経営者）	・当地の宿泊施設は例年、雪の季節には常連客しか来なくなる。
	▲	農林水産業（従業者）	・長期予報で大雪の危険性があると報じられている。大雪になると店舗の来客数が減少する可能性が危惧される。
	▲	食料品製造業（営業担当）	・商品の値上げによる販売量の更なる減少が見込まれる。今月より景気が悪くなるとみている。
	▲	輸送業（経営者）	・当地の誘致企業である機械製造業において、生産拠点の再構築に伴い2026年末までに工場の規模を大幅に縮小する計画があるとの報道がされた。地域経済に大きな影響を及ぼす可能性があり、懸念事項である。
	▲	輸送業（営業担当）	・最近の熊騒動により、東北の主力産業である観光等がダメージを受け、景気に影響するとみている。
	▲	金融業（広報担当）	・10月も食料品を中心に値上げあり、今後もエネルギー価格の上昇が予想されるなか、新政権において、現時点では円安を食い止めるような政策は発信されていない。今後も円安を原因とした物価高の圧力が想定され、賃金の伸びが物価上昇に追いつかず、消費マインドを押し下げる懸念がある。また、最低賃金引上げに対しても、既に労働分配率が高い中小企業が対応に苦慮しており、人材確保ができない企業の増加も予想される。
	▲	不動産業（従業員）	・中小企業の賃料底上げが業界の景気回復につながるとみている。
	▲	公認会計士	・小売業、サービス業は業績が比較的安定しており、売上、利益共に維持できると考える。しかし、製造業、建設業は2～3か月のうちに業績の改善傾向が出てくる気配がない。よって、全体としての景気はやや悪化するとみている。
	▲	その他企業〔協同組合〕（職員）	・中小零細企業の従業員確保は厳しい状況は続く。また、最低賃金引上げに伴い、人件費等の上昇が見込まれる。
	×	窯業・土石製品製造業（職員）	・公共事業、民間事業共に受注量が減少している。冬を迎え一層厳しい状況になる。
雇用 関連 (東北)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・新政権の政策実行によるところが大きいとみる。物価高対策などが奏功すれば景気が上向く可能性もある。
	○	学校〔専門学校〕	・新政権発足により、経済活動の活性化が期待される。
	□	人材派遣会社（経営者）	・新政権になり、今のところ景気が悪くなるような情報もないことから、景気はやや良い状態が続くとみている。
	□	人材派遣会社（社員）	・仕事選びの価値観が多様化するなか、それに対応できている中小企業が少ないため、求職者の大手志向は変わらない。それにより、スキルのミスマッチなどが多くなり、成約件数は上がらない状況が続いている。今後もその状況は変わらないとみている。
	□	人材派遣会社（社員）	・求職者数の増加傾向は一過性とみている。在宅勤務や扶養内勤務の希望者も多く、企業ニーズに合致した人材が不足しているため、景気は良くならないとみている。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・物価高が続くとみており、景気の回復は見込めない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・人手不足にもかかわらず、ここ数年、企業が新聞に求人広告を打っていないのは、広告費を捻出できるほど利益を出していないためとみている。
	□	職業安定所（職員）	・賃上げへの期待はあるものの、物価上昇が上回り、購買意欲は盛り上がらない。政府の物価高対策やガソリン税の暫定税率廃止がどうなるかによる。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数、有効求人数共に、前年より増加している。他方で、大企業、中小企業共に企業整備による人員削減の動きが見られる。
	□	職業安定所（職員）	・企業が求人提出に慎重な姿勢は続いており、12月からの最低賃金引上げが雇用に与える影響を注視する必要がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・物価高が続く限り、卸売業や小売業、宿泊業などでの求人を控える動きや製造業での廃業や生産拠点を集約する動きは変わらないとみている。
	▲	アウトソーシング企業（経営者）	・人件費や材料費など費用は年々上がっているが、価格転嫁は限界にきており、更なる値上げは難しい。
	▲	求人情報誌製作会社（経営者）	・事業経費が増加していくなかで最低賃金引上げが迫っている。中小企業は急激な賃金上昇に付いていけず、利益確保が一層難しい状況になる。人員は必要だが利益確保が難しいため、募集ができずに事業継続が危うくなる企業が増える可能性を排除できない。
	▲	職業安定所（職員）	・物価高騰が続いているため、景気はやや悪くなるとみている。
	×	*	*

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北関東)	◎	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・団体貸切りや少人数の忘年会予約が、早々に埋まってきている。
	◎	都市型ホテル（経営者）	・忘年会シーズンになり、外食業界は忙しくなる予定である。
	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・11月はボジョレーヌーヴォーの解禁があり、その後は贈答品の販売が多く見込まれる。
	○	スーパー（総務担当）	・新首相の景気対策により、良くなってほしい。
	○	コンビニ（エリア担当）	・単価が上がっているため、同じ来客数でも売上が伸びる状況は変わらない。
	○	コンビニ（店長）	・年末年始の予約があるため、良くなる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・受注が増える傾向で受注残も増加しており、販売は増えている。
	○	自動車備品販売店（経営者）	・東日本大震災のときは、高速道路料金が安くなるなど、いろいろな特例措置があって、客の動きが多かった。今後はガソリン価格が少しでも安くなれば、客の動きが変わり、修理や販売に影響が出てくる可能性がある。今はそれを待ち望んでいるような雰囲気である。
	○	住関連専門店（店長）	・新政権に期待したい。
	○	一般レストラン（経営者）	・新政権の景気対策に期待したい。物価は高止まるが、前に進む雰囲気が出るだけでも、人の動きは違っているとみている。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・年末に向けて、宿泊はビジネス利用を中心に堅調に推移しており、インバウンドも増加傾向で、前年比108%と好調である。一方、宴会利用は件数が減っており、前年比90%程度で推移している。単価が上昇しているため、売上は前年比102%となっているものの、見通しは余り良くない。
	○	旅行代理店（従業員）	・旅行自体はなくならないと考えている。実際、細かい需要は増え続けている。
	○	タクシー（経営者）	・全体的に動きが良くなっているため、この先も良くなる。
	○	通信会社（営業担当）	・ガソリン減税に向けた補助金の実施が始まることで、地域により恩恵の差はあるものの、個人及び各企業を含めてコスト削減できることから、物価高対策としては有効に働き、その分消費が高まることが期待できる。
	○	美容室（経営者）	・株価が5万円近くまで上がっているが、一般消費者の可処分所得が増えている実感はない。
	○	設計事務所（所長）	・新政権誕生で期待が大きく、経済の動きが活発になりそうである。物価高対策が進むという期待もある。
	□	商店街（代表者）	・生活必需品以外の買物は控えめという生活が浸透しているときに、記録や記念写真にお金を使うことは少ないのではないかと心配している。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・冬に向かう今後は厳しい。物の値上がりはまだ続いているようなので、新政権でいろいろ補助金等が出てくれば多少は良くなるかもしれないが、余り期待できない。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・10月中旬に大阪・関西万博が閉幕してから、関西からの旅行者が明らかに増えている。この傾向はしばらく続くかと予想されることから、2～3か月先も景況は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	百貨店（営業担当）	・新政権の物価高対策等への期待が報道されているものの、先行きは依然不透明でこの先数か月で状況は変わらない。
	□	百貨店（営業担当）	・消費マインドの停滞は継続していくと予想している。クリスマスケーキやおせちなどの値上げの情報を聞いているため、購入はするが、レベルや量の見直し、抑制等は避けられない可能性もある。また、モチベーションのスタイルを客自身で大幅に変更、見直しをすることを懸念している。
	□	百貨店（店長）	・株価の過熱感もあるなか、短期でも中期でも、良くも悪くもどちらにでも簡単に振れる要素があり、そこに影響を受ける可能性が高い。変わらないというよりは流動的である。
	□	コンビニ（エリア担当）	・各種商材の値上げによる販売数の鈍化が徐々にみえてきている。
	□	コンビニ（店長）	・年末年始についても、現状では余り良い影響は考えられない。
	□	家電量販店（営業担当）	・寒くなるのが早かったため、暖房商材に期待している。品ぞろえは省エネ商材中心で、社員に案内の徹底を図っている。来客数は前年比92%と苦戦しており、丁寧な接客、客の聞き取りに注力させる。
	□	乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーは、米国の関税政策の影響により輸出量は微減しているようだが、その分、国内の受注残に回して納期が少し早まり、客に喜ばれている。また、この物価高にもかかわらず、大規模小売店の来客数はかなり増えている。
	□	その他専門店（総務担当）	・先の注文がない。
	□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・仕入価格の高騰が続いている上、経済政策の遅れで回復には時間が掛かりそうである。
	□	都市型ホテル（支配人）	・予約状況をみると、現状と変わらず推移している。
	□	旅行代理店（経営者）	・3か月後の1月も前年以上の販売が見込まれるが、10月の販売以上になることはないとみている。
	□	旅行代理店（営業担当）	・現役世代の旅行客が増えてこないと景気が良いとはいえない。まだ、現役世代が旅行へシフトしているとは考えにくい。
	□	通信会社（社員）	・現時点では変わらないと考えているが、政局に注目し、景気が良くなることを期待している。
	□	通信会社（総務担当）	・今より、良くなる要素も悪くなる要素も見当たらない。
	□	ゴルフ場（従業員）	・年末の忘年コンペに期待したいところだが、前年の推移を下回っている。
	□	住宅販売会社（経営者）	・アパート、マンション等は人の動きが非常に少なく、空室が目立っている。店舗等も閉店、廃業等が目立ってきている。人の動きが少ないため、商店の売上が落ちている。郊外の大形店に人が流れる傾向が強く、街中の商店は停滞気味である。
	□	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・リフォーム関連の補助金などが一段落しており、また、政権も一新し期待感が先行しているが、今後2〜3か月程度では実生活における景況感是不変わらない。
	▲	スーパー（商品部担当）	・値上げラッシュが止まらない状況と競合店の出店、天候不順等、良くなる理由が見当たらない。ますます節約志向が強まるとみている。
	▲	衣料品専門店（販売担当）	・全ての要因は物価高である。それに加え、大企業だけが表面的に潤うような環境づくりが、今の政策なのだろうが、円安が進めば進むほど、景気はどんどん悪くなる。頑強となっている物価高対策をきちんと施してくれないと、買物をする意欲すら湧かない。
	▲	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・主力の給食部門において、10月以降、人件費は最低賃金引上げ並びに人手不足に伴う採用条件の見直し等により、順次上昇が見込まれる。食材費も米を始め、大幅な引上げとなっている。献立段階からの改善等の自助努力に加え、取引先にも改めて取引条件の見直しを依頼せざるを得ない状況で、準備を進めている。
	▲	旅行代理店（所長）	・オフシーズンに向かい、当地への来訪者数は減少する。外国人客が欧米系から東南アジア系にシフトしているため、アジア系の来訪者次第である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	タクシー運転手	・地方ではかなり景気が悪く、真っ先に経費削減するのはタクシー代のように、利用が少なくなっている。
	▲	通信会社（局長）	・日本銀行は金利上昇にかじを切っているが、このまま続けば、借入れをしている、あるいは今後借入れを検討している中低所得者に大きな影響が出てくる。
	▲	テーマパーク（職員）	・物価高による節約志向が高まり、レジャー費は劣後になるなど、環境の改善の兆しがみえない。
	▲	ゴルフ練習場（経営者）	・物の買い回りから、サービスにお金を使うようになってきている。
	▲	美容室（経営者）	・地方の小さな街では、景気回復は非常に難しい。価格を上げざるを得ない状況だが、来客数の減少は避けられないため、実施できない。後継者のいない同業者が閉店するケースも増えている。何を行っても、先行き不安である。景気判断は都市部、地方で比較できたとしても、対抗策は難しい。
	×	商店街（代表者）	・中心街に立地している市役所の郊外移転が決定したとの通告があり、これが今後の市街地の経済状況を一変させる決定打になりそうである。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・一般的に家計において家電は後回しにされる分野なので、今後も販売としては厳しい状況が続く。
	×	家電量販店（店員）	・パソコン以外の商品構成比の高い商材に、今のところ伸びる材料がない。
	×	乗用車販売店（経営者）	・日米両国とも、政権運営は不安定である。
	×	通信会社（経営者）	・株価が史上初の5万円を突破し、更なる投資マインドが経済成長をもたらす好循環に期待が高まるところである。一方、物価高に賃金上昇が追い付かない状況は変わらず、生活実感を伴わない急激な株高を、冷静に受け止めざるを得ない。特に、地方の中小企業の疲弊は著しく、物が売れない上に人件費、仕入コストは上がる一方である。円安が原因ではないか。新政権の日本経済を強くするという方針の裏付けに円安があるとすれば、不安材料であり厳しい状況が続くと想定される。
	×	住宅販売会社（経営者）	・不動産の動きが悪いと、今後の見込みは不透明で不安要因が多い。
企業 動向 関連 (北関東)	◎	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・季節要因もあり、時間外勤務も導入している。
	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	・秋になってこれから段々と寒くなるため、商材が動くようになる。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・複数の新規案件が立ち上がり、適正価格での受注継続も決定し、売上のベースとなる見込みである。
	○	金融業（営業担当）	・飲食、小売、製造業等においても、年末に向けて受注の増加が見込まれる。
	□	食料品製造業（経営者）	・販売の減少傾向に改善が見込めない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・これ以上悪くなって落ち込むことはない。現状維持で推移するのではないかとみている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・受注状況が良くなる物もあるが、主要製品は通常年始は余り良くない。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・しばらくこの状況が続く。受注や販売量、取引先、競争相手等の様子、いずれも非常に良くない状況があと2か月程度は続く。
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況なども、依然として続いている。
	□	輸送業（営業担当）	・年末に向かい、特に冬物家電、こたつ、石油ヒーター、電気カーペット等の暖房器具、白物家電、寝具、衣料等は前年並みの物量を確保予定である。しかし、円安による燃料価格の高騰やドライバー不足による車両確保のコスト高により、利益は薄くなりそうである。
	□	経営コンサルタント	・物価対策と実質賃金の改善の程度によるが、年末年始の消費に大きな変化は見込めない。一方、中小企業の一部には僅かだが業績の回復と向上が見受けられる。
	□	司法書士	・当社管内の人口は6万5000人くらいで、余り大きな変化はないとやや楽観している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	社会保険労務士	・雰囲気は変わってきているが、予算等が通るのか心配である。地方はすぐには変わらない。
	▲	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主要取引先の減産が決まっており、2～3か月先はかなり厳しい状況になる。
	▲	建設業（総務担当）	・全体的な業務量が足りていない上に、公表された発注見通しによると、余り仕事がなさそうである。
	×	不動産業（管理担当）	・物価と最低賃金上げペースが早く、利益に見合った値上げを取引先に依頼しているものの、すんなり値上げを受け入れてくれる取引先はいまだ少ない。今後も売上と利益の厳しい状況が続く。
雇用 関連 (北関東)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（経営者）	・水産物関係ではサンマの豊漁や米や穀物、季節の果物等も含め、大分出回ってくる。また、ガソリン価格が大分安くなったきたようである。行動範囲も広がり、購買力も併せて伸びていくとみている。生産の動きは把握できていないが、今後は、新政権に期待している。
	○	人材派遣会社（社員）	・取引先の業績回復と賃上げ交渉により、スタッフの定着率が改善し、結果的に利益率が改善する見込みである。
	○	学校〔専門学校〕（副校長）	・人手不足による企業の疲弊はあるかもしれないが、賃金が上昇しているため、景気は上向きになるとみている。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数の前年同月比の動向は、建設業は減少傾向、医療、福祉分野は増加傾向で推移している。製造業、卸、小売業は増減を繰り返している。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	・自動車部品の製造派遣で、部品製造数の減少により契約が終了となる。派遣が行っていた業務は、先方の社員が対応することとなる。
	×	—	—

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)	◎	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・新規事業がスタートするため、良くなる。
	◎	一般小売店〔文房具〕（経営者）	・年末商材のカレンダーや手帳販売の動きが良く、商品単価も高いため、売上を押し上げている。今後は年末に向けて更なる需要が見込まれ、売上増加が期待できる（東京都）。
	◎	衣料品専門店（経営者）	・良くするために取り組んでいるところである。
	◎	タクシー（経営者）	・首相が交代したので、良くなると期待している。
	◎	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・毎年、年末から2月頃までは寒い時期が続くので、依頼が多くなる。
	◎	住宅販売会社（従業員）	・単純に今月の景気が悪すぎたので、この先は良くなるしかない。住宅に関する補助金政策が発表されれば客の動きが出てくる。住宅展示場への来場者数は減っているものの、一括資料請求などのサイトやインフルエンサーからの紹介が増えているため、商談数や成約率は上がっている。
	○	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・このところ客からの電気工事依頼が増えている。古い家を訪問して不当な高額請求をする業者が増えている影響で、夏頃から当店への問合せが多くなっている。
	○	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・見積りを出している工事や補助金絡みの仕事が始まる。
	○	一般小売店〔家具〕（経営者）	・政権が代わり、良いムードになってきて、株価も上がっている。この影響が小売店まで及んでくるには少々時間が掛かるだろうが、期待を込めて、先行きはやや良くなる（東京都）。
	○	一般小売店〔生花〕（店員）	・政権が代わったので、期待感を含めてやや良くなる。経済はもちろん、いろいろなことを頑張してほしい（東京都）。
	○	百貨店（売場主任）	・これから迎えるボーナスシーズンなどのプラス要素と、新政権の経済政策に期待したい（東京都）。
	○	百貨店（総務担当）	・ガソリン暫定税率廃止や所得税控除額の引上げ等、積極財政政策が進むことにより、中間層の購買意欲も高まると期待している（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	百貨店（営業担当）	・今後も売上は拡大すると予想しているが、消費の2極化がますます進んでいることが懸念される（東京都）。
	○	百貨店（営業担当）	・婦人ファッションが好調に推移しており、年末から年明けにかけてのクリアランスセールにも期待を持てる。海外旅行客の来店は回復してきており、免税売上も前年に届くとみている（東京都）。
	○	百貨店（販売促進担当）	・現時点で既にこれから先のシーズンギフトへの需要が高まっている。季節が変わり、気温が低下し、防寒アイテム、ウェアも動き出している（東京都）。
	○	百貨店（販売促進担当）	・買上頻度は前年比では減少傾向にあるが、買上単価は上昇傾向にある。2～3か月後の年末年始商戦では、頻度よりも高単価が売上増加に好影響を及ぼすため、商況は改善するとみている（東京都）。
	○	百貨店（販売促進担当）	・直近の傾向からやや良くなる（東京都）。
	○	百貨店（財務担当）	・新内閣による経済対策等が消費マインドの改善につながり、景気を押し上げると考える（東京都）。
	○	百貨店（企画宣伝担当）	・新内閣が発足し、経済対策が強化されることに期待する。
	○	スーパー（経営者）	・新首相が就任し、今までより国民の生活に寄り添う姿勢が見受けられる。可処分所得が増える期待がある。
	○	衣料品専門店（店長）	・新政権の景気対策、社会保険料の軽減等の政策を受け、消費意欲に一定の効果が見込まれる。また、主要顧客である富裕層については、株価の上昇により購買意欲が一定水準に保たれている（東京都）。
	○	衣料品専門店（統括）	・平年並みに気温が下がり秋冬商材の需要が回復してくれば、上向きになるとみている。
	○	家電量販店（店長）	・新政権より経済対策、物価対策を行う表明が明確になされ、具体的な政策が進むことで、消費者のマインドが前向きになることを期待している。
	○	乗用車販売店（経営者）	・新車の受注が前年より増加しており、毎月の販売量が安定している。
	○	乗用車販売店（経営者）	・新政権に期待している（東京都）。
	○	乗用車販売店（総務担当）	・新型車の投入により客の動きが活発化する。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・ガソリン価格が安くなれば、車の購入を考える人が増える（東京都）。
	○	高級レストラン（役員）	・新政権の政策により今後変化する期待感がある。また、米国や国内の株価上昇もあり、今後の改革により景気改善が期待される（東京都）。
	○	高級レストラン（仕入担当）	・新政権となり、経済活性化最優先の方向性を示された影響は大きい。同時に株価が好調なこともあり、実体経済が更なるプラスに転じる可能性がある（東京都）。
	○	一般レストラン（経営者）	・来月は、店での音楽イベントをコロナ禍が明けてから初めて、5年ぶりに行う予定である。前月よりもかなりの来客数が見込める（東京都）。
	○	一般レストラン（経営者）	・新政権発足により、ガソリン暫定税率廃止がみえてきたこと、今後財政出動が見込まれること、労務管理に関する政策も働きやすい方向に変わっていく気配がみられ、日本経済全体が動き始めると期待している。
	○	一般レストラン（経営者）	・週末、休日の天候さえ良くなれば、来客数も伸びてくる（東京都）。
	○	旅行代理店（営業担当）	・政府の動きに合わせてお金を使うようになるとみている。
	○	タクシー運転手	・これから11月、12月と年末に向かって、ふだんより忙しくなる。例年、11月はさほどでもなく、12月に利用が集中する。新政権になり、その動向が分からないことが懸念材料である。タクシー利用は降雨など天候によって増えたりもする。ひとまず新政権の動きを見ていきたい（東京都）。
	○	タクシー（団体役員）	・年末の繁忙期を迎えて多少は良くなると楽観している。
	○	通信会社（経営者）	・客の様子から、やや良くなる（東京都）。
	○	通信会社（社員）	・イベントや映画のプロモーションなど、様々な企画が続いており好調である。景気の上昇が期待される（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	通信会社（営業担当）	・新政権の動きに期待している（東京都）。
	○	観光名所（職員）	・諸問題はあるものの、米国の関税交渉に一定のめどが立ったことや新政権への期待もあり、希望的観測も含め、良くなる（東京都）。
	○	パチンコ店（経営者）	・新政権が誕生し、景気浮揚対策への期待感が膨らむ一方、具体策が実施されるなかで年末年始に向けて消費者動向指数も上がっていく。
	○	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（支配人）	・新政権となり、ここ数か月は景気も良くなる（東京都）。
	○	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（営業担当）	・物価高などによる値上げも緩やかになり、娯楽に消費する選択肢が増えてくる（東京都）。
	○	その他レジャー施設 〔複合文化施設〕（財務担当）	・新政権に期待している（東京都）。
	○	その他サービス〔立体 駐車場〕（経営者）	・空き地をコインパーキングに貸し出したので、収益が伸びる見込みである。
	○	設計事務所（経営者）	・建築価格が高すぎることはあるが、何となく政治への期待感が見受けられ、前月よりは若干良くなっている。受注件数は増えているものの、実際に対応するには当社の人手が足りないことが非常に残念でならない。
	○	設計事務所（経営者）	・今のところはそのままプロジェクトが進んでいく。
	○	住宅販売会社（経営者）	・都内のホテル宿泊料金が上昇しつつあるため、ホテル業界、当社ホテル部門は良くなる。一方、建設業は、建設費の高騰により我々中小企業はまだ厳しい環境のなかにあり、賃上げもできない。中小企業への景気対策が必要である。
	○	住宅販売会社（従業員）	・年末に向けて回復する。
	○	住宅販売会社（総務担当）	・新政権発足による経済効果に対する期待や実質賃金の上昇を感じる人が多い。
	□	商店街（代表者）	・今年は、夏が長かったが、急に気温が下がり、秋を通り越して冬になってしまい、非常に商売がしにくい。四季がなくなると、努力はしていても、なかなか思うように売上に繋がらない。少しでも景気が良くなってくれることを期待している。
	□	商店街（代表者）	・気候変動、異常気象の影響は大きく、どのように収束していくのなかなか読めない。新政権が発足し、現状では支持率が高いようだが、期待値が高いだけに、物価高対策や若者支持層に応えられなかったときには、大きな反動がある（東京都）。
	□	一般小売店〔印章〕 （経営者）	・そろそろ11月に入り、当店でも年賀状印刷等の受注をしているが、前年の印刷の際に、今年限りで年賀状での挨拶を失礼するという1文を加える客が非常に多かったことを考えると、相手側も連動して年賀状等の印刷を控えていくとみられる。年賀状を終わりにした客の分だけ売上が減るということだが、残念ながら、ほかに売上が上がる良い材料もない。次第に印刷も途絶えていく。
	□	一般小売店〔祭用品〕 （経営者）	・11月は年末に向けた行事もあるが、それほど盛り上がるとは考えられない。
	□	一般小売店〔眼鏡〕 （経営者）	・米国が利下げすれば株価が上がり、その分国内株にも恩恵を受ける。為替も円安で大企業にとっては良い。利益が増えた分を社員に還元して、徐々に我々小売にも回ってくるようにしてほしい。
	□	一般小売店〔乳業〕 （経営者）	・脱落した客に代わる新規客を獲得できそうである（東京都）。
	□	一般小売店〔傘〕（店長）	・冬の降雨の少ない時期に入るため、極端な増減はない。
	□	一般小売店〔茶〕（営業担当）	・今は値上げラッシュであり、客の購入意欲が下がってしまわないか心配である。
	□	一般小売店〔茶〕（営業担当）	・時々行うイベントなどでの販売では、客の財布のひもが固く、以前と比べて余り売上が伸びない。先行きは余り期待できない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	一般小売店〔書店〕 (総務担当)	・売上は長期的に低迷しているが、業績に劇的な変化をもたらすようなポジティブな要因もネガティブな要因も見当たらない（東京都）。
	☐	百貨店（総務担当）	・物価上昇に伴う消費に対する慎重な姿勢の継続が予想される。
	☐	百貨店（総務担当）	・株高や政治の動向等の先行きがどうなるかによって消費動向も上下するおそれがある。現状は上昇気運がみられるものの、確固たるものではなく、先行きは引き続き不透明である（東京都）。
	☐	百貨店（広報担当）	・インバウンドの動向は不確定要素が大きく、見通しが立たない。また、足元の株高や新政権への期待により消費マインドは上向きであり、国内客の堅調さを揺るがすようなリスクは顕在化していない。ただし、更に上昇する材料には乏しく、現在と同水準で推移するものとみている（東京都）。
	☐	百貨店（営業担当）	・物価高の影響が続くなかで、新内閣の誕生により今後の政局が安定し、適切な対策が実施され、国内客の消費マインドが改善することを期待しているが、時間が掛かりそうである（東京都）。
	☐	百貨店（営業担当）	・新政権になり、日用品の消費への影響がどのくらいあるかにもよるが、その施策が一時的なものでは、中期的には変わらない（東京都）。
	☐	百貨店（営業担当）	・現在の動きは年内は変わらないものとみている（東京都）。
	☐	百貨店（販売促進担当）	・新政権となり、日経平均株価が過去最高となるなど、景気の上昇気運を感じられる富裕層と、実質賃金が上がっている実感のない中間層とのせめぎ合いがあり、しばらく景気は変わらない。
	☐	百貨店（管理担当）	・インフレが継続し、より安価な物を求めるなど生活防衛を意識した消費行動が続く（東京都）。
	☐	百貨店（店長）	・円安が続いているため、商品単価の上昇が想定される。最低賃金は上がっているものの、労働時間の短縮により所得は増えていないため、変わらない。
	☐	スーパー（経営者）	・1品単価は上昇しているものの、やはり来客数、買上点数が落ち込んでいるため、なかなか上向かない。前年並みであるが、前年10月はちょうど大型競合店ができて落ち込んだ時期であり、その水準に戻っているということなので、まだ良い状態ではない。
	☐	スーパー（経営者）	・可処分所得が増加しなければ、余裕のある消費はできない。物価も今後下がることは考えられない。
	☐	スーパー（店長）	・年末に向けて、当社だけでなく競合他社も価格訴求を推し進めている。客も商材の価格を見極めながら、購入するか判断している。買上点数は引き続き下落傾向だが、買上単価の上昇により、全体的な売上に大きな変化はない。
	☐	スーパー（店長）	・消費者には節約志向が依然として根付いており、物価上昇が追い打ちを掛けているため、物価と所得のバランスが取れてくるまでは、同様の状態がしばらく続く（東京都）。
	☐	スーパー（総務担当）	・良くなる要因がない。新政権となったが、具体的な政策が出てくるまでは変わらない。
	☐	スーパー（営業担当）	・単価の上昇、販売量及び来客数の減少はまだ続く（東京都）。
	☐	スーパー（仕入担当）	・新米が出そろってきたが、前年より単価が15%も高い。他の商材も1品単価が全体で5%ほど値上がりしており、生活必需品以外の買い控えが進むとみている。
	☐	スーパー（食品担当）	・現状、商品単価は上がり続けているものの、正社員の賃上げは微増であり、必要な物しか買わない（東京都）。
	☐	スーパー（販売担当）	・この先も値上げが続くため、変わらない。
	☐	コンビニ（経営者）	・近隣にスーパーが出店した影響により、来客数、客単価共に落ちている。
	☐	コンビニ（経営者）	・景気が良くなれば変わりそうだが、現状は厳しく、しばらく様子見である。
	☐	コンビニ（経営者）	・今後は家計においては、エネルギー関係やガソリン価格などが安くなっていくのかもしれないが、コンビニにそこまで影響を受けるものではない。物価上昇とコンビニは冬に弱いということから、現状が変わらず続いていく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	コンビニ（経営者）	・新政権となり、しばらく安定した経済が続くとみているが、円安がもう少し是正されない和小売業は上向かない（東京都）。
	☐	コンビニ（エリア担当）	・主力カテゴリーが値上げ分の影響を加味しても前年を上回って推移しており、このトレンドは継続しそうである（東京都）。
	☐	コンビニ（エリア担当）	・イベントの影響が大きいエリアだが、大規模イベントの予定はなく、来客数の増加は期待できない。
	☐	コンビニ（エリア担当）	・物価高もあり、ついで買いより目的買いが多くなっている。
	☐	コンビニ（商品開発担当）	・鳥インフルエンザが発生し始めており、ここに人のインフルエンザ流行も重なってくると、来客数増加や単価上昇は余り見込めない（東京都）。
	☐	コンビニ（従業員）	・冬はそこまで忙しい時期ではない。クリスマスやおせちなどの予約商品もあるが、コンビニではまだ得意分野とはいえない。伸ばせる余地はまだあると考えているが、便利な店にはなっていない、専門的な商材は専門店で買うのが一般的ではないかと考えている。
	☐	コンビニ（従業員）	・世の中の景気が良くなれば、コンビニでの買上単価も上がるかもしれない。首相が交代し、政策が変わり、賃金や減税など目に見える形で個人の状況が変われば、数か月先の店の景況も変わってくる。
	☐	衣料品専門店（経営者）	・新首相が決まり期待する部分もあるものの、いろいろな物の値上がりはまだ続いており、商材もなかなか安く仕入れることができない状況である。今後の期待も含めつつ、まだ先が読めないため、変わらないと判断している。
	☐	衣料品専門店（役員）	・食料品や光熱費の高騰が落ち着くまで、衣料品業界は厳しい。
	☐	衣料品専門店（従業員）	・この先まだ物価高が続けば、衣料品購入は後回しにされる。先行きが不安である。
	☐	家電量販店（店長）	・消耗品などがかなり値上がりしているため、早期の物価高対策が必要である。来客数が戻らないと、現状のまま変わらない。
	☐	家電量販店（店長）	・物価高による国内客の購入率の低下、インバウンドの購入単価の下落が心配である（東京都）。
	☐	乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っているが、販売は余り芳しくない。客の来場は結構あるものの、なかなか成約に結び付かない。
	☐	乗用車販売店（営業担当）	・年が明け、国会の動きにより景気が上向きになれば、少しは良くなる。
	☐	乗用車販売店（販売担当）	・円安の影響により、輸入品を始め食料品などもかなり値上がりしている。賃金が上がっていない割に様々な物の価格が上がっており、景気は良くならない。株価は過去最高値を更新しており、株を持っている一部の人は景気が良いだろうが、一般消費者は円安の是正を願っている（東京都）。
	☐	乗用車販売店（渉外担当）	・販売環境に変化はないと見込んでいる。
	☐	住関連専門店（営業担当）	・リフォーム業においては、国の補助金事業の終了が近づき、断熱など関連する分野の受注失速が懸念されるが、そもそもの補助金事業による押し上げ効果が弱かったこともあり、大きな落ち込みはないと予測している（東京都）。
	☐	その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・商材の動きがやや鈍いため、変わらない。
	☐	その他専門店〔貴金属〕（統括）	・政治的、経済的にといった大きな視点での変化も想定されるが、身の回りの景気にすぐに変化を及ぼすとは考えにくい（東京都）。
	☐	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新内閣の誕生で、具体的な物価高対策が打ち出される。実施後の変化に期待したい（東京都）。
	☐	その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・何でも値上げの世の中で、やはり最初に財布のひもが締まるのは食料品である（東京都）。
	☐	高級レストラン（営業担当）	・忘年会及び新年会の法人関連予約状況については、おおよそ前年同日と同じペースで受注している（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	高級レストラン（経理担当）	・個人客については日経平均株価の上昇により資産効果が期待されるが、情報が豊かな社会となった現在では、かつてのような過熱には至らないと考えている。また、法人客においては、米国の関税政策の影響が依然として不透明である（東京都）。
	☐	一般レストラン（経営者）	・これから先の11～12月は書き入れ時なので、来客数が増え、売上も伸びる。クリスマスなど、いろいろなイベントも多くなる。年を越すとまた落ち着いて暇になってくる。2～3か月先は今よりも多少良くなる。
	☐	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・客の半数以上がインバウンドという店も多く、インターネットでの予約やオーダーが主流になりつつある（東京都）。
	☐	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・賃金上がる要素がなければ、現状は改善されない（東京都）。
	☐	都市型ホテル（経営者）	・今月のような好調な状況を維持しながら年末年始に向かうことになると思われる。一方で仕入価格の上昇、水道光熱費の上昇等については、非常に損益を左右している。
	☐	都市型ホテル（スタッフ）	・新政権下でこの先打ち出される経済政策によって大きく影響を受ける。
	☐	旅行代理店（経営者）	・新政権になり国会が動き出したが、まだ引継ぎの最中のように足踏み状態である。
	☐	旅行代理店（従業員）	・2024年度は前年比で2けた伸長していたが、2025年度は1けた台での伸長と、伸びが鈍化している（東京都）。
	☐	旅行代理店（従業員）	・相変わらず宿泊費の高騰が続いている。どこまで消費者が受け入れられるか見通せない。
	☐	タクシー運転手	・あと2か月余りで年末、正月になる。相変わらずの物価高で厳しいながらも、年末に向けて慌ただしい動きになる。いずれにしても、景気が良くなり、物価の上昇が気になるという話ばかりである。
	☐	タクシー運転手	・これから寒い時期へと向かい、タクシーの利用が増えることを期待したいが、このところ長距離客も夜の飲食店からのオーダーも減っているため、なかなか先が読めない。昼間は平均して仕事ができている。
	☐	タクシー運転手	・タクシー利用客の動きに大きな変化はない（東京都）。
	☐	通信会社（社員）	・米価を始めとした物価の上昇が常態化しており、各世帯疲弊している（東京都）。
	☐	通信会社（営業担当）	・物価の上昇が続いており、家計を抑制する動きが続く以上、今後3か月先も横ばいで推移していく。
	☐	通信会社（局長）	・政権の変化はあったが、実際にそれが現場にどのように現れてくるかは不明である（東京都）。
	☐	通信会社（営業担当）	・良くなる材料がない。
	☐	通信会社（経営企画担当）	・現状の伸び率がしばらく続いていく予想である（東京都）。
	☐	通信会社（経理担当）	・冬のボーナスでどのくらい変わるかである。正月くらいはということで、景気が良くなるとよい。
	☐	通信会社（管理担当）	・通信回線の光ファイバー化エリアの拡大が顧客獲得に結び付いていない状況はしばらく継続する。営業、販売手法を変える必要がありそうである（東京都）。
	☐	通信会社（経営企画担当）	・映像視聴及び通信需要は短期的な経済状況に左右されない（東京都）。
	☐	観光名所（職員）	・今月の減収減益を考えると、来客が相当増えない限りばん回はできないが、そこまでは見込めない（東京都）。
	☐	ゴルフ場（経営者）	・新政権の新たな政策がはっきりするまでは現状維持となる。株高が個人消費にプラスに働くと有り難い。後は今冬の寒さ次第である。
	☐	ゴルフ場（従業員）	・急激に寒くなり、来場者が増えない。
	☐	競輪場（職員）	・状況が変化しない。
	☐	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（従業員）	・大きな変化は見受けられない（東京都）。
	☐	その他レジャー施設〔映画〕（営業担当）	・首相交代による経済的な影響が未知数である（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	その他レジャー施設 〔総合〕（経営企画担 当）	・インバウンド関連の業種は引き続き好調だが、国内消費者の日常使いが中心となる業種は、物価上昇の影響か、来客数、客単価共に伸び悩んでいる。新政権による物価対策が実行されるまではこの傾向が続く（東京都）。
	□	美容室（経営者）	・いつになったら来店頻度が戻るだろうか。
	□	その他サービス〔学習 塾〕（経営者）	・講習を控えるなど節約志向がみられる。
	□	その他サービス 〔フィットネスクラ ブ〕（エリア統括）	・物価高対策にスピード感がみられない（東京都）。
	□	設計事務所（職員）	・新政権の有効な景気対策、物価高対策に期待する（東京都）。
	□	住宅販売会社（従業員）	・地価や建築費が高止まりしているため、現状維持となる。
	▲	一般小売店〔米穀〕 （経営者）	・年末を迎えるに当たり、卵やもち米の価格、クリスマスや正月向けの食料品などの単価の高さに驚く消費者が出てくる。やはり収入が増えないと経済が回らない（東京都）。
	▲	一般小売店〔酒類〕 （経営者）	・価格高騰に対して実質賃金の上昇が追い付いておらず、生活防衛は今後も続く。
	▲	百貨店（総務担当）	・ようやく政情が落ち着き、方向性がみえてきたなかで、持ち直しを期待したいところだが、政権交代後、円安傾向となっており、消費者にとっては更なる値上げの影響による買い控えが懸念される。特に12月から1月は消費が活発になる時期だが、過剰な期待はできない。最近、取引先の倒産、問合せなどが増加傾向にあることも不安要因の1つである（東京都）。
	▲	スーパー（ネット宅配 担当）	・人件費の高騰を吸収し切れていない。値上げの影響により1品単価は上がっているものの、来客数が減っているため、売上を確保できない。
	▲	コンビニ（経営者）	・アルバイトが全く集まらず、社員も転職者が多数出ており、経営がピンチである。
	▲	コンビニ（経営者）	・依然として売上は前年を下回っている。さらに、今月から最低賃金が引き上げられ、経営的に厳しい状態が続いている。
	▲	コンビニ（エリア担 当）	・近隣の大型施設では前年より多くのイベントが開催される予定だが、平日に関しては開業した競合スーパーの影響が今後も続く（東京都）。
	▲	コンビニ（エリア担 当）	・来月も値上げする商材が多く、価格が上がっていくのが現状であり、2～3か月後もこのトレンドは変わらないため、右肩下がりとなる。
	▲	乗用車販売店（営業）	・メーカーが力を入れている電気自動車が発売されたものの、客の動向が余り良くなく、来客数も少ない。
	▲	その他専門店〔ドラッ グストア〕（経営者）	・客が価格によりシビアになってきている。
	▲	その他専門店〔ガソリ ンスタンド〕（団体役 員）	・業界の現状から、石油類の販売業者は先々に不安を感じ、客への商材供給が不安定に陥りかねないと考えている（東京都）。
	▲	一般レストラン（経営 者）	・新政権になったからといって世の中何かが良くなることはない。特に、当地域では大手自動車メーカーの業績不振から、関連会社の人が現在ほとんど来店していない。何か景気が良くなることがないと難しい。
	▲	一般レストラン（経営 者）	・これまでは順調だったが、今月辺りからやや下向きになっている。来月になれば戻るかもしれないが、今のところ売上が前年より若干落ちている（東京都）。
	▲	その他飲食〔カフェ〕 （経営者）	・コーヒーの生豆の価格が高くなり、価格転嫁したいが、これ以上はできないため、我慢のときだと考えている。以前は、高くてもおいしければ買うという客が多かったが、現在は他の物価が高いために財布のひもが固くなっている。格差社会になっていき、お金のある人と生活がかなり厳しい人との差が広がっていく（東京都）。
	▲	その他飲食〔給食・レ ストラン〕（役員）	・価格転嫁交渉を行っているが、その補填効果が出るのは1年遅れのため、継続的に行われる最低賃金引上げ及び原材料価格の上昇に付いていけない状況が顕現化している。来年度分に向けて交渉を継続中である（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・年末年始は高単価で推移するものの、その他は今月ほどの稼働は見込めないと予測している。
	▲	旅行代理店（営業担当）	・政局にやや期待できない（東京都）。
	▲	通信会社（経営者）	・現状では2～3か月先に景気が良くなる材料はない（東京都）。
	▲	通信会社（営業担当）	・物価高については、便乗値上げもあるようなので、政府がガイドライン等の方針を出して歯止めを掛けないと止まらず、景気は更に悪くなる（東京都）。
	▲	ゴルフ場（経営者）	・例年の来客数と比べると、今期はとても悪い。この時期の来客数が伸びないと、年末も伸び悩む。
	▲	ゴルフ場（経営者）	・3か月後は真冬のため、来場者数が減少するのが例年の動きである。来場者数増加につながる外的要因が少ないなかで、いかに減少幅を抑えられるか、今から準備をしたい。
	▲	ゴルフ場（従業員）	・中国人投資家により、国内の住宅のみならず老舗旅館などの買収も進んでいると聞く。外国人の経営により施設の外国人利用が進む。国内景気、日本人の豊かな生活を維持しているのか、ますます不安である。
	▲	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・物価の上昇により辞める生徒が続いている。単価を少し上げたが、物価の高さに追い付かず、生徒数は減少しているため、景気はまた悪くなる。
	▲	その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・顧客が増加する見込みがない。
	▲	設計事務所（経営者）	・もう少し円安や物価上昇が落ち着かないと、経済活動が活性化しない。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・客からの話が中途半端で終わってしまうことが多々ある。例えば、リノベーションやリフォームの見積依頼は来るが、その後の話に発展しない（東京都）。
	×	一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・外商部において、大手通信販売会社の代理店をしており、今回のランサムウェア攻撃の影響により、現在、商材を全く出荷できない状態になっている。代替手段を幾つか講じてはいるものの、その分の売上は相当落ちているというかほとんどない。何とかカバーすべく努力してはいるが、分母が大きいため、かなり厳しい。システム障害が何か月続くかで、何億円という損害を受けるとみられる。社内でもそちらの対応に追われているために、他の売上にはつながらないという悪循環に陥っている。
	×	通信会社（管理担当）	・物価の上昇により販売数は横ばいとなる。
企業 動向 関連 (南関東)	×	ゴルフ場（経理担当）	・素材、エネルギー価格の高止まりが続き、固定費の回収すら苦慮する経営環境にあり、利益を創出できない状況が続いていることには変わりはない。例年、3か月後に当たる1月は少雨もあって降雪さえなければ底堅い需要が見込めるが、現下の物価上昇、実質賃金低下により生活防衛を意識し、高額レジャーへの支出抑制傾向が顕著となる状況を総合すれば、景況感の回復を展望することは困難である。
	×	設計事務所（所長）	・受注のめどが立っていない。
	×	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建築資材業界を見渡しても活気があるところは少なく、リフォーム需要を取り込めたとしても大きな好況感にはつながっていない（東京都）。
	◎	その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・人手不足に対し求人を出すと、以前とは違って相当数の応募があり、採用につながっている。仕事量も増え、好景気になるとみている。
	○	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・12月頃は例年であれば定番の年賀状や喪中はがき印刷の注文が入ってくるが、最近はそれも少なくなってきた、見込めない。一方、印鑑については客単価が上がってきている。今月は珍しく実印で象牙の特上ランクの高単価商材が出ており、象牙の次に良い白牛の角の印鑑も3本注文があった。来客数は変わらないものの、1つの商材に対して客単価が上がってきている（東京都）。
	○	電気機械器具製造業（企画担当）	・今後もAI関連事業が拡大する見通しである。従来であれば、半導体大口価格は徐々に下落するが、最近は逆に上昇が続いており、今後もこの傾向が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・新首相の経済、財政政策は国内景気拡大に大きく寄与する。少なからず自動車メーカー及びその下請にも好影響を及ぼす。
	☐	通信業（営業担当）	・新政権への期待がある（東京都）。
	☐	税理士	・物価の上昇に見合った賃上げとまではいかないが、最低賃金が大幅に引き上げられ、時間給で働く労働者の賃金は上がる。所得税の見直しにより年末調整で思わぬボーナスが入ることで、少しは消費に回ることが期待される。
	☐	経営コンサルタント	・春頃から見込みはあったが、来年度の大手企業の生産準備が始まるため、部品などの加工を受注している中小製造業では、11月頃から増産が始まりつつある。来年の3～5月頃にかけて、大手企業の新年度生産に間に合うように、納品が進むはずである（東京都）。
	☐	食料品製造業（経営者）	・秋に収穫される原材料について、異常なほどの価格を提示されている。年末にかけて、値上げ幅が増え、買い控えが起きないか心配である。
	☐	食料品製造業（経営者）	・業界によっては無駄を減らす動きから減退するかもしれないが、食品は消費者の慣れもあり、全体としては変わらないとみている（東京都）。
	☐	化学工業（従業員）	・例年であれば年末のオーダーが入ってくる頃だが、今年はほとんど動きがない。
	☐	プラスチック製品製造業（経営者）	・化粧品容器、医療品容器共に既存製品の受注が低調なことで、新企画の進捗が滞り、突破口が見いだせない。
	☐	金属製品製造業（経営者）	・忙しい業者とそうでない業者との差が開いてきている。
	☐	一般機械器具製造業（経営者）	・取引先からの内示を総合的に判断すると、一定以上の水準の仕事量が続くものの、大きく増える見込みはない。
	☐	その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・物価高の影響がありつつも、経済は活性化の兆しがみえる（東京都）。
	☐	建設業（経営者）	・物価が上がっているなかで所得が増えなければ、景気の向上は見込めない。
	☐	建設業（経営者）	・受注は順調だが、ここに来て計画案件の話が少なくなっている。
	☐	建設業（従業員）	・受注量が増えても、物価が上昇しているため、今までとそれほど変化がない。とても厳しい状態が続いている。
	☐	建設業（営業担当）	・現状の積算案件の量を考慮すると、現状維持にとどまると推測している。
	☐	輸送業（総務担当）	・繁忙期のため荷主の国内出荷量は多少増えてきている。しかし、輸出がなく、予想以上は見込めない。今後も現状のままの見通しである。
	☐	通信業（広報担当）	・しばらくは低迷状況の改善は見込みにくい（東京都）。
	☐	金融業（従業員）	・建設業では、工期が長期に及ぶため、資材等の値上がりを見積りに反映させるのが難しいという話や、価格競争から利幅が縮小傾向にあるため利益確保が課題であるというような収益面を不安視する声が多い。その一方で、大手ハウスメーカーからの受注で経営が安定し、売上が順調であるといった声も一部で聞かれている（東京都）。
	☐	金融業（総務担当）	・ガソリンや原材料、賃金等の高騰により企業では経費が増加し、個人の実質収入は増えていない。今後も変化が見込めないため、景気は変わらない（東京都）。
	☐	金融業（営業担当）	・取引先から聴取した受注状況や実際の工場の稼働状況などから、受注改善の材料は少なく、現状程度の推移が見込まれる。むしろ人件費、材料価格の高騰に苦しむ建築業界では、着工遅延等に起因する受注悪化が懸念されており、更に足元の業績が悪化しかねないリスクを内包している。
	☐	不動産業（経営者）	・インターネット掲載物件への反響がたくさん来ているが、実際に来店する客は僅かである。いつもながらインターネットの活用法が課題である（東京都）。
	☐	不動産業（経営者）	・当社賃貸物件の入居率に変化はない。飲食業のテナントでは、物価の上昇と人手不足による人件費増加などで経営の先行き不安が消えないという声が多くなっている。
	☐	不動産業（総務担当）	・景気に水を差すような悪材料も現時点では見当たらず、しばらくは景気の落ち込みはないとみている（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	広告代理店（経営者）	・取引先の飲食店では、秋冬メニューや年末に向けた販売促進準備が始まっているものの、消費動向自体は依然として慎重で、大きな回復の兆しはみられない。値上げや原材料費高騰の影響が続き、各店舗現状維持を意識した運営にとどまっている。当社へのデザイン依頼も例年並みの水準で推移しており、受注量の大きな増減はない。短期的には景気の方角性に変化はなく、当面は横ばいと見込んでいる（東京都）。
	□	広告代理店（従業員）	・新規の業務が増えない。
	□	広告代理店（従業員）	・いまだ回復基調にはない（東京都）。
	□	広告代理店（営業担当）	・本業の広告での売上拡大はなかなか難しいため、新規事業に注力しているが、すぐには売上につながらない（東京都）。
	□	税理士	・米中の景気によるが、国内では大企業は円安で恩恵を受けていても、中小零細企業は相変わらず材料費、燃料費、賃金などが上がり、人手不足も厳しく、従業員は低賃金のままなら他社にいくというようなこともあるため、どこも良くない。飲食店や小売、建設業などの倒産も多い。この先も悪いまま変わらない（東京都）。
	□	社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
	□	経営コンサルタント	・賃上げの影響は限定的とみられるため、景気は変わらない。
	□	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・受注量が増える見込みは少なく、原材料、資材等の値上げもあり、厳しい状況が続く。
	□	その他サービス業〔警備〕（経営者）	・引き続き値上げ交渉をしていくが、見通しはまだ立っていない。
	▲	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年内は増加ペースの受注量とみられるが、年明け以降は受注量が減る（東京都）。
	▲	出版・印刷・同関連産業（所長）	・年末に向けた見積依頼自体が減少している。お金を掛けた広告宣伝は減少の流れが強く、今後ますます状況が悪化することが懸念される（東京都）。
	▲	化学工業（総務担当）	・年末に向けた受注量が減少している。
	▲	金属製品製造業（経営者）	・米国政権が輸出品の鉄鋼、アルミの使用量による追加関税を発したことが一つである。また、このところの国内の賃上げや製品への価格転嫁は一見すると良いようだが、国内で作るより海外で作った方が安いということになり、皮肉なことに値上げしたことで海外に仕事が取られている。大手企業がグローバル生産という名目で国内下請企業から海外へ発注先を変えている。国内を良くしようとして行っていることが、稼ぐための仕事そのものを減らしてしまっている。
	▲	精密機械器具製造業（経営者）	・向こう3か月は受注状況が悪く、苦しい。
	▲	輸送業（経営者）	・来年より、取引先の業務の合理化に伴い、配車車両数の削減が見込まれている。状況が更に厳しくなるものと予想している（東京都）。
	▲	輸送業（経営者）	・今の良い状態が続く理由が見当たらない（東京都）。
	▲	金融業（支店長）	・物価高や賃金上昇に伴う中小企業の経営難に対して具体的な対策がみられないことから、今後も悪化が予想される。
	▲	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・円安が進行しているため、輸入に頼っている食料品の値上がりが見込まれる（東京都）。
	×	建設業（経営者）	・新政権がどうなるか次第である。期待はしているものの、まだ慎重に判断したい。
	×	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・最低賃金引上げの影響により、人件費が上昇し、収益を圧迫する（東京都）。
雇用 関連 (南関東)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（営業担当）	・例年秋から年度末に向けて派遣求人数が増加する傾向にある。今年も、新型コロナウイルス感染症や法改正などの特別な要因がない限り、各企業とも業務繁忙に伴い派遣採用が見込まれるため、求人数、派遣就業者数が増加する（東京都）。
	○	求人情報誌製作会社（経営者）	・新政権への期待値が高く、かつ、株高など全体的に高揚感がみられる。新規事業や新規出店のニュースも飛び交い、人材採用の活発な動きも増え始めている。雇用が増えれば賃金が動き、消費も動いてくる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	求人情報誌製作会社（広報担当）	・このまま中途採用の求人数が増えていけば、それに加えて賃金も上がり、更に景気が良くなっていく（東京都）。
	○	職業安定所（職員）	・米国の関税政策の影響を不安視する経営者が少なくなかったが、新内閣発足と直近の外交の状況から、楽観視する経営者も出始めている。
	□	人材派遣会社（支店長）	・慢性的に人手不足である中小企業を中心に人材ニーズは底堅く、引き続き派遣依頼は堅調に推移する見通しである（東京都）。
	□	人材派遣会社（支店長）	・新政権となり、経済への好影響に期待したいが、2～3か月ではどうなるか分からない。
	□	人材派遣会社（社員）	・扶養の範囲内での勤務調整が行われているようで、求職者が減っている（東京都）。
	□	人材派遣会社（社員）	・人材の供給に限界がある（東京都）。
	□	人材派遣会社（社員）	・求人数に大きな変化はない。
	□	人材派遣会社（社員）	・年末に向けて大きく状況が動くと思込める材料が見当たらない（東京都）。
	□	人材派遣会社（社員）	・次に求人数の増加がみられるのは4月採用に向けた2月以降になる。それまではしばらく横ばいとなる（東京都）。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・自動車を中心とする製造業でのエンジニア不足は継続が予測されるため、変わらない（東京都）。
	□	求人情報誌製作会社（所長）	・最低賃金引上げによる企業への影響が求人にも表れ、動向の鈍化が見込まれる。
	□	職業安定所（職員）	・有効求人数が前年同月を上回る月が続いているが、動きは弱く、先行き不透明である。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・企業の求人数や採用者数は多いが、なかなか採用が決まらない（東京都）。
	▲	人材派遣会社（社員）	・年末の繁忙期が終わるため、やや悪くなる。
	▲	人材派遣会社（社員）	・物価の上昇に賃上げが全く追いつかないからである（東京都）。
	▲	求人情報誌製作会社（営業）	・物価、原材料価格の高騰により、生産や採用計画を延期又は控える動きが増えている。
	▲	職業安定所（職員）	・求人数が8～9月と前年比マイナスとなり、10月も持ち直しの動きがみられない。
	▲	職業安定所（職員）	・製造業、小売・卸売業を中心に、新規求人数の鈍化がみられる（東京都）。
	×	—	—

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (甲信越)	◎	都市型ホテル（スタッフ）	・年末年始にかけての動きは変わらず良くなっている。新首相による政策への期待、過去にない株高が消費力へプラスに働き、一段と良くなるとみている。期待感も含んでいるが、現状に鑑みて、良い方向へ伸びる要素は大いにある。
	◎	ゴルフ場（経営者）	・積極財政政策に期待している。
	○	百貨店（経理担当）	・物価高や米価の高止まり等で、依然として厳しい環境が続いている。政治が安定し、ガソリン税減税や生活支援政策が早急に進めば、消費拡大に期待できる。
	○	スーパー（副店長）	・多くの国民が新政権に期待し、少しずつ経済対策等の結果が出てくる。
	○	コンビニ（経営者）	・ガソリン価格が下がることに期待している。
	○	その他専門店〔酒〕（店長）	・かなり寒くなってきた、当店の主力である日本酒が動く時期で、今後の売上は伸び、来客数も増えると思っている。ただし、格差がかなり広がっており、価格を抑えた商材を求める客は多い。高単価な商材を求める客が、売上を引っ張る状況である。全体的には米価が高くなっているため、今後は予断を許さない。
	○	一般レストラン（経営者）	・市長選挙、市議会議員補欠選挙等、地方選挙や国政選挙も一段落し、落ち着きを見せる。
	○	スナック（経営者）	・物価高に消費者が慣れてきている。物価が高いなりにお金回りが出している。高い物でもきちんと売っていればそれなりに売れる。恐らく景気は悪くないということではないかと考える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	スナック（経営者）	・ 今月後半から団体客の来店が多少増えてきている。年末に向けて人が動き始めた様子が見受けられるため、今年の年末は期待できそうである。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・ 今月の動きが来月も続き、客の動きが良くなるとみている。現時点で11月の客室予約は前年同月を既に上回っている。これも新首相が就任し、国民の行動範囲が広がって、行動マインドが高まっているからかもしれない。また、今月もそうだが、当月に入ってから予約も増えている。来月もこのまま良くなっていきそうである。
	○	遊園地（職員）	・ ドローンや花火のショー等、イベントの開催を控えているため、積極的な情報発信を行い、より多くの客の獲得につなげていきたい。
	○	その他レジャー施設「ボウリング場」（経営者）	・ 団体利用が増加傾向にある。
	○	その他サービス「クリーニング」（経営者）	・ 新しい内閣に期待する。
	□	商店街（代表者）	・ 当店は今は小売販売よりは、学校指定用品の取扱が中心になっている。学校指定の物のため、買いに来てくれるが、今考えると、学校に営業活動をしておいて良かった。
	□	商店街（代表者）	・ 11月の値上げ通知は多少減っているが、12月からの食品、アルコール飲料等の値上げ通知がめじろ押しである。年末商戦に不安がある。
	□	一般小売店「家電」（経営者）	・ 省エネ基準の関係で、安価なエアコンが製造できなくなるため、エアコンの動きは出てくる。2027年には蛍光灯の製造終了もあるため、LED照明器具への移行も見受けられ、業界としては多少明るい兆しがある。全般的に消費者は、余計な出費は抑えている。
	□	百貨店（営業担当）	・ 新政権になって株価はかなり上がっているが、实体经济といふ日常生活のなかでは、景気が良くなったという実感は一切なく、この状況は続くともっている。物価高が全く解消されていない。
	□	百貨店（店長）	・ 物価上昇などが消費動向に影響を及ぼすと予測する一方、年末年始商戦に向けては高級おせちなどの需要に期待できる面もある。
	□	スーパー（経営者）	・ 株価急落と為替が急上昇しなければ、今の安定が続くとみている。
	□	スーパー（経営者）	・ 首相が変わり、物価高対策優先で仕事をしてくれそうなので、実現してもらいたい。加盟するスーパーチェーンの支店長が来店し、店頭販売の弁当、税別430円は、容器、米、調味料等の仕入価格が上がっているため、価格改定した方がよいとのアドバイスを受けた。価格を上げても販売数量は変わらないとのことなので、値上げしていきたい。
	□	スーパー（店長）	・ 物価高により、買物頻度は下がり、まとめ買いの傾向は続く。値上げにより客単価が上がっているため、数字的には良くみえるが、家計が豊かな状況とはいえない。
	□	コンビニ（経営者）	・ 10月に入ってやや寒い日もあるが、天候が良かったため、変わらない。11月に入っても、日によっては降雨等で厳しい面もあるが、前年と変わらない。
	□	コンビニ（エリア担当）	・ 可処分所得が増えない限り、景気は改善しない。
	□	コンビニ（店長）	・ 世の中ではいろいろなことがあり変化があるようだが、コンビニの通常業務には特別大きな変化があるわけではない。生活が余り変わらないため、若干ランクを落とす等、厳しい面が少しずつ出ており、やや悪い現状と余り変わらないとみている。
	□	家電量販店（店長）	・ 新政権での内需拡大政策を期待する。
	□	乗用車販売店（経営者）	・ 各メーカーからの新型車投入や大型見本市の開催など、新車需要の活性化が見込めるため、やや良くなってきた現状が続く。
	□	自動車備品販売店（従業員）	・ 物価高で厳しいから低価格帯の販売が多く、景気が良くなっているとはいえない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	高級レストラン（経営者）	・物価高騰が止まらず、全体的に消費が盛り上がっていない。新政権のインフレ対策も未知数で、しばらくはこのままの景気低迷が続く。
	☐	一般レストラン（経営者）	・株価はどんどん上がっているものの、地方の一飲食店としては、好況感はない。
	☐	観光型旅館（経営者）	・年末年始の客の動きが例年よりも遅い。今年も年末年始の休みが長いので期待をしているが、まだ動きが鈍い。
	☐	都市型ホテル（スタッフ）	・来客数の動きが多い状況が続いている。また、予約確定から宿泊までの期間や価格の中央値をみても下がっておらず、需要の下降はまだなさそうである。
	☐	旅行代理店（副支店長）	・状況は変わらず、物価高により客の動きが鈍い。為替相場は円安が続いており、海外旅行も増加に転じない。年末年始の予約も低迷している。
	☐	タクシー運転手	・今月から乗務員が1人増えたが、まだ人手は足りない。これから採用に力を入れなければならない。
	☐	通信会社（社員）	・特に変化する材料はない。年末から年度末にかけての繁忙期の下地を作る期間になる。
	☐	通信会社（社員）	・期待感はあるものの、現実には恩恵を受けるような雰囲気はない。
	☐	観光名所（職員）	・先の団体予約はインバウンド、国内客共に比較的良好だが、個人客が減少傾向である。
	☐	ゴルフ場（副支配人）	・物価高が改善される見込みがなく、出費を抑えようとする傾向は変わらない。
	▲	商店街（代表者）	・日中は来店客すら少ない。
	▲	コンビニ（経営者）	・工事需要も終わり、天候なども加味したらこれから下がっていくとみている。クリスマスはあるが、一時的なもののなので、そこまで大きく変わらない。世の中の景気が良くなれば変わってくるかもしれない。
	▲	その他飲食「カフェ」（経営者）	・人がいない。
	×	コンビニ（経営者）	・コンビニでは冬季期間は、来客数、販売数が共に悪くなる。
	×	コンビニ（経営者）	・悪くなるとみているが、先に期待もしている。
企業 動向 関連 (甲信越)	◎	—	—
	○	食料品製造業（製造担当）	・売上が落ち込んでいるスーパー主体の販売に出張販売を加え、利益率と売上が維持できるように仕向けている。出張販売の売上は伸びつつあり、今後も期待できそうである。
	○	金属製品製造業（総務担当）	・半導体の需給が回復し、やや良くなる。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・季節要因もあるが、年末年始に向けて売上が伸びる時期のため、期待できる。ただし、円安が再び進行し、調達価格の上昇が収益を圧迫することも予想される。
	○	金融業（経営企画担当）	・新政権による景気や物価対策の効果が出て、やや良くなる。
	○	新聞販売店「広告」（総務担当）	・年末年始商戦もあり、今後数か月は現状同様に前年比で増加となることが予想される。
	☐	食料品製造業（営業統括）	・11月には一部新酒が出回るが、消費者の購買意欲は落ち込んでおり、前年からの在庫も抱えているため、厳しい状況は続く。
	☐	電気機械器具製造業（経営者）	・現在は受注があるものの、継続した受注が減少しているため、先行きが読めない。
	☐	建設業（経営者）	・同業他社も同様に変わらない。
	▲	食料品製造業（総務担当）	・原材料価格の高騰が続いているため、やや悪くなる。
	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	・特注の話はあるものの、全く予想がつかない。
	▲	電気機械器具製造業（従業員）	・新築物件がないため、既存の改修工事を受注するようにしているが、使用部品の納期が工期より長いため、受注はなかなか難しい。
	▲	その他製造業「宝石・貴金属」（経営者）	・通常11月、12月は繁忙期で、商材を充実させるために小売店が仕入れを行う月である。しかし、小売店と話をすると、デザインが新しくても価格の高い商材を仕入れるよりは、在庫セールで対応したいということで、仕入意欲がない。年末の盛り上がりがないと更に業況が悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	金融業（調査担当）	・企業の業況感は、製造業では米国の関税政策への不透明感が和らぎ、マイナス水準ではあるものの、僅かに改善している。一方、非製造業では人手不足やコスト増加の影響により悪化する見通しである。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが本当に大変である。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—
	○	—	—
	□	職業安定所（職員）	・有効求人数が前年同月比で6.5%増加し、18か月ぶりに前年同月比で増加に転じている。
	□	職業安定所（職員）	・求人数に大きな変化がない。
	□	職業安定所（職員）	・諸物価の高止まりや最低賃金の引上げ等、企業マインドが好転する見通しが立ちにくく、直ちに景況感が改善する状況ではない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・求人を含ん引する製造業では、円安による原材料の輸入価格高騰に四苦八苦している企業が大変多く、業績不安が続いている。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・政治等が不安定ななか、現状の景気は続く。
	▲	職業安定所（職員）	・中国の景気が低迷していることに加え、米国の政権の相互関税政策が今後の日本経済にどの程度影響を及ぼすか不透明であり、日本企業の収益悪化が懸念される。
	×	—	—

6. 東海（地域別調査機関：三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング株式会社）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東海)	◎	商店街（代表者）	・周りの会社では、ほとんどが景気の良い様子である。
	◎	一般小売店〔書店〕（経営者）	・新政権が発足し、早速ガソリン暫定税率廃止やその他のいろいろな減税の話が出てきているため、良くなると大いに期待する。
	◎	コンビニ（店長）	・新内閣となり、ガソリン暫定税率廃止など物価高対策が期待できる。
	◎	乗用車販売店（経営者）	・今は辛抱の時期であり、これから年始から年度末への商戦に期待したい。
	◎	タクシー運転手	・新首相の誕生により良くなる。
	◎	美容室（経営者）	・髪をきれいにして正月を迎えたいと考える人が多いため、忙しくなる。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	・株価の著しい高騰が実際の景気にどう影響するか不明だが、希望的観測として良くなると期待する。
	○	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・この先は、最低賃金の引上げやガソリン暫定税率の廃止もあり、政治の安定とともに景気はやや良い方向に向かう。
	○	百貨店（総務担当）	・政治が少しずつ安定してきて、米国の関税関係も一旦は落ち着いた状況である。今後の企業業績の発表や冬のボーナスで良い話が出てくれば、消費マインドも上がってくる。
	○	百貨店（営業担当）	・政治の安定が見込まれ、株価も安定している。
	○	百貨店（販売促進担当）	・新内閣の経済財政方針による各施策への期待感で、景気はやや良くなる。
	○	スーパー（経営者）	・青果価格は安定しつつあり、大阪・関西万博閉幕後は来客数が増加している。年末年始には参拝客の増加を期待している。
	○	スーパー（店長）	・首相が代わったことに期待したい。
	○	スーパー（店員）	・物価高といわれているが買い控えは発生していない。牛肉等の高価な食材も順調に売れてきているため、景気は上向くとみている。
	○	スーパー（店員）	・12月商戦を迎えるため、来客数は今よりも確実に増える。
	○	スーパー（支店長）	・首相が代わり閣僚も一新されて躍動的でエネルギーな体制となった。物価上昇に対する景気施策を優先的に進めてもらい、消費マインドの向上を期待したい。
	○	スーパー（販売担当）	・これからイベントが多くなるため、来客数の伸びが期待できる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・最近の株価高騰と新政権による景気対策実施への期待を込めて、やや良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	コンビニ（店長）	・新内閣への期待感から株価が5万円を超える状況だが、期待が先行している印象を受ける。実際にどのような景気対策が行われるかによって、今後の状況は変わる。
	○	コンビニ（店長）	・首相の交代による景気対策の効果により、やや良くなると期待している。
	○	衣料品専門店（店長）	・賃金は上がっておらず、一般客の売上は、それほど期待できない。一方、法人客の売上は上昇傾向にある。客の話から地域経済としては、仕事が増えてうまく回ってきている様子がうかがえる。
	○	衣料品専門店（売場担当）	・前月までと異なり、スーツの下見客が増えている。礼服と一緒に購入でかなり割安になるセット販売をしているため、目当ての客が多い。年明けの成人式用のスーツも少しずつ出るようになった。自店の強みはセット販売や学生割引、企業提携割引であり、そういった割引を使う客が多い。
	○	家電量販店（営業担当）	・政治が変わって経済の動きも変わってくると期待する。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・株価の高騰がどこまで続くかにもよるが、このまま高値が続けば消費マインドも上向く。
	○	乗用車販売店（経営者）	・ガソリン暫定税率が廃止されれば、少し良くなる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・今月がかなり悪かったため、この先は良くなってほしい。
	○	乗用車販売店（従業員）	・新首相への期待の高さを感じられ、年末年始に向けて消費が上向くことで景気はやや良くなる。
	○	一般レストラン（従業員）	・年末に向けてこの先2か月くらいは、消費が増えると期待する。
	○	都市型ホテル（総支配人）	・株価や政治の安定に期待したい。ただし、仕入コストや人件費は引き続き上昇して価格転嫁に苦戦しており、収益を圧迫する要因となっている。
	○	旅行代理店（経営者）	・新首相が決まり、政治が安定すれば経済も落ち着くためやや良くなる。
	○	タクシー運転手	・利用料金の値上げにもかかわらず乗り控えもなく、客足も良くなっている。ただし、若年層の客が多いため乗車の機会が遅い時間帯にずれ込んでいる。乗車率は高くこれから年末にかけてもっと利用が多くなることが見込まれ、売上の更なる上昇を期待したい。
	○	通信会社（企画担当）	・新政権による経済政策や対米関係の進展等で人々が先行きに希望を持てるようになれば、景気が上向いてくる。
	○	パチンコ店（経営者）	・近隣に大型商業施設がオープンするため、活気付くことを期待する。
	○	美容室（経営者）	・年末にかけてイベントや外出が増える。ボーナスも出るため消費が拡大する。
	○	美容室（経営者）	・ガソリン暫定税率の廃止など、新首相に代わって少し期待を持てるようになった。迅速に景気対策を実行してくれれば、景気は少し回復する。
	□	商店街（代表者）	・週末などはオーバーツーリズムの状態に変化がない。
	□	商店街（代表者）	・政権が交代して、政策をどこまで実行できるかにもよるが、うまくいくとしても景気回復の実感はまだ少し先になる。
	□	一般小売店〔結納品〕（経営者）	・商店街の様子をみる限り、これ以上良くも悪くもならない。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・物価の上昇はまだ続く見込みで、この状態がしばらく続く。
	□	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲料の値上げが飲食店での販売価格の改定に直結し、客が来店を抑える悪循環になっている。年末を前に20年以上続いた個人店から閉店の連絡が入るなど、暗いニュースが続いている。
	□	一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
	□	一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・物価高が続き、買い控えは続く。
	□	百貨店（企画担当）	・売上は上がっているが、購買客数は売上ほど増えていない。インフレを含む商品単価の上昇が売上増加に影響している。今後も同様の傾向が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	百貨店（営業担当）	・冬物の動きが鈍かったが、それ以外は堅調に推移しており、今後も大きく変化することはない。
	☐	百貨店（販売担当）	・物価高での買い控えやインバウンド需要の減少が続くと、この先も好転は見込めず、大きな変化はない。
	☐	百貨店（販売担当）	・Z世代においては、趣味に特化した購買意欲が高い。SNSと合わせた消費喚起は必須である。
	☐	百貨店（営業企画担当）	・株価が高騰しているが、それほどの影響はまだない。
	☐	スーパー（店長）	・今後も割引やポイントセール日に売上が集中する見込みである。
	☐	スーパー（店員）	・営業時間の延長で売上は伸びるものの、人件費もその分増える。
	☐	スーパー（販売担当）	・ここ数か月、店全体での売上や来客数は前年と同程度であり、この先も横ばいが予想される。花についてみると、何か工夫した売り方や打ち出し方、催事などを実施していかないと前年よりも落ち込む可能性がある。
	☐	コンビニ（店長）	・食品の値上げが続いているが、消費者も値上げに慣れてきたのか、売上にも余り影響が出ていない。
	☐	コンビニ（エリア担当）	・季節変動はあるものの、客の来店パターンや販売量には大きな変化はない見込みである。
	☐	衣料品専門店（売場担当）	・景気が良くなる要因がみられない。
	☐	衣料品専門店（販売企画担当）	・消費者の財布のひもは固い。
	☐	家電量販店（店員）	・見積件数も少なくなっており、余り伸びそうな要素がない。
	☐	乗用車販売店（経営者）	・インフレ傾向が続く消費の財布のひもが固くなっている。自動車の販売価格も上がっており、購入に躊躇う客が増えている。
	☐	乗用車販売店（経営者）	・新首相の積極財政指向が伝えられ、期待感から株価の高騰など明るい雰囲気が漂っているが、物価高の影響は収まっておらず、大きな変化は期待できない。
	☐	乗用車販売店（従業員）	・今まで頑張って節約してきた分、プチぜいたくをしたいという声を聞く。年末を控え、クリスマスや年末から正月は少しリッチに過ごすとか、旅行に出掛けるといった話を客から聞く。しかし、生活にある程度余力のある人と、かつかつな生活の人との格差を感じる事が多く、社会全体の景気回復はなかなか厳しいと感じる。
	☐	乗用車販売店（従業員）	・新型車が順次発売予定であるが、納車まで数か月は掛かる。現場は久しぶりに活気が出てくるであろうが、すぐに売上にはつながらないため、しばらくは良い状況とまではいえない。
	☐	乗用車販売店（営業担当）	・政治の不安定さが影響していたのか、客が動いている気配がなかった。新しい首相が決まったものの、例年、年末に向かっては厳しくなるため、良くも悪くもない状況が続く。
	☐	住関連専門店（営業担当）	・持家住宅や分譲マンション等の新規物件は減少しているが、リノベーション物件が増加している。特に中・小規模の住宅やマンション、店舗などで全面改築が増えている。官公庁の工事も現状は横ばいだが、来年にかけて増加が見込まれる。
	☐	その他専門店〔書籍〕（社員）	・年末に向け販売量の増加が見込まれるが、円安傾向で商品の値上げも重なり、受注量は余り伸びない。
	☐	その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・賃上げは来年度以降の見込みである。足元は、物価高の影響により余り良いとは言え切れず、不透明感がある。
	☐	高級レストラン（経営企画）	・景況改善による消費拡大の期待と節約マインドとの攻防であるが、年末年始商戦は激化する。結果として全体では横ばいの見込みである。
	☐	一般レストラン（経営者）	・客の所得が増える様子もみえず、景気が良くなる要素がない。
	☐	一般レストラン（経営者）	・円安が続くと厳しい。円高方向になってほしい。
	☐	その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・物価上昇のテンポが急激で、対応が追い付かない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・多くの消費者は円安の進行と物価の上昇を結び付けてみている。今月は円安が進行したため、将来の物価上昇への懸念を話す客が多かった。しかし、実際の買い控えは発生しておらず、販売量への影響は今のところみられない。
	□	観光型ホテル（経営者）	・このところ前年よりも良い状態が続いており、足元で景気は以前よりやや良くなっている。3か月後もこのまま変わらない。
	□	都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断した。
	□	都市型ホテル（営業担当）	・円安が続くのであれば、悪くなる要素が現状は見当たらない。
	□	旅行代理店（経営者）	・物価高対策の効果が出ないと変化がない。
	□	旅行代理店（経営者）	・年末年始を迎え、今年は長い休みとなるため今後の駆け込み需要に期待したいが、今年も少し巣籠りの傾向がみられる。実家へ帰省での移動が多く、ある程度余裕がないと旅行には出掛けないとみる。春休みに旅行を計画する客層に期待している。
	□	旅行代理店（営業担当）	・旅行需要は、ここ1年変わらず一定の需要が続いている。冬場はインフルエンザや新型コロナウイルス感染症が流行して旅行を差し控える人が増えると推測されるが、それを見込んでも、大きな減少はないとみる。
	□	通信会社（サービス担当）	・物価の上昇が続くなかで節約できるのは固定電話の解約と考える人が多く、まだ景気は良くない。
	□	テーマパーク（職員）	・集客はスノーシーズンの積雪状況による。
	□	観光名所（案内係）	・周囲からは景気が良くなるような話は一切聞こえてこないが、新首相が誕生し、初めての女性首相という点からも新体制には期待している。
	□	ゴルフ場（経営者）	・労務費など諸経費が上昇するなか、今後も価格転嫁が難しい状況が続く。
	□	パチンコ店（従業員）	・時期的に来客数は増えるが、大きなインパクトはない。
	□	美顔美容室（経営者）	・年末までキャンペーンセールが継続し、さらに、美容商品のリニューアルもあるため販売につながる。
	□	その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・政権が代わり介護業界への対策も挙がってはいるが、特定のサービスや職種に限った話であれば、いつものように福祉用具関係者は恩恵にあずかれない。
	□	設計事務所（職員）	・ニュースなどで新首相が話している様子を見ると期待できそうだが、米国関税等の問題を考えると、余り変わらない見込みである。
	□	住宅販売会社（経営者）	・新内閣がどういった政策を実施するかによって先行きが変わるため、現時点ではどうなるか分からない。
	□	住宅販売会社（従業員）	・しばらく大きな変化はない。
	□	住宅販売会社（従業員）	・変化がなければまだ良いが、例年のように年末にかけて来場者数が減ると、負の連鎖が始まり取り返しが付かない状況になりかねない。
	□	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・好転する要素は少ないが、下落幅等が緩やかになっている印象を受ける。
	□	その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・新築物件等はほとんどなく、リフォーム工事の引き合いが少々ある程度である。一部好景気の企業からメンテナンス工事の引き合いが来ているが、全体的に少ない。
	□	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・年末に向けて退去ばかり増加しており、先行きが不安である。
	▲	百貨店（経理担当）	・株価高騰が一段落すれば富裕層の消費は一服する。新政権による物価対策も大きな効果が得られなければ、中間所得者の消費が落ち込むことによって景気は下降する。
	▲	スーパー（店長）	・商品の値上げ要請が継続しており、販売価格への転嫁が難しい局面へと移行している。
	▲	スーパー（店員）	・担当カテゴリーにおいて生活必需品の販売点数等は堅調に推移しているが、嗜好性の強いカテゴリーにおいては、買い控えが続いている。商材の値上げは続いており、好転する要因が見いだせない。
	▲	コンビニ（企画担当）	・これから年末を迎えるが、帰宅時間が早くなり、夜の来客数は減少する見込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	コンビニ（店長）	・物価高の影響により余計な物は買わない傾向があり、ガソリン代が安くなったところで、この流れは変わらない。
	▲	コンビニ（店長）	・商品の魅力に欠けるため、一般客のコンビニへの来店頻度はかなり低下している。ヘビーユーザーの取り合いが激化し、競争力の高い店舗のみが一定の数字を確保できる状態が顕在化する。周辺競合店との差別化競争に負けるとかなり厳しくなる。
	▲	コンビニ（商品企画担当）	・年末年始に向けて人流の増加が想定されるものの、大阪・関西万博閉幕の影響により、売上は一旦落ち着く見込みである。
	▲	コンビニ（本部管理担当）	・首相交代や好調な株価といった明るい話題はあるが、小売業全体への好影響は限定的と言わざるを得ない。地方経済の停滞が顕著で、特に直近ではインバウンド需要の取り込みが難しい地方の店舗において、来客数の前年割れが深刻化している。今後は、地方と都市部との間で景況感の差が更に拡大していくと予想する。
	▲	家電量販店（フランチャイズ経営者）	・年々秋の始まりが遅くなっているため、冬物商戦の期間が短くなっている。物価高の影響か、来客数の減少が進んでおり、当店の規模では回遊型の客が特に減っている。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・人気車種の受注再開がない限り、販売台数増加は見込めない。販売したくても、ディーラーごとに割当て台数が決まっており、待っている客の全てに販売できるとは限らない。
	▲	乗用車販売店（販売担当）	・車両本体価格と金利がかなり上がっている。客層も年配者が多いため会社を退職する人が多くなってきて、販売が厳しい。新車を購入せず、車検を通して乗り続ける人が増えている。
	▲	観光型ホテル（支配人）	・好調な宿泊部門に比べ、料飲部門の予約が伸びていない。雰囲気は悪くないが、忘年会や新年会シーズンの予約が余り良くなく、予断を許さない状況である。
	▲	旅行代理店（経営者）	・600円程度の弁当屋が流行している一方で、1000円以上のランチやオフィス街のレストランは客が減っている。昼食の時間帯にはコンビニの行列も以前より長くなっており、昼食は500円以下で済ませたい人が増えている様子である。
	▲	旅行代理店（営業担当）	・旅行需要が一旦落ち着く時期のため、特に団体旅行の取扱は減少傾向である。貸切バスの運賃改定により、バス利用が多少減少する見込みである。
	▲	テーマパーク（職員）	・物価高などで景気が不安定である。
	▲	テーマパーク職員（総務担当）	・入園料収入に頼った収支計画のもと集客が伸び悩む現状では安定的な財源の確保が難しくなっている。支出においても人件費や水道光熱費等の上昇に対する懸念が著しく高まっている。
	▲	理美容室（経営者）	・客との会話で、物価上昇により生活が苦しくなっているという声を聞く。
	▲	その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・競合他社がこれまでに輪を掛けて価格を下げ、適正価格を崩して利益率を下げている。今後はますます厳しい経営が続く。
	×	商店街（代表者）	・米の値段が大きく上がり、新米が出回っても下がるどころか更に上がっている。農家からの直接購入でも、前年から2倍以上になっている。主食である米の価格が2倍以上となるような物価高に対して特に対応する政策もないようでは、景気が良くなるはずがない。
	×	百貨店（売場主任）	・寒くなってきて冬物が伸びる時期になるが、紳士靴にはブーツ等の需要があるわけではない。同じフロアの衣料品店でダウンジャケット等を見ている人は多いが、ブーツを求めて店頭に来る人は今のところいない。ファッションに敏感な若者の来店はあるが、店頭で試着してサイズを確認するだけで購入には至らず、売上に繋がらないため厳しい状態である。
企業動向	×	衣料品専門店（経営者）	・年末年始で何かと物入りになるため、生活必需品ではない衣料品の購入までには至らない。
	×	住宅販売会社（従業員）	・金利の上昇と資材の高騰で、より一層仕事の依頼が減る。
	◎	金融業（従業員）	・新内閣の具体的な政策はまだこれからだが、国民の期待感を考慮すると、景気の活性化が期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(東海)	○	食料品製造業（社員）	・新内閣の政策への期待感から消費意欲が高まる。
	○	化学工業（営業担当）	・最先端の半導体向け電子材料薬品の需要増加は今後も継続する見込みである。年明け以降、更に増量が見込まれる。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・年末に向けて客先業界の設備投資が期待できるため、12月の生産量、出荷量が増える見込みである。
	○	輸送業（従業員）	・新政権となり積極的財政という考えから市場に期待感がみられる。運送業界でも、ガソリン暫定税率廃止により国内輸送も伸びるのではとの期待感がある。
	○	輸送業（エリア担当）	・為替の影響から輸出の増加が見込める。
	○	金融業（従業員）	・年末年始に向けて人の動きや消費が増え、景気が良い方向に向かうことを期待する。
	○	新聞販売店〔広告〕（店主）	・物価高対策など目に見える政策が行われれば、連鎖的に良い動きが期待できる。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・新首相に代わり、株高・円安でもあり、経済的に期待を持てる。ただし、原材料の値上げを製品に転嫁できず採算面で苦境が続き、景気は今と変わらない。
	□	化学工業（総務秘書）	・新首相の経済対策に期待が集まっており、短中期的に良くなっていく可能性がある。ただし、株価高騰はA I バブルによるものであり、A I 関連企業への高い評価が変わると世界的な影響を及ぼす。
	□	窯業・土石製品製造業（社員）	・ほとんどの主要取引先が好調であるため、しばらくは現状維持の見込みである。
	□	一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量の見込みから判断した。
	□	一般機械器具製造業（営業担当）	・年内に予算を消化するための駆け込み受注も見受けられ、市場自体が拡大しているとまではいえない。
	□	電気機械器具製造業（企画担当）	・新政権が発足して減税など景気対策が期待されているが、様々な動きがあるため先行きは不透明であり、成果があがるまでは様子見である。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・販売量が増加する見込みがなく、新機種等の問合せもなくこれまでと変わらない販売量にとどまっている。
	□	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・求人募集を掛けても人が来ないということは、各所で求人があり求職者を取り合っているという状況と考えられ、景気は良くなっている。
	□	輸送用機械器具製造業（管理担当）	・今後は光熱費も上がりそうで心配である。
	□	建設業（役員）	・今後数か月で景気が良くなる要素が見当たらない。
	□	建設業（経営者）	・新内閣には大胆な改革を期待しているが、動きがまだみえない。
	□	建設業（営業担当）	・事業所向けサービスとしては、企業の経営状況や景気自体が余り良くないと仕事が出にくくなる。景気が良くなってくれば、安全面や災害対策に関連する予算が通りやすくなり、受注も増えていく。
	□	輸送業（経営者）	・物価上昇で消費意欲が低迷する状態が続く。荷主においても、自社の賃金引上げや資材価格高騰への対応に追われ、物流費の値上げ交渉に応じる余裕がないという話が多い。
	□	輸送業（従業員）	・年末に向けて受注量が多少増えそうではあるが、まだ確定した話ではない。全ては荷主の出荷量次第である。
	□	輸送業（エリア担当）	・受注に波はあるが、高水準で受注できている。単価改定については、まだ変更受諾の回答がない。
	□	通信業（法人営業担当）	・期待できる要素がない。新首相の誕生が経済界に及ぼす影響は未知数で、即効性には欠ける。企業にも打って出る投資や効果的な施策がない。
	□	金融業（企画担当）	・中小企業においては、原価率が従前程度まで改善できないと従業員の給与も上げることができない。その結果、個人消費も伸びず、現状のままの景気は当面続く。
	□	不動産業（経営者）	・晴れの日が多くなりそうな予報であり、外出や遠出をする人は増加する見込みである。今後も売上は増加し、前年を上回ると予測する。
	□	広告代理店（制作担当）	・少しずつではあるが、企画提案中の案件等が具体的な形になると期待する。
	□	会計事務所（職員）	・主に米国向け製品受注は減少がみられるが、アジア、欧州など関税の影響を受けない地域に向けた製品の受注により、完全ではないがリスクが回避されている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	会計事務所（職員）	・年末年始が控えており、例年どおり一時的に消費が増えるだろうが、景気が良くなるとまではいえない。
	□	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・新内閣は日本を強く豊かな国にしていると言っているが、具体的にどうするかが大事である。個々の政策には賛成のものもあるが、景気浮揚のためには高速道路を無料化してほしい。
	▲	食料品製造業（経営企画担当）	・年末年始の需要期であるが、消費者は買い控え傾向がますます強くなる。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・春先以降の仕事量の心配は業者間でもよく聞かれ、実際に受注量は減少気味である。
	▲	電気機械器具製造業（営業担当）	・この先はプロジェクトが未定であるため判断が難しいが、悪くなる可能性の方が高い。
	▲	輸送業（従業員）	・10月に運賃改定で値上げした影響がしばらく続くとみられ、クリスマス前後の繁忙期においても、荷物量は減少傾向が続く見込みである。
	▲	通信業（総務担当）	・政治は安定し株価は上昇しているが、国民の暮らしは全く良くなっていない。賃金と年金の手取り額を上げないと、生活必需品の購入が精一杯でぜいたくをしようというムードが発生しない。
	▲	不動産業（経営者）	・有用な人材の不足が深刻化するため、業種によっては業績にも影響する。
	×	食料品製造業（営業担当）	・値上げに伴い販売数が落ち込んでいる。
	×	鉄鋼業（経営者）	・見積量と受注量が極めて少ない。
	×	金属製品製造業（経営者）	・引き合いが減少しているため、今後は悪くなる。
雇用 関連 (東海)	◎	—	—
	○	人材派遣業（営業担当）	・新内閣発足による好転を期待する企業が多く、中小企業経営者のモチベーションも明らかに向上している。今後の政策によっては、大きく好転する可能性がある。
	○	人材派遣会社（社員）	・年末にかけて、特に忘年会の予約状況は良くなっている。
	○	民間職業紹介機関（窓口担当）	・全国拠点のなかでも当地域の求人数は緩やかではあるが増加傾向にある。派遣業務に特化しているため、求人倍率とは関連しないが、年度途中からのパート社員派遣の依頼が増えている印象を受ける。
	○	民間職業紹介機関（営業担当）	・年度末の転職を見越した活動意欲の高い人が動き出し、下期に新規求人が発生している状況から、時期的にも面接などが増加する見込みである。
	□	人材派遣会社（社員）	・提示年収を上げる体力のある企業は限られており、今月より景気が良くなるほどの件数増加はない見込みである。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・求職者数の増加が見込めないため、採用者数の増加も難しく、2～3か月では大きな変化は見込めない。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・新政権になり一定の期待感はあるが、2～3月では身の回りの景況感の変化は期待できない。
	□	アウトソーシング企業（エリア担当）	・最低賃金が大幅な引上げとなり、請負事業や労働者派遣事業においては、取引先へ請負単価や派遣単価の料金改定交渉を進めている。大手企業には応じてもらえるが、中小企業は二つ返事で応じるところは少なく厳しい状況である。継続して料金交渉を進めていくしかない。
	□	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・すぐに労働環境や市場に変化はないとみられるが、新首相になって、新たな施策が出てくるかどうか注視している。
	□	職業安定所（職員）	・最低賃金の引上げは、特に中小企業で今後の雇用に影響を与える懸念が大きい。
	□	職業安定所（職員）	・売上が好調との企業からの情報はあものの、最低賃金引上げや米国関税の影響もあり、先行きが不透明である。
	□	職業安定所（職員）	・最低賃金引上げによる雇用への影響について、見通しが立てにくいため、先行きは不透明である。
	□	職業安定所（職員）	・最低賃金引上げによる影響が懸念されるが、引き続き中小企業を中心に採用意欲は高い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	職業安定所（職員）	・中小企業では原材料費、燃料費、運送費や人件費など諸経費の高騰が負担となっている状況が継続している。猛暑等の気候や物価高騰に起因する消費動向の変化により、一部産業では受注が厳しい状況とみられる一方、受注が堅調な産業もある。人手不足感が深刻な産業も見受けられるが、物価高騰に伴う消費動向の停滞や予測が困難な経済動向への懸念等から新たな求人提出を控え、様子見をする産業や企業も少なくない。現時点で大きな生産調整や雇用調整などの情報は入っておらず、当面は、景気動向の大きな変化は生じないと判断する。
	□	職業安定所（職員）	・今後の業況について聴き取りを行ったところ、横ばいとの回答が多数であった。
	□	学校〔専門学校〕（就職担当）	・現時点で企業からの求人募集は件数も採用人数も前年同期と特に変わらない。一方、前年にあった関東圏からの求人は減少傾向である。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・新卒採用求人については比較的堅調に推移している。今後2～3か月で状況が大きく変化することは想定しづらい。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・電気自動車向けユニット開発の一部では、先行開発はまだしも、目先の開発プロジェクトに一服感が出ており、人員減少の流れが予想される。
	▲	職業安定所（職員）	・卸売小売業や飲食・宿泊業の新規求人数が、前年比では10か月連続減少している。物価高騰の影響が引き続き管内の求人数を減少させている。
	×	—	—

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北陸)	◎	商店街（代表者）	・紅葉シーズンを迎え、11月はカニ漁も解禁となるため、インバウンドを含めた観光需要は引き続き好調を維持すると期待している。今月ほどの急激な伸びはないかもしれないが、観光客の増加に伴い、周辺の客足は堅調に推移するとみている。
	◎	一般レストラン（統括）	・北陸といえば冬の幸というイメージが定着しており、これから年明けにかけて冬の海の幸を求めて、地元住民はもちろん県外からの観光客が増えてくるため、景気は良くなるとみている。
	◎	タクシー運転手	・年末にかけて忘年会もあり、タクシー利用が増えるかとみている。
	○	一般小売店〔事務用品〕（店長）	・年末に向けて生活必需品などの購入が多くなるとみている。
	○	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・新内閣で経済対策などが多少は進み、景気にも影響が出るかとみている。
	○	百貨店（売場主任）	・現状の株価高の状況が続くと富裕層の購買意欲が旺盛となり、ハイブランドの動きが活発になる見込みである。
	○	スーパー（店長）	・首相が変わり、減税政策や物価高対策が進むとみている。その結果、生活が良くなるかは分からないが、新内閣には希望を持っている人が多いようである。そのため、景気は良くなると考える。
	○	スーパー（総務担当）	・物価高であることは変わらないが、米の相場が安定していることと、首相が変わったことによる期待感があるため、景気はやや良くなるとみている。
	○	コンビニ（店舗管理）	・新政権に期待している。
	○	衣料品専門店（経営者）	・政権が変わり、その期待感が消費動向に影響し売上も上がるとみている。
	○	衣料品専門店（経営者）	・今年の秋は暑かったため例年より更に秋物の動きが悪かったが、今後気温が下がるにつれて需要が回復するとみている。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・テナントの出店意欲は回復基調にあり、今後は新規出店が見込める。
	○	パチンコ店（経理）	・新内閣で新たな物価高対策、経済対策がなされるため、消費動向が上向くとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	住宅販売会社（従業員）	・住宅用土地の区画整理が行われることで、土地を探している客の動きが活発になることに期待したい。
	□	一般小売店〔精肉〕（店長）	・送料の値上げなどがあり、贈答品が減少するとみられるため、やや悪い状況がしばらく続くと考える。
	□	百貨店（販売促進担当）	・個人消費については、物価高や人口減少、高齢化などの大きな潮流が変動しない限り、状況は変わらない。
	□	スーパー（仕入担当）	・商品単価は高値維持のため、販売量が大きく伸びず、売上面に変化はないとみている。
	□	衣料品専門店（経営者）	・節約志向が定着しており、消費者心理が好転するには程遠い状況である。
	□	家電量販店（店長）	・客は必要な品物以外購入しないとみている。
	□	家電量販店（店長）	・パソコンの買換え特需は続いているが、その他の家電の実績が低迷しており、パソコンを除外すると前年を下回っている。
	□	家電量販店（本部）	・寒波の早期到来によりエアコンの動き出しは早くなりそうだが、夏から秋に好調であった商品群の反動減も想定し、全体では横ばいとみている。
	□	乗用車販売店（経営者）	・今月は例年どおり公共施設を使ってイベントを開催したが、来場者数は前年比80%だった。また、来場者の話を聞くと、車の購入に対して慎重な様子は変わらないため、売上の厳しい状況がしばらく続くともみている。
	□	乗用車販売店（従業員）	・大きな変化はない。
	□	乗用車販売店（総務担当）	・新車に関しては発注できない車種が多く、また、物価上昇によって消費者心理の落ち込みが続くと考えるため、受注が厳しい。
	□	乗用車販売店（経理）	・新型車効果により一定数の需要が見込めるが、影響は大きくなく、売上全体へのインパクトは小さい。
	□	住関連専門店（役員）	・長期化する物価高が確実に家計を圧迫しており、趣味に関連する商材や耐久消費財は最初に消費の選択肢から消える。店に行かなければ買うこともないという心理が客に広がっており、厳しい状況が続いている。
	□	その他専門店〔酒〕（経営者）	・近い将来に景気が良くなるということはないと考える。かなり先であれば可能性はあるかもしれないが、せめてこれ以上悪くならないように願っている。
	□	高級レストラン（スタッフ）	・元々高価格帯のメニューを提供する店舗だが、物価高に対応した売価設定にすると来客数の減少を招くため売上を確保できない。低単価にすると利幅が減るため、行き詰まっている。
	□	一般レストラン（店長）	・平日の予約が余り入らない。
	□	スナック（経営者）	・当店の客は小規模な経営者が多く、景気は下向きであるという話をよく聞く。
	□	観光型旅館（経営者）	・11月は例年並みに予約が入っているが、12月の予約数が伸びていない。
	□	観光型旅館（経理）	・前年の1月1日に発生した能登半島地震以降休業状態が続いており、再開までにまだかなりの期間を要する。
	□	旅行代理店（従業員）	・受注状況から景気はほぼ変わらないとみている。
	□	タクシー運転手	・今後は政策などが良くなる方向に変わるだろうが、国民の所得は変わらないとみており、観光などへの投資は少ないと考える。
	□	通信会社（職員）	・景気に変化する要素は見当たらない。
	□	通信会社（営業担当）	・前年と比べ、販売数、来客数に大きな変化がみられない。
	□	通信会社（役員）	・2～3か月先も、前年と同様の契約数で推移するものとみている。
	□	通信会社（役員）	・株価高の一方で、物価高に対する懸念が続いている。実質賃金が変わらない、若しくは減少していることから、景気は大きくは変わらないとみている。
	□	美容室（経営者）	・新内閣発足時点の支持率はかなり高いが、長期政権になるかは不透明である。現在の物価高もすぐには収まりそうになく、この閉塞状況が続くそうである。
	□	住宅販売会社（従業員）	・能登半島地震からの復興で住宅再建に向けた動きは大きくなっているが、施工力不足が問題となっている。それ以外の地域は受注が安定せず、厳しい状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	住宅販売会社（営業）	・景気を押し上げる要素が全く見当たらない。なだらかに物価が上昇することが予想されるが、急激ではないため、2～3か月先の景気に大きな変化はないとみている。
	▲	商店街（代表者）	・今月からバス路線の一部廃止や昼間の間引き運行が実施され、その影響が今後じわじわ出てくると心配している。
	▲	百貨店（販売担当）	・景気対策でガソリン価格や光熱費が下がるのは良いが、車社会の地方では、客が地方にない物を求めて、より遠くにある都会の安い店に出掛ける可能性から、一時的に地元での消費が減ることを危惧している。気温低下による需要の拡大には期待するが、食品価格高騰の影響が年末年始に拡大し、主力である衣料品や雑貨の売上が伸びず、当面低迷が続くと考ええる。
	▲	スーパー（役員）	・県下の製造業が不振のため、節約志向は続くとみている。
	▲	テーマパーク（役員）	・物価高などの影響もあり、国内旅行者のみならずインバウンドの旅行者もやや減っている状況である。
	▲	競輪場（職員）	・年度末に向けて来年度の取引先との契約などを見直しているところだが、物価高の影響から料金の引上げ交渉が増えており、不況感が増すおそれがある。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・住宅価格が上昇するなかで金利も上がるという報道が増えている。給与所得はいまだ増えない状況で、客の住宅購入意欲は上がらない。
	×	商店街（代表者）	・このまま明るい話題がなければ、年末に近づくにつれ、より厳しい状況になるとみている。
	×	商店街（代表者）	・このまま明るい話題がなければ、年末に近づくにつれ、より厳しい状況になるとみている。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—
	○	一般機械器具製造業（経理担当）	・自動車関連製品については、メーカーの生産が依然として低調であるため、受注も低位で推移している。一方、二輪車関連製品は海外補修市場向けを中心に、受注は順調に推移している。国内の設備投資に基づく産業機械関連製品の需要についても、引き続き順調である。
	○	一般機械器具製造業（総務担当）	・米国の関税に対する懸念は残るものの、新内閣になり良い影響があると考ええる。
	○	建設業（経営者）	・降雪時期の年末前に受注があると見込んでいる。
	○	金融業（融資担当）	・新政権となり、暫定税率の廃止によるガソリン価格の引下げや各種税制改革による可処分所得の増加が見込まれ、消費マインドが改善される可能性が高い。個人消費が伸びれば、それに伴って企業業績も改善されることが期待できる。
	○	税理士（所長）	・初の女性首相、初の女性財務大臣になり、全体的に期待感がある。
	□	食料品製造業（経営企画）	・能登半島地震での被災によるダメージから抜け出せない状況のなか、年末年始という最需要期の数字の上積み期待するしかない。
	□	プラスチック製品製造業（広報）	・受注量、販売量の見込みに大きな変化がない。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	・目先の量産化につながる案件が少ないこと、また、現行流動品に関しても増加傾向にある製品が少ないことにより、2～3か月の期間では景気の上昇は見込めない。
	□	通信業（営業）	・当面は株式市場が好調を維持するとみているが、更に上昇するかについては不透明な状況である。
	□	金融業（融資担当）	・物価高や賃上げなどコスト高の状況が続く。新政権が誕生したばかりで、当面状況は変わらないとみている。
	□	不動産業（経営者）	・特にハウスメーカーや建設会社などの法人から活発な話を聞かない。
	▲	繊維工業（総括）	・最低賃金の大幅な引上げに加え、今後は米国の関税引上げの影響が顕在化することを危惧している。
	▲	建設業（役員）	・前年などの過去実績と比べて、直近の受注量は減少傾向にあり、今後半年でみても減少する見込みである。
	▲	輸送業（経理）	・あらゆる物価が上昇していく状況に会社が対応できない。
	▲	司法書士	・飲食業や建設業の依頼人から人手不足が深刻であるという話を聞く。また、飲食業、小売業の依頼人からは最低賃金引上げに耐えられるか不安であるという声を聞く機会が多い。
	×	—	—
	◎	—	—
雇用 関連	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人広告数が増加する見込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(北陸)	□	新聞社〔求人広告〕(営業)	・景気が良くなりそうな兆候も悪くなりそうな兆候もみられない。
	□	職業安定所(職員)	・原材料費、燃料費、水道光熱費の高騰などにより企業環境が厳しくなっており、前年同月と比較すると有効求人倍率も徐々に下がっている。さらに、米国の関税や最低賃金の大幅な引上げで先行きを不安視する事業所も少なくない。
	□	民間職業紹介機関(経営者)	・業種によって求人の状況に違いはあるものの、大きな変化はみられないこと、また、変化につながる要因が見当たらないことから、今後もこのままの状況が続くと考え。
	□	学校〔大学〕(就職担当)	・物価上昇や円安、前年の能登半島地震と豪雨災害の影響に加え、米国の関税問題や少数政党による政権運営であることの影響が懸念され、状況が好転する要素や気配がみられない。
	▲	人材派遣会社(役員)	・新規の派遣登録者数が減っており、派遣スタッフの稼働数が減るおそれがある。
	▲	職業安定所(職員)	・最低賃金引上げに伴い、人件費と人員配置を見直すため求人を見合わせる企業が出ている。特に零細企業からは、物価高騰と賃金上昇のコストを価格に転嫁できないという切実な話を聞く。
	▲	職業安定所(職員)	・人手不足が解消されないため、受注量を減らさざるを得ない企業が多い。
	×	—	—

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

(－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (近畿)	◎	百貨店(サービス担当)	・来月からは年末商戦が始まるほか、大阪・関西万博ロスの影響で関連売場の営業が延長されるため、その集客効果による売上の拡大が期待される。
	◎	観光型旅館(経営者)	・新政権が発足し、経済が上向く期待感が強まっている。株価の上昇も旅行需要に良い影響を与えている。
	◎	その他レジャー施設〔球場〕(経理担当)	・10月はプロ野球の試合が開催されず、来場者数は減少しているが、11～1月には多くのコンサートが開催されるため、集客の増加を予想している。
	○	一般小売店〔呉服〕(店員)	・3月の卒業式に向けて、1月頃には色無地の着物などを購入する動きが増える。
	○	百貨店(売場主任)	・固定客や観光客などの来客数も戻りつつあることで、来客数全体が安定している。
	○	百貨店(売場主任)	・新政権の方針が積極財政となり、ガソリン減税を含めた景気刺激策が立て続けに実施されれば、年末にかけて景気の持ち直しが期待できる。
	○	百貨店(販促担当)	・政権政党の総裁選挙後、景気対策への期待感で株価が上昇し、今後の具体的な対策にも期待が持てる。クリスマスから年始にかけての景気回復期待の高まりと合致し、消費意欲も高まることが期待される。今年の気温は平年並みの予想で、短くなる冬物商戦に対し、セールなどの仕掛けが必要となる。
	○	百貨店(外商担当)	・新政権の発足による株価の上昇で、富裕層の消費マインドの向上につながる。
	○	百貨店(販売推進担当)	・新政権の掲げる経済政策への期待で株価も上昇しており、その施策が実現できれば個人消費の下支えにもなり、景気が上向くと予想される。
	○	百貨店(マネージャー)	・地域的なインバウンド需要の恩恵が当面続き、売上全体の底上げにつながる。また国内客の消費も、年末に向けて、富裕層向けの資産価値の高い商材は好調な推移が予想される。さらに、中間層も節約志向が続くなかで、付加価値の高い商材は選択消費に伴う購入が見込まれる。
	○	百貨店(外商担当)	・富裕層向けのビジネスでは、経済環境の大幅な好転が実感される。年末商戦に向けて期待が高まるなか、有名宝飾ブランドの新作など、高額品への問合せの頻度も増えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	百貨店（売場統括）	・円安が進行しているなか、10月は免税売上も2けた増となった。現状は前年との為替の差により、免税売上はかなり苦戦しているものの、為替が前年と同水準となれば、そのギャップが解消される。
	○	百貨店（営業推進担当）	・景気対策への期待感に加え、物価上昇が一段落する傾向にあることから、消費マインドは少し上向くことが期待される。
	○	百貨店（商品担当）	・12月は厳冬傾向が予想され、婦人服を中心とした衣料品の好調が期待される。クリアランスセール頼みではなく、定価で売り切れるように、販売促進費を増額して来店促進策の強化を図っていく。
	○	スーパー（企画担当）	・物価高対策の一環で、各自治体のキャンペーンとして、お米クーポンやプレミアム付商品券の販売、QRコード決済キャンペーンなどがあり、消費増の追い風になると予想される。
	○	スーパー（経理担当）	・新政権への期待値は高く、生活に好影響のある政策が具体化すれば消費マインドが上向く。年末年始に向けた動きにタイミングが合えば、更なる効果も期待できる。
	○	スーパー（販売促進担当）	・大阪・関西万博などのイベント終了に伴う落ち込みは続くが、株価は上昇傾向にあるため、景況感の改善につながるほか、財布のひもも少し緩むことが期待される。
	○	コンビニ（店員）	・年末にかけて旅行者による来店が増える。
	○	コンビニ（店員）	・当店のエリアマネージャーが転勤先から戻ってきた。非常に気が利く上に、人を使うのがうまいため、売上が足踏み状態の状況が変わりそうであり、今後に期待している。
	○	衣料品専門店（店長）	・新首相と米国大統領の会談での友好的な雰囲気が、今後の米国との関税問題にプラスに働くとの期待感がある。
	○	家電量販店（経営者）	・補助金に関連した販売の増加が期待される。
	○	家電量販店（店員）	・歳末セールでの需要が見込まれるほか、2027年問題を客に知ってもらうために、声掛けを行っている。
	○	家電量販店（企画担当）	・急な冷え込みにより、季節商材に加えて暖房器具も動き始めている。また、補助金によって省エネ型給湯器や内窓の需要も動いているため、先行きには期待できる。
	○	家電量販店（人事担当）	・急な気温の低下に伴い、暖房器具の販売が伸びると予想される。ただし、物価の上昇が続いているため、買換えの動きにとどまりそうである。
	○	乗用車販売店（経営者）	・車検の予約が多く、新型車の発売も控えているため、先行きは良くなる。
	○	乗用車販売店（支店長）	・今後は株価の上昇が続くことで、更なる消費の増加が見込まれ、市場の活性化につながることを予想される。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（総括）	・新内閣効果でムードが良くなり、消費に積極的になる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・来月から年末にかけて、年間で最も忙しい時期に入るため、今後の動きに期待したい。
	○	高級レストラン（企画）	・大阪・関西万博の開催による、大阪への需要の集中傾向が分散するとともに、インバウンド需要も活発になるため、単価、来客数共に上向くことが予想される。
	○	一般レストラン（経営者）	・12月の宴会シーズンに期待しているが、当店はインボイス制度の登録を行っていないため、団体客の取り込みは望みが薄い。
	○	一般レストラン（企画）	・米の価格などが下がる気配はないほか、最低賃金引上げによる人件費の高騰もあり、利益の確保が厳しくなっている。ガソリン税の減税や、年取の壁の引上げなど、物価高対策の実施による景気の回復に期待したい。
	○	その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	・暑い時期は需要が減る商品のため、気温の低下で繁忙期を迎える。物価が上昇するなか、割安な価格で提供している点も強みと捉えている。
	○	都市型ホテル（管理担当）	・首相交代による高揚感が広がっており、先行きに何となく期待が持てる。
	○	旅行代理店（支店長）	・大阪・関西万博が閉幕し、旅行需要が高まることを期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	旅行代理店（支店長）	・大阪・関西万博関連の動きが一段落し、客の購買マインドが旅行に戻ってくるのは、年末年始か春休みとなる。それまではオフの期間となるが、年明け以降の旅行に向けた動きはみられるため、現状に比べると回復が期待される。
	○	通信会社〔貴金属オークション〕（経営者）	・貴金属相場の上昇傾向は、今後も進むことが予想される。
	○	テーマパーク（職員）	・新政権への期待は大きい。まずは景気対策をしっかり実行して早めに成果を出すことで、政権を安定させてほしい。
	○	遊園地（経営者）	・大阪・関西万博の閉幕で、大阪のレジャー施設には追い風が吹く。
	○	競輪場（職員）	・例年この時期は消費マインドが上がるため、やや良くなる傾向となる。ただし、今年は物価の上昇も予想されるため、改善幅は余り大きくないとみられる。初の女性首相が誕生し、市場は盛り上がりを見せているが、どのような影響が出るかは不透明である。
	○	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・大阪・関西万博が閉幕し、足元の商圈からの来訪が増えそうである。また、冬になれば、インバウンドによる雪目的の来訪にも期待される。
	○	美容室（店員）	・年末年始は予約が埋まっているなど、今月よりも良くなる。
	○	住宅販売会社（経営者）	・今後、運送価格や物価全体の安定が進めば、利益の確保が可能となり、賃上げにもつながる。
	○	その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・臨時ボーナスが出ることはなかったが、冬のボーナスには期待できそうである。人手不足や関西の低調な市況は改善されていないものの、全体の売上はひとまず上向き始めている。
	□	商店街（代表者）	・気候が良くなって人出の増加が期待されるものの、消費意欲はみられない。
	□	一般小売店〔貴金属製品〕（従業員）	・今後も物価の上昇が続く。
	□	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・インバウンドの動きは引き続き好調である一方、国内需要の伸び悩みが懸念される。
	□	一般小売店〔化粧品〕（経営者）	・クリスマス商戦は年間最大であり、ギフト商材の売上が通常の2倍以上となるため、セット商材や特別な企画品をそろえる予定である。どの取引先も価格志向を意識した商材が多いなか、この数か月間の客離れに歯止めがかかるかがポイントとなる。女性初の首相ということで、首相の使用している化粧品への問合せも増えているが、商材の値上げ傾向が続いていることから、来客数は厳しい状況が続くそうである。
	□	一般小売店〔野菜〕（店長）	・明確な景気刺激策が実施されなければ、今のまま良くならない。高齢者の年金も増えるわけではなく、物価の上昇に苦しむ状況が続いている。
	□	一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・余り期待できない状況が続くそうで、年末まではこの状態となりそうである。
	□	百貨店（企画担当）	・株価と為替の推移によっては、状況が大きく変化する可能性がある。
	□	百貨店（広報担当）	・新政権の発足に伴う期待感は大いだが、それがすぐに景気の回復につながるかどうかは、慎重に判断する必要がある。
	□	百貨店（マネージャー）	・大阪・関西万博が今月中旬に終了したものの、直近の状況に大きな変化はない。今後は、これまで大阪に流れていた国内外の観光客の戻りが見込まれるが、直近で大きな変化はみられず、今後への期待感は余り大きくない。
	□	百貨店（宣伝担当）	・円安や株高によって、インバウンドと富裕層の売上は好調が維持できそうであり、取引先と連携して高額品の品ぞろえを強化している。
	□	百貨店（管理担当）	・大阪・関西万博の効果は次第に薄れていくため、年末年始の集客に期待したい。
	□	百貨店（売場マネージャー）	・株高傾向によって国内富裕層の消費が活発となるなか、中間層の消費意欲は、物価の上昇もあって必ずしも芳しくない。全体としては、現状の景況感が続く予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	百貨店（マネージャー）	・大阪・関西万博の開催により、周辺の地域には悪影響もあったため、今後は良くなる可能性がある。また、政府の物価高対策で消費マインドが上向き期待はあるものの、米の減産方針によって価格が下がらなければ、食費の節約志向は続く可能性もある。
	☐	百貨店（商品担当）	・大阪・関西万博の閉幕後の好調は、一過性の動きである可能性が高い。さらに、最近の政治経済情勢の変化も、下押し材料となりやすい。
	☐	スーパー（経営者）	・物価の上昇や燃料価格の高騰が続いているため、生活防衛を目的とした低価格志向が強まりやすい。
	☐	スーパー（店長）	・物価の上昇が続く限り、食品以外の商品については、生活必需品を除いて上向き要素がない。
	☐	スーパー（店長）	・今の状況をみると良くなることはないが、新内閣には期待している。
	☐	スーパー（店長）	・食品の値上げや米の価格の高止まりが続いているため、生活防衛の姿勢は変わらない。
	☐	スーパー（店員）	・鍋物食材の売れる時期であり、販売量が少し増えるものの、きのこ類の価格は長らく変わらないため、大きな変化はない。
	☐	スーパー（企画担当）	・競合店の出店もないなど、外部環境に変化はないと予想される。
	☐	スーパー（企画）	・最低賃金は引き上げられるものの、相次ぐ値上げに賃金の上昇が追い付いていないため、景気に変化はないと予想される。
	☐	スーパー（社員）	・今月の下旬になって気温も低下し、鍋物商材を中心に売上が上向いてきた店舗が多い。野菜の価格も落ち着いてきたため、何とか客足を増やしていきたい。
	☐	スーパー（企画）	・市内の中心部では、大阪・関西万博の効果が複数の店舗の売上が好調であった。今後は旅行客の動きも落ち着くものの、インバウンド需要は以前から旺盛であるため、大きくは変わらない。
	☐	コンビニ（経営者）	・大阪・関西万博の効果がなくなり、来客数は減少傾向となりそうであるが、値上げ商品が相変わらず多いため、客単価はまだ上がると期待している。
	☐	コンビニ（経営者）	・国内では物価の上昇で消費が減っている一方、インバウンドは個人客に代わって団体客が増えつつあるため、来客数は現状維持となる。
	☐	コンビニ（経営者）	・お歳暮商品も仕入れが割当て対応となるなか、何とか良い流れが戻ってほしい。
	☐	コンビニ（店員）	・依然として、店内は外国人客で一杯となっている。
	☐	コンビニ（店員）	・物価上昇の影響で、客の買い控えの動きが続く。
	☐	コンビニ（店員）	・近隣で多くの行事が行われているようで、相変わらず多くの客の来店がみられる。
	☐	衣料品専門店（経営者）	・やはり金利がある程度上昇し、可処分所得が増えなければどうしようもない。
	☐	家電量販店（店員）	・全ては物価の上昇が原因であり、少しでも緩和が進まない限り、先行きの見通しは不透明であり、現状は打破できない。
	☐	家電量販店（店員）	・首相が代わり、景気が上向き期待は高まっているが、今後も値上げ品目は増えるため、給与が増えない限り、景気は変わらない。
	☐	乗用車販売店（経営者）	・新内閣への期待は大きい。
	☐	乗用車販売店（役員）	・富裕層を対象とした輸入車を販売しているが、車両単価の高騰もあり、富裕層も景気に左右されている様子がみられる。米国の関税問題は落ち着いたが、新内閣による物価高対策や株価の上昇効果などに頼らざるを得ず、今後も厳しい状況が続くと予想される。
	☐	乗用車販売店（営業担当）	・同じことを続けていても、状況は変わらない。低迷した景気のなかで、消費者を動かすための取組に成功しなければ、景気も上向かない。
	☐	乗用車販売店（販売担当）	・現状の景気が続けば、販売台数が伸びる見込みは薄い。消費者に収入が増加しているという実感がなければ、今後も変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	その他専門店〔食品〕（経営者）	・今後の景気対策などにもよるが、大きく変わる要因が見当たらない。
	☐	その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・株価が上昇しても、多くの消費者には関係がなく、恩恵を受けることもない。賃上げがしっかりと進まなければ、消費者が景気の改善を実感するのは困難である。
	☐	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・ガソリン税の暫定税率の廃止は確実であり、運送費などの値下がりによる物価の抑制効果に期待できるものの、それだけでは景気への影響は限定的である。実質賃金は依然として前年割れが続いており、景気が良い方向に進んでいるとは考えられない。
	☐	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・地金相場の止まらぬ上昇で、買い控える客と、更なる上昇を予想して買い集める客の差が、どう出るかは見通せない。ただし、身の回りでは前者の方が割合は多い。
	☐	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・化粧品やスキンケア用品は順調に推移している一方、気温の低下による、秋冬商材や風邪薬などの売上の増加はみられない。客単価の上昇は食料品の値上げによるものであり、特段の改善要因は見当たらないため、今後も同様の動きが続くと予想される。
	☐	その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・良くなる要素もないため、変わらない。
	☐	一般レストラン（経営者）	・大阪・関西万博の開催で、外食産業には良い影響もあったが、悪影響を受けた店舗も多い。観光客が来ない状況に加え、生活費の圧迫で外食機会が激減する状況が続いているほか、仕入価格の改定などもあり、今後も苦しい期間が続くと予想される。
	☐	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・新首相の就任後、まだ何も変わっていないため、先行きは見通せないが、迅速に様々な改革が始まることが期待される。
	☐	観光型ホテル（経営者）	・11～12月の先行予約も、引き続き好調に推移している。ただし、来年1月の先行予約の状況は非常に厳しい。
	☐	都市型ホテル（スタッフ）	・予約率などは例年並みで推移している。ただし、単価は若干上がっているものの、今一つ伸びがない。また、海外客の動きが例年並みである一方、国内需要が伸び悩んでいる。
	☐	都市型ホテル（客室担当）	・活発な動きはみられず、売上に大きな変化はないものの、その内容が変わってきている。
	☐	都市型ホテル（販売促進担当）	・客室部門は円安の影響もあり、仮予約ではあるがインバウンド需要も多く、かなりの予約が入っている。一方、レストランは9月、10月は余り良くなかったが、近隣の飲食店もそれほど潤っていない。大阪・関西万博で出費が増えた反動ともみられるが、先の読めない状況である。
	☐	タクシー運転手	・朝晩の冷え込みはあるが、観光シーズンでもあるため、今後も大きな変化はない。
	☐	タクシー運転手	・12月中旬頃までは、景気の良くなる要素が見当たらない。
	☐	通信会社（社員）	・景気全体は年末にかけて少し改善が期待できるが、テレビの買換え需要などは伸びていない。スマートフォンの新モデルの販売が好調であるため、インターネットサービスの需要増加につながることが期待される。
	☐	通信会社（社員）	・通信キャリアの商品の品質が良くないほか、電波状況や料金設定も悪い。他社からの乗換えに力を入れても、流出を防ぐための対策がなければ、厳しい状況となる。
	☐	観光名所（企画担当）	・大阪・関西万博の閉幕で、当園への来場者数の増加を期待しているが、それほど伸びていない。
	☐	競艇場（職員）	・賃上げによるプラス材料と、物価上昇などのマイナス材料があり、見極めが難しい。
	☐	その他レジャー施設〔イベントホール〕（職員）	・首相交代による経済対策への期待感はある一方、人件費の高騰、物価上昇の影響による事業の見直しや施設整備計画の見直しが必要となっている。イベント開催は順調であるものの、経費の増加が顕著である。
	☐	住宅販売会社（経営者）	・新政権による成果が明らかになるまで、現状のままと考えられる。
	☐	住宅販売会社（企画担当）	・新内閣発足の影響については、しばらく様子見の状態であり、特に大きな変動要素は見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	その他住宅〔展示場〕 （従業員）	・資材価格や人件費の高騰による、建築単価の上昇傾向は続いているものの、成約の動きは高価格帯と中価格帯以下で住みわけができている。今後も展示場全体の成約数は大きくは変わらないと予想される。
	□	その他住宅〔情報誌〕 （編集者）	・株価の上昇による富裕層の消費の好調や、外国人の不動産購入意欲も堅調であるため、不動産市場は今後も好調が続く見込みである。
	▲	一般小売店〔時計〕 （経営者）	・最近の著しい気温や気候の変化が、景気の変化に大きな影響を及ぼしている。特に年配客への影響が大きく、心が内向きになり、外出してお金を使う気にならないようである。これからの季節も安心できず、回復への期待はもてない。
	▲	一般小売店〔衣服〕 （経営者）	・新政権の経済政策がどのような結果を生むかは判断が難しいが、現在は物価上昇の影響もあり、景気が良いとは判断できない。新政権の経済政策には、今のところ大きな成果は期待しにくい。
	▲	一般小売店〔手ぬぐい〕 （経営者）	・大阪・関西万博に伴う需要がなくなるため、やや悪くなる。
	▲	コンビニ（経営者）	・クリスマスや年末年始向けの商材価格が異常に上昇しており、実質賃金が前年割れしている今年度は、見通しが厳しい。
	▲	衣料品専門店（店員）	・閑散期に入るため、来客数が減少する。
	▲	家電量販店（営業担当）	・大阪・関西万博の閉幕後は景気の動きが予想できず、先行きが不安である。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・取引先が廃業したほか、同業者の取引先も倒産しており、今のところは良くなる兆しがない。
	▲	一般レストラン（経営者）	・大阪・関西万博の閉幕に伴い、10月後半は直営カフェの来客数が減少している。
	▲	一般レストラン（店主）	・物価の上昇で客が全く動かないため、先行きの見通しは厳しい。
	▲	観光型旅館（管理担当）	・冬になって雪が降り積もれば、サッカーグラウンドが利用できなくなるため、合宿での宿泊利用が減る。
	▲	都市型ホテル（フロント）	・紅葉シーズンに入り、11月末までは好調であるが、1月は例年どおり、国内客、海外客共に動きが鈍い。
	▲	都市型ホテル（客室担当）	・予約の受注状況が前年を下回っており、特に高単価での先行販売が難しくなっている。
	▲	旅行代理店（役員）	・今後、年末年始や春休みの商戦を迎えるが、物価上昇による家計の圧迫や旅費の高騰もあり、国内旅行は良くて現状維持となる。海外旅行についても、今後の為替相場の動向に左右されるとみられる。
	▲	通信会社（経営者）	・円安傾向の継続が予想される。
	▲	通信会社（役員）	・下半期に入り、通信事業者のショッップに対する代理店手数料が見直され、特に他社からの乗換え客の獲得を重視した設計となっている。その結果、キャリアショッップでは他社乗換えの目標が達成できなければ、代理店手数料が減少することになる。
	▲	通信会社（営業担当）	・固定電話料金の値上げが、来年の1月から始まる。原価の値上げに伴う定価の引上げであり、契約を控える客が増えそうである。
	▲	ゴルフ場（支配人）	・一定の予約は入っているものの、勢いには欠けるため、今後はやや悪くなると予想される。
	▲	その他レジャー〔スポーツ施設〕 （業務担当）	・健康志向で施設の利用は拡大しているものの、全体的には景気に左右されるため、先行きが見通せない。
	▲	その他サービス〔学習塾〕 （スタッフ）	・物価の上昇が長引くなか、教育費の確保が後回しになっている。
	▲	その他サービス〔マッサージ〕 （スタッフ）	・アロマオイルを使ったマッサージで服を脱ぐため、暑い時期よりも寒い時期の方が来客数は減少する。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・新築マンションは価格が上がり過ぎており、一部の富裕層向けを除き、実需での購入は厳しい。住宅ローンの返済期間も、50年といった考えられない条件となっている。地価、建設費共に高騰していることから、今後も販売価格は下がることはなく、先行きが不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・先行きが不透明ななか、節約志向によって消費の減少が予想される。
	×	一般小売店〔ガラス細工〕（店長）	・現状をみる限り、改善するとは考えにくい。
	×	一般小売店〔花〕（店員）	・仕入価格などの高騰で、利益率が下がっている。客単価も低下しているなど、今後も明るい兆しがみられない。
	×	一般小売店〔書籍〕（管理担当）	・大阪・関西万博の閉幕により、来客数、売上共に減少が見込まれる。
	×	家電量販店（店員）	・リフォーム系商品については、ここ数年は補助金の利用を希望する客が多い。ただし、条件が年々厳しくなっているため、保留となる商談が増えている。
	×	住関連専門店（店長）	・新規客が減るなか、この3か月はリピーターが何とか売上を支えてくれたが、見通しが明るくなる材料は見当たらない。
	×	一般レストラン（店員）	・物価は徐々に上昇している一方、賃金は上がらないため、今後も期待できない。
	×	その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・物価が上がり過ぎており、将来が不安という声がある。
企業 動向 関連 (近畿)	◎	木材木製品製造業（経営者）	・新たな事業が始まる予定であり、先行きが期待される。事業が軌道に乗るまでには約3か月を要するが、このチャンスを逃さぬよう、慎重に進めていく。
	◎	化学工業（企画担当）	・年末年始は食品の最需要期であるほか、インバウンドの消費も、食品に関しては悪化することはない。
	○	化学工業（管理担当）	・新政権への期待が大きい。
	○	金属製品製造業（経営者）	・新政権への期待から、市場には全体的に明るさがみられる。
	○	建設業（経営者）	・年末や年度末にかけて、案件が増えると予想される。
	○	金融業〔保険〕（経営者）	・新内閣の発足で株価も上昇しており、景気の回復につながることを期待したい。
	○	金融業（営業担当）	・新内閣が始動し、国内景気に活気が出てきている。それに加えて、ガソリン税の暫定税率の廃止や、物価高対策などへの期待もあり、景気は回復に向かうことが予想される。
	○	金融業〔投資運用業〕（代表）	・新政権への期待は大きい。外国人問題により、引っ越しを余儀なくされた話も聞く。こうした問題への対応が進めば、労働などへの意欲も高まるため、景気反転の原動力となる。
	○	その他サービス業〔受託調査〕（調査担当）	・米国の関税による影響は依然として不透明であるが、新首相と米国大統領の関係性からみて、米国が無理を押し付けることはないため、今後は堅調な業況が予想される。
	○	その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・どの小売チェーンも足元の低迷を背景に、季節商材の早期展開に積極的である。今後の安定した政権運営、経済政策の実行が期待されるなか、一定の賃上げが続けば、消費が急拡大する可能性も秘めている。消費者を安心させる政策の実施が期待される。
	□	食料品製造業（従業員）	・政治や為替の動きもあるが、急には良くならない。年末年始は商品が最も動く時期であるが、大きな受注につながるような問合せは少ない。
	□	食料品製造業（営業担当）	・10月からの値上げで更に価格が上がるため、飲料の売上は伸びない。
	□	繊維工業（総務担当）	・催事では同じ客が参加するケースが増えている。毎回は購入できないため、販売数が伸びない状況に変化はない。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・取引先による増産情報がない。
	□	化学工業（製造担当）	・今後も現状の動きが続くと予想される。
	□	プラスチック製品製造業（経営者）	・新製品の受注が増えているわけではなく、見通しは立てにくい。過去のリピート客の動きが一過性で終わる気配はなく、しばらくは続くと予想される。
	□	金属製品製造業（製造担当）	・取引先が撤退した製品を製造することで、売上の大きな増加につながるかどうかは判断が難しい。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・受注の引き合い状況からみて、近いうちに景況が良くなることはない。
	□	一般機械器具製造業（設計担当）	・受注量は改善傾向にあるが、コスト的には厳しい状況が続いており、景気が上向くまでにはまだ時間が掛かる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	電気機械器具製造業（宣伝担当）	・物価の上昇が落ち着く気配はなく、先行きは不透明である。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・今月の悪い状況が続くと予想している。
	□	建設業（経営者）	・建設資材価格が高騰するなか、長期の工事では工期の途中での価格転嫁は困難なため、先行きが不安である。また、人手不足であっても、働き方改革の影響で確実に休みを取得する必要があるため、発注側も今後は工期設定の見直しを考えてほしい。
	□	輸送業（営業担当）	・商品か送料の値下げをしなければ、客離れが進む。
	□	金融業（営業担当）	・新内閣による今後の経済政策は不透明であり、大きな変化はないと予想される。
	□	司法書士	・新内閣が発足したが、まだ始まったばかりであり、短期的に大きな変化はない。
	□	その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・今年に入って材料費が数回にわたって値上げとなり、11月からも値上げが予定されているなど、厳しい物価上昇が続く。
	□	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・物価上昇の影響はあるものの、今に始まったことではないため、それなりに対処することは可能である。一方、訪日外国人は大阪・関西万博の閉幕後も依然として増加傾向にあり、今後も増加の動きが続くと予想される。
	□	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・物価の上昇が続いている一方、受注量は少ないため、売上は前年並みで伸びていない。
	▲	食料品製造業（管理担当）	・大阪・関西万博の閉幕や、インバウンド効果の減少でやや悪化する。
	▲	化学工業（経営者）	・営業担当からの報告ではまだ良い話はなく、今後の新政権の対応に期待したい。
	▲	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・株価の上昇が続いているが、一部の取引先を除いて、景気が良いという実感はない。相変わらず物価の上昇も続いており、財布のひもは固いままである。当社の受注量も減少傾向にあり、この傾向はしばらく続くことが予想される。
	▲	建設業（経営者）	・住宅の新築件数は明らかに減少している。金額を抑えるために、親との同居や中古住宅のリフォームに需要が流れている。
	▲	輸送業（商品管理担当）	・例年11月から1月は売上が減るため、今年も同様の傾向となる。
	▲	通信業（管理担当）	・米の価格が上がるため、景気が悪くなる。
	▲	不動産業（営業担当）	・商店街での物販店の撤退が続いており、将来的にも続くことが予想される。ネット経由での購入が増え、実店舗で購入しなくなっていることが要因とみられる。
	▲	広告代理店（営業担当）	・大阪・関西万博が閉幕した11月以降は、広告出稿を控える取引先が出てきている。
	×	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・経済環境の悪化や、業界特有の要因により悪くなる。
	×	輸送業（経営者）	・取引先からは、売上の減少に伴い、来年1月から専属車を減車するとの通知がきている。
	×	輸送業（営業担当）	・食料品や衣料品、レジャー関係の荷物が増え、電機や機械関連での前年割れをカバーしているものの、利益はかなり減っている。
雇用 関連 (近畿)	◎	民間職業紹介機関（営業担当）	・年末に向けて求人数が増えそうである。
	○	人材派遣会社（役員）	・新政権による経済政策に期待したい。
	○	職業安定所（職員）	・地場産業である製造業や卸売・小売業では、業績が好調な企業が増えつつある。
	○	民間職業紹介機関（営業担当）	・2027年卒向けの採用活動の予算は増加傾向にあり、特に早期のインターンシップからの接触を強化する企業が多い。求職者側では、早くも2028年卒の動きが始まっており、2027年卒を主なターゲットとした業界研究イベントにも、2028年卒の2回生の参加が少なくない。
	○	学校〔大学〕（就職担当）	・今後は物価高対策が実行される見込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	学校〔大学〕（就職担当）	・物価高対策のほか、安全保障を始めとする投資など、新政権の発足への期待感が高い。これに医療機関や福祉施設での収入増につながる施策が加われば、雇用の流れも変わることが期待される。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・求職者のキャリアチェンジにより、事務以外の業務でキャリアを積んでいかなければ、なかなか今後の賃上げにはつながらない。
	□	人材派遣会社（支店長）	・今年度はこのままの状況が続くことが予想される。
	□	人材派遣会社（管理担当）	・大阪・関西万博は閉幕したが、今後もしばらくは現状の動きが続くようである。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・新内閣発足により、年取の壁の引上げが進む期待がある。これまで、扶養控除の範囲内や短時間の勤務で働いてきた人にとって、働きやすさにつながる好材料であり、求職者の動きが活発になる可能性もある。
	□	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・景気判断は株価の推移ではなく、物価や平均賃金によって行うべきであり、今後数か月先も大きな変化はないと予想される。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・大阪・関西万博の閉幕による影響は不透明な部分が多いが、関西企業のプロモーション費用の動きをみると、現状と大きくは変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・求人数の動向をみると、未充足求人の更新は着実に進んでいるため、近い将来に悪化する要素は見当たらない。
	□	民間職業紹介機関（職員）	・事業者からは、年度末に向けても状況は変わらないという声が多い。
	□	民間職業紹介機関（営業担当）	・短期的に変化はないと予想される。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・大阪・関西万博の閉幕による先行き不透明感を理由に、飲食店や小売店には求人を抑える動きがみられる。
	▲	職業安定所（職員）	・最低賃金の大幅な引上げにより、中小企業の負担が増えることへの不安の声が大きい。求人の出し控えや、既存の従業員と賃金の調整も必要になる。物価の上昇や人件費の増加で、10月から値上げを実施した企業も多いが、価格転嫁が難しいといった声も少なくない。また、人手不足による受注調整の声もあるなど、先行きは不安が大きく、景気はやや悪くなることが予想される。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	・雇用条件の改善がみられるものの、物価の上昇を勘案すると、効果は限定的である。
	×	—	—

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (中国)	◎	＊	＊
	○	商店街（代表者）	・近年、商店街に新規出店した店舗は順調に推移しており、現在も1店舗が開業に向けて改装中であることから、今後更なる活性化が期待される。
	○	商店街（代表者）	・当県を舞台にしたドラマの影響により観光客が増え、インバウンドも増加している。新政権の減税政策の効果を期待する。
	○	商店街（理事）	・クリスマスや正月の準備で消費が増えてくるため、景気は良くなるはずである。
	○	一般小売店〔印章〕（経営者）	・年末年始に向けて季節商材が動き出す。
	○	一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・気候が良くなり、人通りが増え、売上も伸びてくる。
	○	スーパー（店長）	・最低賃金引上げもあり、年末年始に向けて少しでも景気が上向くことを期待したい。
	○	スーパー（販売担当）	・新内閣の経済対策次第で景気は上向く。
	○	衣料品専門店（代表）	・ガソリン減税が実現した場合、物流コストが下がり、物価高も落ち着くとみられる。
	○	家電量販店（副店長）	・先週から今週にかけて来客数の伸びが著しい。暖房器具が売れ始めたのが大きい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	乗用車販売店（営業担当）	・ 新型車の注目度は高く、物価高騰の影響を受けにくい様子である。
	○	乗用車販売店（業務担当）	・ メーカーの生産が順調に推移し、国の物価高対策が進めば、景気も上向いていく。
	○	乗用車販売店（リース担当）	・ 新首相の就任に伴い、景気が回復するという声を客から聞くことがある。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・ 年末から3月に向け、市場の動きは活発化していく。来客数や販売量も期待できる時期に入ってくる。今月の遅れを取り戻し、今年度を良い結果で締めくりたい。
	○	その他専門店〔土産物〕（経営者）	・ 経済対策への期待から、全体的な動きが良くなると予測している。
	○	その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・ 観光客やインバウンド、修学旅行生が増えるとみられる。
	○	その他専門店〔革製品〕（店主）	・ 販売数が増加している。これから年末年始に向かうので、景気が良くなっていくとみている。
	○	その他専門店〔宝石店〕（店員）	・ 自分への御褒美やボーナス時期の購入を見据えた来店が2割ほど増加している。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・ 今年の冬は寒くなる予報で、小売業にとっては追い風となる。暖冬だと冬物商材や防寒商品、ホットメニューが苦戦する。
	○	高級レストラン（事業戦略担当）	・ 11月以降もイベントへの参画を予定しており、来客数の増加が見込まれる。
	○	一般レストラン（経営者）	・ 年末に向けて人の動きが出てきて、景気も少し良くなるという期待がある。新政権による経済政策が進めば、状況が多少改善する可能性がある。
	○	一般レストラン（店長）	・ 年末に向け、予約状況はやや回復傾向にあるため、今後の更なる改善が期待される。来店控えの動きも、年末頃には落ち着きを見せる可能性がある。
	○	都市型ホテル（宿泊担当）	・ 地域のイベントが増え、テレビドラマのロケ地となっているため、露出機会の増加による認知拡大が見込まれる。
	○	都市型ホテル（企画担当）	・ 秋の紅葉シーズンから年明けにかけては業界全体の繁忙期であり、国内外共に需要が活発化する見通しである。
	○	タクシー運転手	・ 繁忙期に入るため、人の動きが出てきて、乗車率も上がり、前年より良くなることを期待する。
	○	タクシー運転手	・ 新首相の誕生により、景気対策や物価高騰への対応が加速することが期待される。また、年末に向けて忘年会などの繁忙期を迎えることから、良くなると期待する。
	○	通信会社（総務担当）	・ 首相交代により物価高対策が進んでいくとみられる。
	○	通信会社（企画・総務担当）	・ 通信速度の速いインターネットサービスが好評で、引き合いが増加傾向にある。
	○	通信会社（運用担当）	・ 首相交代による景気上昇を期待する。
	○	テーマパーク（営業担当）	・ 11月から新たな要素が加わるイルミネーションが開幕する。
	○	テーマパーク（業務担当）	・ 11月と12月の週末は順調に予約が入っており、今後もこの傾向が継続することが期待される。ただ、前年よりもかなり低い水準で推移している。
	○	競艇場（企画営業担当）	・ 12月と1月の1日平均売上は今月を上回る見込みである。
	□	商店街（代表者）	・ 客の購買意欲が高まっているため、継続的な成果につなげられるよう取り組みたい。
	□	商店街（代表者）	・ 景気が良くなる雰囲気はあるが、しばらくは現状維持と考えられる。
	□	百貨店（広報担当）	・ 可処分所得が増えるような効果的な経済政策が発表されたとしても、実際の生活で実感するのはもう少し後になる。そもそも大多数を占める中間層の消費マインドを高めることは容易ではないと考えられる。
	□	百貨店（営業担当）	・ 経済的に余裕のある客は高価格帯のハイブランド商品を求めるが、そうでない客は一般的なブランド品でさえ購買を控える傾向がみられる。
	□	百貨店（営業担当）	・ 2025年3月から状況が改善されていない。
	□	百貨店（売場担当）	・ これからクリスマス、お歳暮関連の年末商戦が始まるが、今までの状況からして景気が好転する要因はない。引き続き厳しい状況が続くとみる。
	□	百貨店（外商担当）	・ 物価高が止まらない限り、景気回復は見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	百貨店（総務・経理担当）	・新政権となったものの、現状では政策が不透明である。
	☐	スーパー（店長）	・年末年始に向け、現状は変わらないとみられる。更なる値上げもあり、前年比でも単価上昇は明らかである。食料品に限らず、住居関連、余暇、衣料品に関しても同じ傾向である。収入も大きく変わらず、生活支出の負担感は依然として高い状況が続く。
	☐	スーパー（店長）	・特売日にまとめ買いする傾向は変わらず、節約志向が続いている傾向から、景気としては現状維持で推移していくとみられる。
	☐	スーパー（業務開発担当）	・良くなってほしいが、最低賃金上昇の実感12月になる。商品の値上げで売上は増えるが、販売点数や客単価が前年を超えるような状況にはない。
	☐	スーパー（営業システム担当）	・特売日やお買い得な特典がある日などは来客数が大幅に増えるものの、通常の日はかなり落ち込む。買上点数も同様で、かなりの節約意識がうかがえる。
	☐	スーパー（販売担当）	・例年であれば、プロ野球リーグの優勝に伴うセールなどで地域全体が盛り上がりを見せるが、今年は主にメジャーリーグ関連の話題が中心となっており、国内のイベントとの連動性に乏しく、地域の活気にはつながっていない。
	☐	コンビニ（店長）	・例年11月は、人出も売上もかなり落ちる傾向にある。
	☐	衣料品専門店（経営者）	・客が少ない日があるが、その要因は明確ではなく、現時点では大きく状況が悪化する要素は少ない。
	☐	衣料品専門店（経営者）	・買回品の値上げが続き、家計は苦しいままである。
	☐	家電量販店（店長）	・秋の気配がみられ、過ごしやすい気候となっているものの、目立った景気対策はなく、商売は低調のまま推移する見込みである。
	☐	家電量販店（企画担当）	・クリスマス商戦を控え、ゲーム機の動きは好調に推移すると見込まれるものの、目新しい商品が乏しく、全体的な動きに変化はないとみられる。新政権に期待しているが、少数政権政党であることから大胆な政策実行は難しいかもしれない。ただし、前向きの雰囲気がみられるため、今後の展開に期待したい。
	☐	乗用車販売店（経営者）	・2か月先までの販売案件がまだ決まっていない。
	☐	乗用車販売店（店長）	・新型車などの新しい動きがないため、大きく上向くことは期待しにくい。
	☐	乗用車販売店（営業担当）	・3か月前と比べ、来客数、販売台数、車検台数に大きな変化はない。客の節約志向は変わらず、他社の安い車検やネット保険が多い。
	☐	その他専門店〔時計〕（経営者）	・食品価格の高騰により、スーパーなどは売上増加が見込まれるが、買回品の売上は厳しいと予想する。
	☐	一般レストラン（経営者）	・政府によるガソリン減税を始めとした物価対策により、景気回復ムードが広がれば、忘年会や新年会の需要とあいまって、売上増加が見込める。一方で、一般家庭においては外食の頻度が大きく変化する見込みは薄く、節約志向は継続するとみられる。
	☐	一般レストラン（経営者）	・首相が変わり、景気対策に期待したい。
	☐	旅行代理店（支店長）	・再び円安傾向が強まっていることから、来年以降の海外旅行需要への影響が懸念される。大阪・関西万博が閉幕し、日帰り旅行に加え、宿泊を伴う国内旅行の増加が期待される。
	☐	タクシー会社（営業所長）	・特にイベントもなく、前年と比較しても余り変化はないとみられる。繁忙時間帯が徐々に短くなっており、期待を持っていない。
	☐	通信会社（企画担当）	・当社サービスに関して関税率の直接的な影響はなく、インバウンド需要の増減も消費動向に大きな影響を与えていない。身の回りの生活用品の値上げは続いているが、当社サービスの価格改定後も、ボーナスシーズンを迎えることで売上への大きな下振れは想定していない。一方で、新料金プランの導入による新たな客層への訴求にも期待を寄せていることから、現状維持の見通しである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	放送通信サービス（総務経理担当）	・ここ数か月、大きな動きはないが、物価高や新内閣発足の影響は引き続き注視が必要とみられる。
	□	ゴルフ場（営業担当）	・年末の予約状況は変わらない。1月以降はまだ予約が少ないため、天候に左右される。
	□	美容室（経営者）	・客の節約志向に変化はなく、物価高に見合う収入の伸びがなければ、景気は悪くなる。
	□	美容室（経営者）	・収入が増えない限り、節約志向に変化はない。
	□	美容室（経営者）	・今後の物価上昇に対して不安を抱く客は依然として多い。最低賃金の上げが企業側の負担となっている。中小企業にとっては、厳しい経営環境の中で踏ん張りどころとなっている。
	□	設計事務所	・計画は中止ではなく、一部は延期、一部は予定どおり開始される見通しであり、進行していく見通しである。
	□	設計事務所（経営者）	・建築費の高止まりや人手不足の状況は当面改善される見込みはない。
	□	設計事務所（経営者）	・接客を通じて得られる印象としては、客に大きな所得変化はなく、一部の客の動きにとどまっているため、全体的な消費行動の変化は起こりにくい。
	□	住宅販売会社（事業推進担当）	・新首相の就任により、長期的には景気回復への期待もあるが、当面は現状維持の傾向が続くとみられる。かつては、しゅん工と同時に完売するのが一般的であったが、現在では販売計画をしゅん工後1年以内の完売を目標としており、郊外エリアではしゅん工後2年での完売を見込むケースもある。
	□	住宅販売会社（住宅設計担当）	・販売価格が高騰するなかで、客は政府の補助金や値引きを最大限に引き出して、少しでも有利な条件での購入をしたいと考える。例年の傾向から、年明け以降に購買意欲が高まる。
	▲	一般小売店〔食品〕	・ビールなど酒類の値上げにより、販売数量が減少して売上が悪化する。
	▲	一般小売店〔茶〕（経営者）	・今は下級品の茶葉が収穫される時期だが、今年はその価格が新茶と変わらない水準で取引されるという異例の状況となっている。品質に対して価格が下がらない市場構造となっており、結果として、玄米茶やほうじ茶など、日常的に消費される一般茶の原料が不足している。数か月以内に、これらの商品が店頭から姿を消す可能性も懸念される。
	▲	スーパー（店長）	・1品単価の上昇が止まらず、かつその上昇ペースが加速していることから、生活は厳しさを増す。
	▲	スーパー（店長）	・値上げが続くなか、低価格品や割引商品の売上が伸びる。一方で、買上点数は減少しており、今後更に厳しい状況が予想される。
	▲	スーパー（財務担当）	・物価の上昇が今後も続き、節約による買い控えにより1人当たりの買上点数の減少が続き、客単価の前年割れが続く。
	▲	コンビニ（副地域ブロック長）	・店の経営面で考えるとマイナス材料が多い。特に人件費や光熱費の高騰が顕著であり、売上が横ばいだと経営が苦しくなる。
	▲	コンビニ（支店長）	・売上減少に加え、当月からの最低賃金上昇に伴い経営が悪化し、悪いサイクルに突入している。
	▲	乗用車販売店（統括）	・新型車の販売時期が遅れており、厳しい状況が続く。
	▲	自動車備品販売店（経営者）	・物価高で生活必需品以外への支出が抑制される傾向があり、当社の商品は買い控えられている。
	▲	観光型ホテル（副支配人）	・年末年始は例年どおり宿泊の予約が多いが、それ以後は極端に落ち込んでいる。
	▲	都市型ホテル（総支配人）	・12月の宿泊稼働において、現時点での予約獲得ペースは前年同月比で5%以上下回っている。
	▲	都市型ホテル（宿泊担当）	・12月以降の予約状況は、前年同時期をやや下回る水準で推移しており、今月と比較しても稼働率の伸びが鈍化する可能性がある。
	▲	通信会社（営業担当）	・実質賃金はマイナス傾向にあり、年金受給額が増えるわけでもないため、景気の緩やかな悪化は継続する。
	▲	通信会社（広報担当）	・価格上昇に客の予算が追い付いていない。
	×	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・物価の上昇が進むと、より物が売れなくなってしまう。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	コンビニ（エリア担当）	・今年に入ってから来客数の減少幅が拡大している。年末のクリスマス商戦を控えた現在、建設会社の客からは、今年の景気が非常に悪く、注文が出せるか分からないという声を聞く。商品価格の上昇が続いていることから、政府の景気対策が必須となってくる。
	×	住関連専門店（営業担当）	・来客数が増えない。
	×	観光型ホテル（予約担当）	・例年12月以降は、予約数が急激に減少する傾向がある。
企業 動向 関連 (中国)	◎	食料品製造業（営業担当）	・今後の販売促進が決まっており、受注も前年と比べて増加が見込める。
	◎	輸送用機械器具製造業（経営者）	・新車が立ち上がるため、忙しくなる。
	○	食料品製造業（経営者）	・人の動きが増えており、このまま続けば理想的だが、そう簡単にはいかない。地道に良い商品を提供できるように努めたい。
	○	化学工業（総務担当）	・半導体関連材料の売行きが好調である。
	○	一般機械器具製造業（管理担当）	・米国の関税対策などの施策が着実に成果を上げつつあり、今後も実績として蓄積されることが期待される。また、円安の進行により、売上の増加が見込める。
	○	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・取引先の内示情報より、景気は良くなる。
	○	輸送業	・受注が増えている。
	○	輸送業（企画担当）	・新政権発足により、景気の押し上げが若干期待できる。
	○	通信業（営業担当）	・新政権での経済政策に期待する。
	○	金融業（副支店長）	・域内の大型工場跡地において、大手自動車メーカーによる新工場の建設が予定されており、それに伴う経済的波及効果により、地元企業への好影響が期待される。
	○	金融業（経済産業調査担当）	・新政権の経済政策による消費の下支えに期待したい。
	□	農林水産業（従業員）	・状況が好転する要素がない。
	□	繊維工業（財務担当）	・物価の上昇により家計への負担は大きい、年末商戦が活発化することで、景気は現状を維持する。
	□	化学工業（総務担当）	・自動車産業等において、国内生産が縮小傾向になれば、その影響を受けて、身の回りの景気が後退する懸念がある。
	□	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・再開された大口案件の製造が進行中であり、当面は現在の生産体制が維持される見通しである。
	□	鉄鋼業（総務担当）	・取引先の動向に特に変化がみられない。
	□	非鉄金属製造業（業務担当）	・業界や事業分野により濃淡はあるが、はっきりとした景気変動の兆候はみられない。
	□	一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。
	□	建設業（経営者）	・人材不足や建設コストの高騰が続いているものの、前年並みの完工高と利益の確保が見込まれている。
	□	建設業（総務担当）	・近日中に、準備工事等で繁忙な状態になると予想される。
	□	輸送業（業務推進担当）	・特に大きなプラス要素やマイナス要素もなく、取引先の動向にも目立った様子はない。
	□	輸送業（営業担当）	・見積り等、新規引き合い動向に変化はみられない。
	□	通信業（企画担当）	・データセンターやICT、クラウド関連の分野では変動要素が少なく、現状維持の傾向が続く。
	□	不動産業（総務担当）	・賃貸住宅の需要が落ち着いているため、年内に大きな変動はない。
	□	広告代理店（営業担当）	・景気は上向き傾向であるが、人手不足や材料価格の高騰などの影響もあり、本格的な景気回復には至っていない状況である。
	□	会計事務所（経営者）	・補助金による支援を背景にコンサルティング業務の増加が期待される一方で、人件費の負担増が大きな課題となっている。
	▲	金属製品製造業（総務担当）	・過去1年間にわたり継続して受注していた特需案件が10月で終了するため、2026年はその受注減を補う必要がある。しかし、取引先から前向きな話はなく、受注の減少が見込まれる。
	▲	電気機械器具製造業（総務担当）	・全体的に売上が落ち込む見通しではあるものの、最低賃金引上げに伴う賃上げ対応も必要となり、業況は悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	建設業	・資材や労務費の高騰、食料品等の価格上昇が続いており、賃金上昇が追い付いていない。
	×	—	—
雇用 関連 (中国)	◎	—	—
	○	民間職業紹介機関（職員）	・日本人に依存しない外国人採用を強化している企業も多く、短期的な雇用にとどまらず、優秀な人材を正社員として登用し、定着を図る動きもある。日本人が敬遠しがちな転居を伴う異動についても、地域へのこだわりが少ない外国人は、それに見合う手当や報酬が提示されれば、積極的に応じる傾向がある。企業としても機会損失を防げ、売上の拡大につなげることができ、その成果を社員に還元するという好循環が生まれている。
	□	人材派遣会社（支店長）	・例年、年末年始にかけては繁忙期対応の人材ニーズが高まる傾向にあるが、今年はまだその動きがない。ただし、求人数自体に大きな変化はなく、誰でもできる業務というより、専門的なスキルを要する案件が中心であるため、例年と同様の傾向が続いている。
	□	人材派遣会社（経営企画担当）	・プラス要因やマイナス要因となるような決定的な変化の兆しは見受けられない。
	□	人材派遣会社（事業部長）	・為替やインフレの影響を受けて業績が堅調な企業は多いものの、実質的には厳しい状況にある企業も多いことから、これ以上の積極的な採用活動に踏み切るのは難しいと考えられる。
	□	求人情報誌製作会社（総務担当）	・忘年会など、一時的なイベントへの支出は見込まれるものの、それ以外の消費拡大は期待できない。
	□	求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	・半年、1年後に向けた採用人数に大きな変動はみられない。
	□	求人情報誌製作会社（広告担当）	・自動車業界は厳しい状況が続いており、採用人数は変わらないが、採用に掛ける総予算は減少傾向である。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新首相が誕生し、明るい兆しがみえることは確かであるが、積極財政の影響により、所得格差がますます拡大することを懸念する。安定した政権運営による経済政策を期待する。
	□	職業安定所（職員）	・新総裁の就任により、景気回復の期待感はあるものの、実態がまだみえていない。
	□	職業安定所（事業所部門）	・比較的規模の大きい事業所は好調な様子である。一方で、中小規模の事業所は厳しい様子であるため、全体としては景気に大きな変動が生じる可能性は低い。
	□	職業安定所（事業所担当）	・最低賃金引上げにより、求人の提出を控える企業も出てくることが予想されるが、深刻な人手不足を背景に、必要な人材確保のため、全体としては例年並みの求人票提出が続くと予測される。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・政治情勢によって今後変化が生じる可能性はあるものの、年内については大きな動きはないと推察する。
	□	学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・新卒採用活動が一段落するなか、来年度の新卒採用に向けた動きが少しずつみられる。景気を左右するような顕著な動きはなく、景気はおおむね横ばいで推移しているものとみられる。
	▲	人材派遣会社（求職者対応）	・例年、翌年1月までは応募数が伸び悩む傾向が続く。
	▲	職業安定所（職員）	・10月に入り、採用に至る人数が少ない印象を受ける。最低賃金引上げの影響が一因と考えられるが、この傾向はしばらく続く。
	▲	民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・この時期は例年、顕在層の動きが鈍くなるが、求人数は新年度を見据えて緩やかに増加傾向にある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	—	—

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)	◎	その他専門店〔酒〕 (経営者)	・年末が近づいてくことでお歳暮などの商品が売れることから、売上は良くなるとみられる。
	○	商店街（常務理事）	・初めての女性首相の誕生に伴い、首相本人の動きや手腕に期待が高まっている。日本株の株価上昇もあり、景気の先行きに対して多くの消費者が久しぶりに明るさを感じ取っている。結果が早くもたらされる政策の実現が喫緊の課題であるとみられる。
	○	スーパー（店長）	・新政権による景気対策の効果が出てくると期待している。
	○	スーパー（人事）	・新政権への期待感に市場が反応していくことで、景気は上向くとみられる。
	○	スーパー（財務担当）	・新政権の発足で、心理的効果と株高傾向により節約志向が減退するとみられる。
	○	衣料品専門店（経営者）	・気温次第ではあるが、涼しい状況が続くと売上が増加するとみられる。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	・10月に入り来客数が戻ってきている。年内近隣コンベンションなどで集客も見込めるため売上は増加するとみられる。
	○	一般レストラン（経営者）	・行事が多く気候による影響も少ない時期でもあり、来店機会が増えるとみられる。
	○	旅行代理店（部長）	・首相交代もあり、経済対策への期待感があるとみられる。
	○	タクシー運転手	・忘年会、新年会により忙しくなるとみられる。平日の利用者は少ないが、週末には利用者は増える。自社のタクシー保有台数が以前の半分ほどになっており、どうにか対応している。
	○	通信会社（営業部長）	・年末商戦を迎え、業界各社共に販路拡大の機会を捉えた施策が行われることが予想され、市場がにぎわっていくとみられる。
	○	観光遊園地（主幹）	・年末年始が最大9連休となり、観光客が多くなるとみられる。
	○	美容室（経営者）	・11月は変わらないとみているが、12月になると少しずつ客が動き出すとみられる。また、12月は帰省客が増えると期待している。
	○	美容室（経営者）	・年末年始で忙しくなる時期であり、良くなるとみられる。
	○	設計事務所（所長）	・建築費等の上昇が続くとの認識が世間で広まっており、設備投資に足踏みしていた会社が設備投資を始めている。
	□	商店街（代表者）	・株価が初の5万円を超えた。日本経済を正常な状態に戻すためには良質なインフレがしばらく続くことが必要であり、国民の生活を豊かにする政治に期待したい。
	□	商店街（代表者）	・商店街内の老舗店舗の廃業や撤退により、経営者の気持ちが落ち込んでいる。客も同様であるとみられる。
	□	商店街（代表者）	・新首相が決まったが、政治は停滞しており客から景気の良い話は聞かない。減税等の景気対策が期待できるが、為替変動による物価高騰から客の財布のひもが緩む気配がない。購買意欲が向上しないとみられる。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	・先が見通せない状況である。同業他社からも不安の声が聞こえてくる。良くなることはないともみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	コンビニ（商品担当）	・第1次産業の支援を今の政治ではできていないとみられる。気候変動も加速しており、厳しい環境が続くとみられる。
	☐	コンビニ（総務）	・環境に変化がないとみられる。
	☐	衣料品専門店（経営者）	・例年は年末にかけて気温も低くなりアウター類の購入が増加するが、今年は物価高の影響もあり、客の購入意欲が下がっているとみられ、景気は変わらない。
	☐	衣料品専門店（営業責任者）	・物価が高止まりしており、顧客との会話のなかから購買意欲が低下しているようにみられることが多く、今まで以上に衣料品への支出順位の低下がみられる。
	☐	家電量販店（店員）	・ボーナス、新生活準備と売上が増加するとみられる。
	☐	家電量販店（副店長）	・プラスに転じる大きな要因もなく、競合店による価格競争も多くなってきているため、厳しい状況は続くともみられる。
	☐	乗用車販売業（営業担当）	・受注停止が続くとみられる。
	☐	乗用車販売店（従業員）	・日々の物価上昇に伴い、消費意欲が向上する気配はない。しばらくは現状のままであるとみられる。
	☐	乗用車販売店（役員）	・物価は上昇しているが、株価も上がっており、消費動向に大きな変化はないとみられる。
	☐	都市型ホテル（経営者）	・政策次第であるが、現状では不透明である。
	☐	通信会社（営業担当）	・年末年始に入るが、物価高騰などの影響により財布のひもは固くそこまで期待はできないとみられる。
	☐	競艇場（マネージャー）	・大きなレースが今月開催されるが、物価高に客が慣れてきており、投票に掛ける金額も通常どおりが続くとみられる。
	☒	一般小売店〔生花〕（経営者）	・商品価格は上がってきているが、客単価は変わらないか、下がってきているとみられる。
	☒	スーパー（店長）	・来客数の減少傾向がみられる。
	☒	スーパー（統括担当）	・売上が前年割れし始めており、景気が悪いとみられる。
	☒	コンビニ（店長）	・コンビニで買物ができない層が増えていくとみられる。
	☒	衣料品専門店（経営者）	・物価高対策が遅れているとみられる。
	☒	観光型旅館（経営者）	・12月、1月は宿泊観光業にとって閑散期になることや、直近の手元の見立てにおいても10月、11月に比べると弱い状況である。
	☒	タクシー運転手	・四国遍路に関連した仕事が減少することから、売上は減少するとみられる。
企業 動向 関連 (四国)	☒	—	—
	☒	食料品製造業（商品統括）	・製造原価の上昇は、原材料費や人件費、流通費の上昇が原因であり、利益を確保した価格で販売ができています。販売量の減少はあるものの決算は良好である。今後は収入の上昇が物価上昇を上回り、販売数量が増加するとみられる。
	☐	木材木製品製造業（営業部長）	・住宅メーカー各社も好調に受注が推移している。価格転嫁を行い下期は利益確保を目指している。
	☐	パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・新商品が採用されたので、その分売上が上昇するとみられる。リピートされるようにしなければ、継続的な売上増加とはならない。
	☐	化学工業（所長）	・政治空白の期間を抜けたことに期待したい。
	☐	鉄鋼業（総務部長）	・新政権に期待したい。
	☐	電気機械器具製造業（経営者）	・自動車関係会社への米国関税政策の影響が大きいが、新政権発足により改善するものとみられる。
	☐	電気機械器具製造業（経理）	・我が国の新政権による活発な経済政策により、具体的な施策の実現性が期待される。
	☐	建設業（経営者）	・新政権の積極財政により、景気は良くなるとみられる。
	☐	輸送業（経営者）	・首相が変わり、我が国の変革を期待する。
	☐	繊維工業（経営者）	・工場での加工代金や仕入商品の値上げが続いており、当社も12月から主力商品の一部を値上げする。当社から見て価格が安価な商品や採算的に厳しい商品がよく売れており、人件費の高騰もあり採算が厳しくなるとみられる。
	☐	建設業（経営者）	・政治が落ち着かないことから、ここ2～3か月では変わらないとみられる。
	☐	通信会社（総務担当）	・年末、年度末へ向けての受注見込み案件の積上げが進んでいない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	通信業（企画・売上管理）	・ 2～3か月後に特に大きなトビックスがない。
	□	広告代理店（経営者）	・ 人手不足に伴う採用策は増えているが、物価高騰の影響もあり多くの客は販売促進に慎重であり、余り大きくは変わらないとみられる。
	▲	食料品製造業（経営者）	・ 人件費や電気代、物流費など様々な経費がかさんでいることに加え、為替変動の影響から海外製品が高騰しているが、製品価格に転嫁できないことから収益が悪化するとみられる。
	▲	金融業（副支店長）	・ 物価上昇が賃金上昇を上回っており、また、金利の上昇も見込まれることから、景気は悪化するとみられる。
	×	—	—
雇用 関連 (四国)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（マネージャー）	・ 新政権への期待感から、短期的には良くなるとみられる。
	○	求人情報誌（営業）	・ 製造業では受注量が増えており、観光サービス業界でも集客は順調であり人手不足は継続するが、景気としてはやや良くなるとみられる。
	○	求人情報誌製作会社（経営者）	・ 年末年始にかけてアルバイトの求人数が増加するとみられる。
	□	職業安定所（求人開発）	・ 最低賃金が改定されるが月給者への影響は少なく、パートアルバイトにおいても時給が上昇しても年収の壁の影響があり、結果的に収入の増加が見込めない者も多い。物価対策について具体的な政策が示されていないため、今後を不安視する求人も多い。
	□	民間職業紹介機関（所長）	・ 都市圏での求人数は増加傾向にあるが、地方においては横ばいが続いており、数か月先に状況が変わらないとみられる。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・ 企業の景況感は大きく変わらないが、人手不足は継続している。
	▲	人材派遣会社（総務部長）	・ 最低賃金が予想以上に上昇したため、利益を圧迫するとみられる。
	▲	人材派遣会社（オフィス責任者）	・ 最低賃金が上昇し、企業の負担が増加するが、価格転嫁ができる企業ばかりではないとみられる。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ 最低賃金が上がるため、地方の中小企業は厳しくなるとみられる。景気が良くなるような話題が出ることに期待したい。
	×	—	—

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	◎	一般小売店〔生花〕（経営者）	・ 年末に向け、お供え用の花や正月用の門松などの需要があるため例年景気は良くなるが、様々なラッピングペーパーやガソリン代など経費が増加し、花の仕入れも上昇しているため今後の利益が危惧される。
	◎	住関連専門店（従業員）	・ 今後は冷え込みが進むことで羽毛布団などの高単価商材の需要が高まると期待している。
	◎	ゴルフ場（従業員）	・ 韓国からの予約が過去最高であった前年より予約が多いペースで推移している。それに伴い、単価も徐々に上昇している。
	○	商店街（代表者）	・ 年末商戦がしばらく続く傾向にあると予想され、少量ではあるが年賀状の印刷物の売上増加が見込まれる。
	○	商店街（代表者）	・ 物価高に若干慣れが出てきているが、政府の経済対策にも期待が高まり、消費行動は上向くと予想される。低所得者への対策を急がなければ、地方の商店街への効果が期待できなくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	百貨店（営業担当）	・商品価格が上昇しても欲しい品を購入する姿がみられる。クレジット・友の会・プレミアム付商品券・コード決済の利用やポイント獲得で堅実な決済手段が浸透しており、年末に向けておせちの受注も順調となり品切れも発生している。今後は冬物衣料の展開や恒例の物産展、お歳暮商戦の開始で来客数が増加し、国内ツアーやクルーズ船寄港増加で国内外の人の流入を見込んでいる。
	○	百貨店（リーダー）	・年末に向けて、贈物や年末年始の準備の需要が高まるため期待できる。
	○	百貨店（営業企画担当）	・新たな景気対策の打ち出しや株価上昇等により、年末年始に向けて消費動向の変化に期待したい。
	○	百貨店（経営企画担当）	・2025年になり毎月来客数や売上の前年割れが続いていたが、今月は前年比100%を超える見込みである。少しずつであるが、購買に回復の兆しがみえ始めており2～3か月先は今年よりも良くなる見込みである。
	○	スーパー（店長）	・新政権になり物価高対策が加速化することが期待できる。ガソリン価格の下落や給付付き税額控除等で消費者に余力が出てくることを見越しており、今年の歳末セールでは期待をしている。
	○	スーパー（総務担当）	・気温の低下とともに鍋商材など生鮮品の売上が良くなっていくと予想している。また、例年、年末年始に向けても生鮮の売上が良くなる傾向がある。加えて、新政権の支持率が高いこともあり、株価が最高値を更新しており消費喚起にプラスの材料が多くなっている。政府による物価高対策が講じられれば、景気が上向くことも期待できる。
	○	スーパー（従業員）	・新政権に代わって、新しい経済政策が期待できる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・今後の物価高対策に期待している。
	○	家電量販店（従業員）	・急に寒くなり暖房の需要が増えたため、売上が若干良くなる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・年末年始に向けて新年の需要増加やマイナーチェンジ等もあるため、来客数が増えると見込んでいる。
	○	乗用車販売店（役員）	・11月には年末商戦に先駆け大型イベントの企画をしており、来客数や注文数に期待ができる。
	○	乗用車販売店（代表）	・新政権誕生で経済が良くなることに期待したい。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・これから年末にかけてコーヒーの売上が多くなる時期となり、特に年末の需要は年間を通して1番大きな動きがある。また、インバウンドも若干増えており、2～3か月先の景気は良くなると見込んでいる。
	○	高級レストラン（経営者）	・来月、再来月は忘年会の時期となり1番の繁忙期である。徐々に予約が増えているため、今年より売上が良くなることは間違いないが、例年の年末の比較がどうなるか期待したい。
	○	一般レストラン（スタッフ）	・暑すぎた夏は終わり、気温も下がり年末需要に期待している。首相も代わり、これからの経済政策に期待している。
	○	スナック（経営者）	・積極財政を打ち出す内閣が組閣され、消費マインド上昇が見込める。
	○	観光型ホテル（総務）	・例年年末へ向けて景気が良くなる。
	○	観光型ホテル（支配人）	・前年並みの動きではあるが、新首相の対策に期待している。
	○	旅行代理店（統括者）	・株価も上がり、好業績の企業が増加するものとみられる。
	○	タクシー運転手	・ゴルフのイベントに期待している。
	○	タクシー（統括者）	・乗務員増加に特化した対策を短期的に実施することで、やや良くなると予想している。
	○	観光名所（従業員）	・通常、雨期や夏休みシーズン終わりのタイミングで来店客等が落ち着くが、本年はその傾向が薄く、閑散期に入る12月以降も例年以上の売上が見込まれる。
	○	観光名所（職員）	・秋のイベント開催が続いており、株価上昇で景気浮揚の気運が期待できる。
	○	美容室（経営者）	・年末になり、物価の動きや人の動きも多くなり、ファッション業界も向上するようにみられる。それと同時に活発な景気対策が行われると期待しており、ネット業界や商品の動きも活発になり景気は回復すると予想している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	理容室（経営者）	・11月以降は業種的に年末に向け、徐々に来客数の回転率が良くなるため、売上も良くなると予想される。全般的に来客数は増えてくる状況であるため回復してくる。
	○	美容室（経営者）	・12月は1年で1番忙しい月となるが、厳しい状況には変わりがないため施策を講じてほしい。
	○	美容室（店長）	・新政権になったため、景気が良くなることが期待できる。
	○	住宅販売会社（従業員）	・将来的な景気について、新首相が打ち出した政策への期待感はあるが高くなっている。しかし、景気が良いのは株価だけになることも懸念している。
	□	商店街（代表者）	・季節の変化で気候に合ったものを購入するが、必要な物以外は購入しない傾向があるため景気に変化はない。
	□	商店街（代表者）	・商店街の専門店は厳しい商況が続くと覚悟している。
	□	商店街（代表者）	・景気が良くなる要因がないため、やや悪い状況が続いていく。
	□	商店街（代表者）	・経済や社会的な環境について、消費者の不安の声をよく聞くため今後の景気も変わらない。
	□	商店街（代表者）	・季節が徐々に涼しくなっているが、今年の年末商戦は一段と激しくなると予想される。今年の当商店街では、前年と違い厳しい年末を迎えることが目に見えており、一層力を入れていきたい。
	□	一般小売店〔青果〕（店長）	・単価的に落ち着いているが、全国的に低温になった場合、きゅうりのように引き合いが強くなると予想される。北日本の玉ねぎ、人参などが農産物の全国15%程度を占めているが、高齢化や人員確保の問題、2～3年前からの飼料・燃料費の高騰に加えて、給食関係や小売で需要中心となるため、平均的に野菜の値段は高くなり、非常に厳しい状況が続くと判断している。
	□	一般小売店〔精肉〕（店員）	・人件費などの諸経費の高騰により、売上増加の効果を相殺しかねないため景気は変わらない。
	□	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・例年であれば年末に向けて多少の売上はある。新首相となり、今後の景気回復に期待したい。
	□	百貨店（企画担当）	・年末商戦に入るが、ギフト需要が余り見込めず、その傾向は変わらないと予想している。
	□	百貨店（企画担当）	・引き続き値上げ等が発生することが見込まれるため、現状と大きく売上は変動しない。
	□	百貨店（企画担当）	・新たな連立政権が樹立され、少数与党ではあるものの政権運営が安定して減税などの経済対策が実施される見込みが立てば消費が喚起されるとみられるが、実現性は不透明である。
	□	百貨店（経理担当）	・物価高の影響により全体的に苦戦を強いられている。宝飾等の高額商品は売れてはいるが、紳士及び子供関連の売上が特に苦戦している。インバウンド需要はやや回復傾向である。
	□	百貨店（業務担当）	・秋物商戦がないまま11月に突入しギフトや年末商戦に入っていくが、米や食材の値上げが落ち着いておらず、今は商品の価格が高いと刷り込まれている客が多く、財布のひもがより固くなっている。
	□	スーパー（店員）	・国政は変わりつつあるが、実生活は簡単に変わらないと予想している。給付金の配布も不明であるため、しばらくは今の景気状態が続く。
	□	スーパー（企画担当）	・参議院選挙以降、これまで政府の経済対策が行われず景気に特に変化がなかった。経済対策により景気が好転することも考えられるが、2～3か月では効果が望めず、変わらない状況が続くと見込んでいる。
	□	スーパー（経理担当）	・値上げによる単価上昇の影響により、買い控えを招く恐れがあると予想している。
	□	コンビニ（経営者）	・楽観的に考えた結果、値上げにより客がどこまで購入できるのか不安はあるが、当面は今のトレンドが続くと考えている。
	□	コンビニ（経営者）	・物価上昇対策が打たれることで年末年始の消費がプラスとなり、来客数や購入量が増加すると予想している。
	□	コンビニ（経営者）	・現状のままでは景気改善の要素は見当たらない。
	□	コンビニ（経営者）	・来客数が増加し売上も増加している。この状況は10～12月まで継続すると予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	衣料品専門店	・良くなる要因を感じない。
	☐	衣料品専門店（店長）	・景気が回復し、生活しやすい状況になることを願っている。
	☐	衣料品専門店（取締役）	・新政権が安定するかはまだ不透明であるが、議員が政策に一致団結して取り組めば若干の希望はみえてくると考えている。今の段階では株が上昇しているだけで、実際の生活には何も変化はなく翻弄されないよう注視したい。
	☐	家電量販店（店長）	・今月は業界全体がやや上向きであるが、要因がはっきりせず今後は不透明である。
	☐	家電量販店（店長）	・毎月販売する商品に何らかの値上げが発生しており、消費者の収入が増えないため金を使う意欲が減少している。
	☐	乗用車販売店（役員）	・メーカーの生産状況から受注可能車種が極端に少なくなっており、今後不安が残っている。一方、受注残からの配車は増加する見込みであるため、販売には期待したい。
	☐	住関連専門店（経営者）	・10月に入っても食料品の値上げが続いているが、新首相に変わり経済対策が最優先課題となっている。しかし、効果が出るまでに時間が必要となり、効果が出るのか疑問である。置き家具業界は依然として低迷している。
	☐	観光型ホテル（営業）	・景気は悪くはならないと予測しているが、年度内は勢いに欠け、良くなる兆しがない。
	☐	観光型ホテル（専務）	・団体客が以前と変わらず入ると予想しているが、寒くなるため客足に影響すると危惧している。
	☐	旅行代理店（職員）	・12～1月の個人旅行の平均単価は上昇するが、集客が10月ほどないため売上は変わらないと予測している。
	☐	旅行代理店（統括者）	・法人客では、新政権の発足により株価上昇となり、今後も堅調な需要が見通せる。一方、個人客では円安が進む傾向にあり、せっかく戻りつつある海外旅行需要が先行き不透明となる要素が増している。
	☐	タクシー運転手	・首相が交代し、物価の安定と収入の増加を期待しつつも未知数であり、急激な変化は期待できない。
	☐	通信会社（企画担当）	・しばらくは既定予算の執行や計画案件の消化が中心となる見通しで、景況感としては横ばいが続くともっている。
	☐	通信会社（社員）	・前年比では良い状況にあるため、このまま3月まで維持できると予想している。
	☐	通信会社（役員）	・新首相の打ち出す政策次第では改善する可能性はあるが、現時点では景気が好転する兆しが不透明である。
	☐	通信会社（企画担当）	・光回線の販売件数の低迷が続いており、解約件数と引き抗している。その状況が変化する兆しを見いだせていない。
	☐	テーマパーク職員	・来客数の微増傾向が続いており、今後も現状が維持されると予想している。
	☐	競馬場（職員）	・現時点では、変化を判断する要素は見当たらない。
	☐	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・季節要因の影響により冬は売上が落ちるため、今月より若干悪くなるか、横ばいが予想される。
	☐	設計事務所（所長）	・今月の仕事量ではやや良い状態が続くため、3か月先の状況は変わらない。
	☐	設計事務所（所長）	・材料や製品の単価、人件費増加で、住宅の着工量が減っている。生活必需品の価格も上昇傾向であり、経済は世界情勢による影響が大きく、先行き不透明である。
	☐	設計事務所（代表）	・新政権の対策次第である。
	☐	住宅販売会社（従業員）	・一定数の客の動きはあるため、受注に関しては今の状況は続く。
	▲	商店街（代表者）	・株価は上昇しているが、一般消費者の経済は潤っていないため、買い控えが多くなると考えている。今後の政府の経済対策も先行き不透明で、米国と中国の関係も不安定な状態を感じている。
	▲	スーパー（店長）	・物価の上昇が止まらず、所得増加が見込まれないため、消費意欲は一層減退し景況感は悪化する。
	▲	コンビニ（経営者）	・今後も給与が上昇する気配がない。
	▲	コンビニ（エリア担当・店長）	・年末にかけての予約商品であるおせちや冬ギフトは、まだ売上に繋がっておらず、単価上昇による値上げが原因とみられる。また、年賀はがきの単価も上がり、今年の年末年始の売上は余り望めそうにない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	家電量販店（店員）	・年末に向けて物入りの時期になるが、景気動向の変化は感じない。世界的に株高傾向にあるが、一部の急激な株高の影響を景気回復と捉えることは間違った考えである。
	▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・現在が特需となっており一時的に好景気で湧いているにすぎないため、映画館の好調が終わったタイミングでモール全体が落ち着いてしまうとみている。現在の好景気でもアパレル業種としては苦しい推移が継続しており、浮上の兆しはみえておらず、開発側からの販売促進支援等のソフト面を検討しているものの、外的要因まではカバーできないとみられる。
	▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・国内客の動きに影響を与える物価上昇は、新内閣でも継続しており、むしろ加速すると予想するが、2～3か月では物価高対策の実施と効果が出ないと予想している。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・ホテルにとっては10月や11月が繁忙期であり、年間でも需要が高い月である。1～2月もインバウンドの需要は高いと予想されるが、単価などは下がる見込みである。
	▲	ゴルフ場（従業員）	・天候にもよるが、急な寒気で客足が鈍ることが心配である。
	▲	ゴルフ場（営業）	・例年、1月の来客数は少ないと見込んでいる。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・他業界の賃上げにより介護業界との賃金差が更に広がっており、現時点でも困難な採用環境が一層厳しくなってくるのが想定される。それにより会社のサービス提供量が減少し、減収につながる可能性がある。
	▲	住宅販売会社（代表）	・集客や金利引下げ、補助金など景気対策の効果がなければ悪くなる一方と考えられ、現状として良くなる好材料がない。
	×	—	—
企業 動向 関連 (九州)	◎	—	—
	○	化学工業（総務担当）	・損益は前年比で回復傾向にあり、同様の状況が続くと予想している。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・2～3か月の状態から判断すると、受注量が不安定であったため在庫量が少なくなっていると予測される。そのため、その補充が考えられ、少しずつであるが良くなると予想している。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	・当社では打ち上げられた人工衛星の小衛星の製作の一部機器を担当しているが、次回の搭載も計画されており、次世代を担う従業員へのアピールになるとみている。現状の仕事だけでなく、明るい将来に投資することも重要である。
	○	輸送業（従業員）	・年末に向けイベントも多くなり、周囲の動きは多少良くなる。
	○	輸送業（総務担当）	・相変わらず自動車関係の貨物については荷動きが悪いが、全体的に物量が増え始めている。政府による物価高騰経済対策に期待している。
	○	金融業（営業）	・新首相の誕生と株価の史上最高値など明るいニュースが多いため、物価高による景気後退は懸念材料であるが、所得も増え現在のところ心配はしていない。
	○	金融業（営業担当）	・新たな首相が誕生し、物価高対策を始めとした景気対策に期待している。
	○	新聞社〔広告〕（担当者）	・新内閣に期待をしている。
	○	経営コンサルタント（社員）	・パンフレット配布の成果に期待している。
	□	農林水産業（経営者）	・多少の懸念材料はあるが、これから年末年始に入るため消費は期待できると予想される。しかし、原料となる鶏が3年前の鳥インフルエンザの影響により若干少なくなっているため、工場稼働への影響や供給にも影響を来すことが考えられ危惧している。今年は既に発生している地域があり、3年前のような大きな被害がないことを祈っている。
	□	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・受注見込みから判断すると景気は変わらない。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・製造業であるため、ふるさと納税が直接収益に響く状態になっており助かってはいるが、今後少し落ち込むのではないかと危惧している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	金属製品製造業（事業統括）	・これ以上景気が良くなる要因が考えられない。
	☐	電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客の業績目標情報からは、変わらないと予測している。
	☐	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・客先の生産台数は、上期の増産の結果、下期も予算より上振れ傾向が続く。
	☐	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・年内での動きは望めないが、来年には少しずつ増産できる見通しである。
	☐	輸送業（従業員）	・物流施設が続々と着工・しゅん工しているが、満床になる施設は少なく料金を下げて入居してもらうことも視野に入れなければいけない状況である。特に、当県やその近隣では施設数が多く、消費地のため需要はあるが料金をできるだけ抑えたい荷主が多く、契約まで時間が掛かる状況になっている。
	☐	通信業（職員）	・公共工事については年度末に工期のものが多く、今後の発注量は多くないと予想される。民間工事でカバーできる量にも限界があり、状況が大きく好転する可能性は低い。
	☐	通信業（経理担当）	・賃借しているオフィスに関して、首都圏のみならず地方都市の物件についても、貸主から賃料の値上げ要請が続いている。今後の交渉次第ではあるが、ある程度業績に与える影響が出てくると考えている。
	☐	通信業（統括者）	・顧客のビジネスリスクへの対応に関する投資については一定の伸びはあるものの、積極的な設備投資について意欲的とは言いがたく、景気に大きな変化はない。
	☐	金融業（経営者）	・受託調査の引き合いがなく、他の調査会社においても同様の傾向である。
	☐	金融業（調査担当）	・関税の影響を見極める状況が続く、状況を把握しながらの現状維持が見込まれる。
	☐	金融業（調査担当）	・新政権の経済政策等に期待する声を聞くものの、物価高の影響は企業の生産活動や個人消費など多方面に及んでおり、景気については、当面は現状の水準での推移を見込んでいく。
	☐	不動産業（経営者）	・この先の仕事の受注内容等は、現在と余り変わらず現状維持である。
	☐	広告代理店（役員）	・2～3か月先を押し上げる要因は、現時点では明確ではない。
	☐	経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス数や問合せ件数に大きな変化がない。
	☐	経営コンサルタント（社員）	・消費者の購買意欲が、安い商品にシフトしている。
	▲	家具製造業（従業員）	・情報や案件により、年内までの景気はやや下降を予想しており、年明けから年度末に期待している。
	▲	広告代理店（従業員）	・新聞広告・折込広告業自体が全体的に前年割れの状態となっており、今後もこの傾向は続く予想される。新内閣が発足したがその効果も限定的であり、3か月後もやや悪い状態が続く。
	▲	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・今年度の高齢者や障がい者に関する調査、計画策定以外の業務は、9月の補正予算でも計上されたものが少なく、今後は発注される業務が少ないと予想されるため、景気はやや悪くなるとみられる。
	×	繊維工業（営業担当）	・毎月倒産や閉鎖をしている企業があり、このままでは1年もたないところが多いと予測される。1500円まで賃金が増えるのであれば、それまでに工場はほとんどなくなると危惧している。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	・需要低迷の状況は今しばらく続くと思われる。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	・年末に向けて、需要が見込まれる。
	☐	人材派遣会社（社員）	・年末年始の休暇もあり、求職者の動きや派遣受注等の動きも再度鈍くなる。しかし、年末年始は繁忙期となるため販売等の需要や業務対応などの問合せにも動く可能性があるため、景況としては変わらず横ばいを予想している。
	☐	人材派遣会社（社員）	・先行きが不透明となっており、雇用の求人数が大きく増えないと見立てている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	新聞社〔求人広告〕（社員）	・行事やイベントを含む季節需要が景気上昇につながることで期待できる。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・消費税やガソリン税など減税の声もあるが、すぐに効果は出ないとみられる。景気が国の経済政策などに左右されるようであるが、当面良くも悪くもない今の状況が続くと予想される。
	□	職業安定所（職員）	・全体の求人数は減少しているものの、リゾート施設や娯楽業、農林漁業、運輸業で前年より新規求人数が増加している。最低賃金の発効後の動きを注視する必要がある。
	□	職業安定所（職員）	・新規求職者数及び新規求人数は前年比で微減の状況である。人手不足は継続しており雇用状況の急激な変化は見受けられない。
	□	学校〔大学〕（就職支援業務）	・米国政権が打ち出す、米国への輸出品に対する関税措置や自国優先主義を前提とする政策、米中貿易交渉の先行きへの不透明感など国際経済の不確実性を高めている。また、国内では、新内閣の政権運営能力や少数政権政党としての衆参両議会の議会運営も困難が予想され、先行きの不透明感が非常に強い。為替相場や株価も大きく影響を受けており、物価高騰は収まる気配がなく、実質賃金が大幅に改善する見通しも立たないため、景気が上向く実感がない。
	□	学校〔専門学校〕（就職担当）	・物価上昇が続いており、消費者の節約志向が更に続くため、身の回りの経済活動全体がやや鈍化する可能性がある。
	▲	人材派遣会社（社員）	・年末年始は求職者の動きが若干落ち着いてくる。お歳暮関係の短期派遣の注文が入る時期であるが、新規での問合せではなく、既存客からの注文のみである。また、人数についても前年と同じ人数で賄える程度である。
	▲	人材派遣会社（社員）	・いよいよ最低賃金引上げが実施されるが、その結果として採用抑制や求人への制限を掛ける企業が増えることが予想されている。
	×	—	—

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (沖縄)	◎	コンビニ（店長）	・年末年始の連休で、人の動きが活発になるとみている。
	◎	通信会社（営業担当）	・新首相就任により、改善していくとみている。
	○	一般小売店〔酒〕（店長）	・新首相には、物価対策から早急に取り組んでほしい。
	○	一般小売店〔土産〕（営業部長）	・観光客の増加が見込まれるが、商品価格の改定を予定しているため、購買行動に影響が出ることを懸念している。
	○	百貨店（経営担当）	・気温低下により高単価の冬物衣料の需要が活発になり、贈物需要も高まるとみている。
	○	コンビニ（経営者）	・年度末にいろいろなイベントが計画されているため、来客数も増えると期待される。
	○	家電量販店（営業担当）	・前年の省エネ家電買換えキャンペーンの反動減から、売上が回復しており、今後も同様の流れが続くとみられる。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・6月以降は販売台数が落ち込んでいるが、例年どおり年末年始にかけて新規来客数が増えるため、販売台数の回復が期待される。
	○	その他専門店〔陶器〕（製造）	・年末は観光客が増えることで、注文も増えるという。
	○	その他専門店〔書籍〕（部長）	・新首相になり景気低迷から景気回復に向かい、消費が増えるという。
	○	一般レストラン（代表者）	・歓送迎会シーズンに入ってくるため、来客数の増加が期待される。
	○	その他飲食店〔ファーストフード〕（総務部）	・年末年始にかけて国内外観光客、地元客の流動的な影響が強くなるため今年よりも良くなるとみている。
	○	観光型ホテル（総支配人）	・予約が前年比プラスを継続しており、株価も上昇傾向にある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	通信会社（サービス担当）	・物価高や端末供給の不安定さなど一時的な要因はあるものの、年末商戦や新機種の手安定供給が見込まれることから、今後2～3か月の景気は今年よりも緩やかに回復する見通しである。
	○	その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注状況は前年を上回っており、前月に引き続き好調に推移している。特に個人利用が伸長しており、最近のトレンドとなっている。
	○	住宅販売会社（営業担当）	・政治的な影響も見込むが、手取りが増えることで、住宅需要が活性化するとみている。
	□	商店街（代表者）	・街中の状況は、飲食業が多くなってきており、一定数の来客はある。一方で、物販業は苦戦している。一長一短であり、判断が難しい状況である。
	□	スーパー（企画担当）	・9月に電気・ガス料金支援が終了し、食料品の値上げが続く、家計負担が増加することで、先行きに不透明感が残る。年末商戦に向けた消費の活性化が景気を下支えることで、全体的に2～3か月先の景気は、変わらないとみている。
	□	コンビニ（店長）	・積極財政に期待する一方、物価高は続くと思われる。そのため、景気は変わらないとみている。
	□	コンビニ（経営企画担当）	・1年間の来客数の動きを踏まえると、11月以降は来客数の動きが落ち着いてくると見込んでいる。また、単価の上昇も一段落していることから、状況は変わらないとみている。
	□	衣料品専門店（経営者）	・今月は、例年以上に気温が高い状態が続いている影響もあり、客の購買意欲がみられない。景気は悪い状態であるため、客も様子見の段階である。
	□	衣料品専門店（経営者）	・時期的な影響と競合店の増加、円安や物価高騰の影響で、当店の販売価格も値上げする必要があるため、景気は変わらないとみている。
	□	乗用車販売店（経理担当）	・新政権の政策に期待したいが、その効果は先とみられる。
	□	その他飲食店〔バー〕（経営者）	・今月は良かったが来月からも良くなるような特別な理由がまだ見つからないため、良くはならないとみている。
	□	旅行代理店（マネージャー）	・会社の慰安旅行などは増えてきたが、生活へ直結する値上がりが目立ち、個人旅行はかなり目減りしている。
	□	観光名所（職員）	・当園の近辺で大きな動きがないため、特に変化はないとみている。
	□	住宅販売会社（役員）	・マンション価格の高騰に県民所得がまだ追いついていない状況から、販売価格を抑えるため、郊外に販売網をシフトしている業者が目立つようになっている。
	▲	スーパー（店舗管理）	・米卸値の下落がみえず、鶏卵相場も上昇の気配がある。そのため、家計の節約志向は年末に向けてますます強まるとみている。また、大手競合店の動向も気になる。スケールメリットで劣る分、価格競争に陥ると厳しいとみている。
	▲	コンビニ（店長）	・飲食物商材の棚替えを行っているが、物価高の影響により、新商品が高品質で高単価の傾向がある。そのため、売残りの多い新商品から、単価の低いオリジナルブランド商品への入替えを検討している。
	×	観光型ホテル（企画担当）	・10月の販売室数が前年比18%増加なのに対し、10月末時点での1月の予約室数は前年比7%減少に転じている。
企業 動向 関連 (沖縄)	◎	—	—
	○	建設業（経営者）	・まだ工事の引き合いがあり、当分続くのではないかとみられる。
	○	輸送業（総務経理担当）	・運賃交渉の成果等が出るとみている。
	○	通信業（総務）	・新政権の誕生と政策における国民の期待感がみられる。
	□	食料品製造業（役員）	・現在のところ、景気に大きな変化がみられる要因もなく、引き続き中小企業にとっては厳しい経営環境が続くとみている。
	□	窯業土石業（取締役）	・前月までの一時的な繁忙期も落ち着き、受注状況から現状維持になるとみている。
	□	広告代理店（営業担当）	・県内企業の販売促進投資は、徐々に活発的になっているが、発注量や予算が減少傾向にある。
	□	会計事務所（所長）	・年末年始の消費性向次第だが、現時点では不明瞭である。
	▲	—	—
	×	—	—

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連 (沖縄)	◎	学校〔専門学校〕（就職担当）	・現在2027年卒向け学内説明会の問合せが非常に多く、合わせて求人票が届くことが見込まれる。学生の動きも活発であり、特に4年制課程の学生は積極的にインターンシップに参加し、早期選考に臨んでいるため内々定を受ける学生も多くなるとみられる。
	○	—	—
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	・政治への期待もあるが、現在の状況は続くとみている。
	▲	人材派遣会社（総務担当）	・求人を募集しても求職者の反応は鈍く、人手不足感は続くとみている。また、最低賃金の引上げや、物価高騰による影響が大きくなるとみている。
	▲	求人情報誌製作会社（審査）	・12月の最低賃金引上げに伴う人件費増加を警戒し、採用に慎重な姿勢が強まっている。結果として求人件数が減少する可能性がある。
	×	—	—